

「安心感をもち、意欲的に学んでいる子ども」を育てるために

園から小学校へ、学びの接続期プログラム

えがおわくわく



佐賀市・佐賀市教育委員会

表紙絵・イラスト

学校法人 旭学園 佐賀女子短期大学
子ども未来学科 准教授 大江 登美子 氏



「安心感を持ち、意欲的に学んでいる子ども」を育てるために

園から小学校へ、学びの接続期プログラム

えがおわくわく



佐賀市・佐賀市教育委員会

はじめに



本市では、総合的かつ計画的なまちづくりを進めていくための指針として、平成27年度に第2次佐賀市総合計画を策定し、目指す将来像に「豊かな自然とこどもの笑顔が輝くまち さが」を掲げています。

この将来像は、本市の特長である「豊かな自然」と、次世代を担う「こども」たちが生き生きとして輝き、子どもを取り巻く大人を含め、市民みんなの笑顔がまちに広がっていくことを表しており、さらには、まちの魅力を高めることによって、多くの人が集まる賑わいのあるまちを創っていくという思いが込められております。

未来を担う子どもたちは、社会の宝です。本市では、この将来像の実現に向け、総合計画の施策の一つに「就学前からの教育の充実」を掲げ、子どもたちが健やかに育ち、心豊かで、確かな学力とたくましく生きる力を身に付けられるよう、家庭・地域・企業等・学校等が互いに連携・協力し、地域に根差した子どもの育成について、様々な取組みを行っております。

その取組みの一つである接続期プログラム「えがおわくわく」につきましては、保育所（園）・認定こども園・幼稚園等から小学校へ、子どものより滑らかな就学に資することを目的として作成しております。

このたび、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、幼稚園教育要領、小・中・高等学校の各学習指導要領の改訂に伴う内容の見直しを行い、第8版を発行することとなりました。各園・小学校の先生方をはじめ、接続期の子どもの教育に関わる皆さまに是非ご活用いただきたいと考えております。

結びに、ご指導いただきました福岡女学院大学・大学院の坂田和子教授をはじめ、ご執筆・ご助言いただきました作成委員並びに園・小学校関係者の皆様に心から御礼申し上げます。

令和2年3月

佐賀市長 秀島 敏行

「えがおわくわく」改訂にあたって



平成から令和の教育へ。平成29年3月、これからの時代に求められる教育の実現に向けて、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、幼稚園教育要領、小・中・高等学校の各学習指導要領が告示されました。私たちの予想をはるかに超えたスピードで進展する10年先の社会を見据え、学校教育の役割・方向性が示されています。

今回の学習指導要領等の改訂においては、「生きる力」が資質・能力の三つの柱で整理され、保育所（園）・認定こども園・幼稚園と小学校、さらに中学校、高等学校までを縦のつながりで見通していくことができるようになりました。

本市では、次世代を担う子どもたちが生き生きと輝くことができるように、平成17年度から保育所（園）・認定こども園・幼稚園と小学校との接続期における育ちや学びの連続性を確保するための接続期プログラム「えがおわくわく」を作成し、就学前からの教育の充実を図ってまいりました。

このたび、学習指導要領等の改訂に合わせて、『接続期プログラム「えがおわくわく」』を改訂・発行することとなりました。「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手掛かりに、児童が自己を発揮しながら主体的に学びに向かい、幼児期の教育を通して育まれた資質・能力を更に伸ばしていくことができるよう、内容を大きく見直しています。

各保育所（園）・認定こども園・幼稚園と各小学校の子どもの実態に合わせながら活用いただき、佐賀市の接続期教育で育てたい子ども像である「安心感をもち、意欲的に学んでいる子ども」を育てまいりたいと考えています。

最後になりましたが、ご指導いただきました福岡女学院大学・大学院の坂田和子教授、執筆や編集、情報提供などに協力いただきました、保育所（園）・認定こども園・幼稚園、市立小学校の皆様にご心から感謝申し上げます。

令和2年3月

佐賀市教育委員会教育長 東島 正明

「えがおわくわく」第8版刊行によせて

福岡女学院大学・大学院

坂田 和子 教授



何かをしたくなる・・・そのような心もち

安心・安全を保障し、夢中・没頭する子どもの教育を支える先生方は何と尊いことでしょう

「えがおわくわく」第8版の刊行を心からお慶び申し上げます。佐賀市は就学前から義務教育への滑らかな接続とゆるやかな段差について、全国に先駆けて2004(平成16)年に幼保小連携の取組みを始めています。多くの自治体が、福祉と教育という縦割り行政で就学前教育と小学校教育を検討する中、佐賀市は子どもに関わる福祉と教育行政の一部を同じ課に集約し、子どもを中心に福祉と教育とが一体となって幼保小連携を推進、組織改変後の現在も変わることなく連携を一体となって進めていらっしゃいます。

今回佐賀市と佐賀市教育委員会が共同で刊行した第8版の特徴は、子どもの教育が未来を生きる子どもたちにとってどうであるかを丁寧に解説しているところです。時代が平成から令和へと移り変わり、そして経済協力開発機構(OECD)は、『教育とスキルの未来:Education 2030』で共有しているビジョンにおいて、「VUCA」(Volatility:不安定、Uncertainty:不確実、Complexity:複雑、Ambiguity:曖昧)が急速に進展する世界に直面することを述べ、その中で環境、経済、社会に関する様々な課題に向けた解決策の検討と持続可能性の確保、個人・集団のウェルビーイングの追求、学ぶ者のAgency(エージェンシー)について言及しています。Agencyとは、日本で対訳がありませんが、文部科学省は「自ら考え、主体的に行動して、責任をもって社会変革を実現していく姿勢・意欲」と説明しています。平成29年3月に同時改訂(定)された就学前から高等学校までの要領等を踏まえ、各自治体が0歳から18歳までの学びをどのように教育振興基本計画に位置づけ、教育を充実・発展していくかが鍵となります。

佐賀市の接続期教育で育てたい子ども像は『安心感をもち、意欲的に学んでいる子ども』です。子どもの権利条約に批准している日本は、2016(平成28)年児童福祉法の一部改正において、子どもの意見が尊重され、その最善の利益が優先して考慮されることを明記しました。学ぶ主体である子どもの学ぶ姿をどのように見取り支えるか、子ども・児童理解が問われます。

写真1は、子どもたちが動物園で働いていた飼育員さんの姿に憧れを持ち、園での遊びを展開している様子です。写真右の女児がきりんの口元に餌を差し出している一方、写真左の男児はきりんのおしり側から出てくる糞をほうきで集めちりとりに入れています。その集め方は回数を重ねるごとに洗練されていき、糞が落ちてくるタイミングを見て集める動きは、タイミングを待つ緊張とすばやく多様な動きの連続で、見ている側にその真剣さが伝わってきました。そしてその糞は、きりんのお腹



写真1 動物園へ行った後に展開された「どうぶつえんごっこ」



写真2 動物のえさづくり

の下にもぐっている子どもがペットボトルで作った入れ物に糞を入れて落とす仕組みになっていました。

写真2は動物のえさづくりをしている女兒の様子です。平テープを束ねおもちゃの包丁でえさに見立てて何度も切っていました。切る度にザク、ザックという音がし、十分な手応え感覚を得ながら遊びに没頭していました。このように、一人一人がそれぞれに遊び込みながら思考し続け、夢中になって没頭し探究し続ける姿から見取れることは、幼児期の発達と子どもの〇〇したいという心もち(心情)を大切に先生方の子ども理解があって子どもの主体的な学びが立ち現れるということです。そして、幼児期の発達を踏まえた就学前のキャリア教育(経験したことや考えたことを自分なりに表現するなど)として、カリキュラムにデザインし、子どもの姿から絶えず先生方が実践を評価・省察し続けマネジメントしていることがこの無自覚的な学びを支えています。

また写真3は、小学校の校長先生から見せてもらった手作りトロフィーです。校長先生は自ら児童一人一人のよさを見取り、そのよさを言葉にしてトロフィーを手渡すそうです。春休み期間中、校長先生は全校児童分のペットボトルトロフィーを作り、校庭に並べ、スプレーをまんべんなくかけて乾かし新年度に備えているとおっしゃっていました。その姿に思いを馳せた時、心「で」育てようとする教育のあたたかさを感じました。このような先生方に見守られ、安心感をもち、学びゆく佐賀市の子どもたちは何と幸せなことでしょう。



写真3 一人一人のよさに対して渡される校長先生手作りトロフィー

最後になりましたが、本冊子の作成にあたり全面的なサポートをいただきました秀島敏行市長様、東島正明教育長様をはじめ、何度も話し合い対話し時間を重ねて学び合いをされた作成委員の先生方、えがおわくわくな子どもたちのイラストを表紙に描いていただいた大江登美子先生、わたくしのイラストを描いてくださった堤妙子さん、そして冊子の完成に向けて熱心に進めていただきました古賀陽子指導主事、松本佳子指導主事、西原宏一指導主事、川副清隆副課長に心より感謝と敬意を表します。

目次

はじめに

| | | |
|------|-------|---|
| 佐賀市長 | 秀島 敏行 | 2 |
|------|-------|---|

「えがおわくわく」改訂にあたって

| | | |
|-------------|-------|---|
| 佐賀市教育委員会教育長 | 東島 正明 | 3 |
|-------------|-------|---|

「えがおわくわく」第8版刊行によせて

| | | |
|-------------|----------|---|
| 福岡女学院大学・大学院 | 坂田 和子 教授 | 4 |
|-------------|----------|---|

第1章 2030年を見据えた教育

| | | |
|---|--------------------------------|----|
| 1 | 新しい時代に求められるもの | 10 |
| 2 | 0歳から18歳までを貫く「資質・能力」 | |
| | (1) 0歳から18歳までつながる保育・教育 | 11 |
| | (2) 就学前の保育・教育で育成を目指す「資質・能力」 | 12 |
| | (3) 小学校教育で育成を目指す「資質・能力」 | 13 |
| | (4) 資質・能力の育成を目指す「主体的・対話的で深い学び」 | 14 |
| 3 | 佐賀市の接続期教育と接続期プログラム「えがおわくわく」 | |
| | (1) 佐賀市の接続期教育で育てたい子ども像 | 15 |
| | (2) 接続期プログラム「えがおわくわく」 | 16 |

第2章 育ちや学びのつながりを意識した実践 ～えがおわくわく期のカリキュラム～

| | | |
|---|---|----|
| 1 | 年長アプローチカリキュラム期 | |
| | (1) アプローチカリキュラムとは | 18 |
| | (2) アプローチカリキュラムの効果 | 18 |
| | (3) アプローチカリキュラム作成・実施のポイント | 18 |
| | (4) 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(10の姿) | 19 |
| | ◇ 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(10の姿)と小学校へのつながり | 20 |
| | (5) 資質・能力を育む「学びの過程」を意識した実践 | 22 |
| | (6) 年長アプローチカリキュラム期の実践例 | 24 |
| | ◇ 実践例を読むにあたって | 24 |
| | ◇ 実践例①：「すごいぞ!何でもできるぞ!ダンボール」 | 28 |
| | 学びの育ちを確認するために～実践例①を通して見られた子どもの姿を 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿との関連で可視化すると～ | 32 |
| | ◇ 実践例②：「友達と一緒にだから、やってみたい!」 | 34 |
| | ◇ 実践例③：「明日はもっと怖くしよう」 | 38 |

2 小1スタートカリキュラム期

| | |
|--|----|
| (1) スタートカリキュラムとは | 44 |
| (2) スタートカリキュラムの効果 | 45 |
| (3) スタートカリキュラムの編成・実施のポイント | 45 |
| (4) スタートカリキュラムの計画 | 46 |
| (5) スタートカリキュラムの実践 | 52 |
| (6) 小1スタートカリキュラム期の実践例 | 53 |
| ◇ 実践例を読むにあたって | 54 |
| ◇ 実践例①：生活科「夏がやってきた～砂場でみんなと楽しい遊びを創り出そう!～」 | 58 |
| (単元計画・展開案) | 62 |
| ◇ 実践例②：国語科「場面の様子や登場人物の行動を想像して、音読発表会をしよう」 | 66 |
| (単元計画・展開案) | 70 |
| ◇ 実践例③：特別活動「みんなあそびをしよう」 | 74 |
| (活動の流れ・展開案) | 78 |
| ◇ 学習評価 | 81 |

第3章 交流を通じた相互理解

1 園と小学校の交流

| | |
|---------------|----|
| (1) 保育者と教師の交流 | 84 |
| (2) 園児と児童の交流 | 85 |

2 育ちや学びをつなぐ要録の活用

| | |
|------------------|----|
| (1) 内容を理解するポイント | 86 |
| (2) 小学校で活用するポイント | 87 |

参考資料

| | |
|--|----|
| 資料1 児童の権利に関する条約(子どもの権利条約) | 90 |
| 資料2 児童福祉法(抄) | 91 |
| 資料3 幼保小連携・接続関連項目(保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、幼稚園教育要領、小学校学習指導要領より抜粋) | 92 |
| ●参考文献 | 93 |
| ●えがおわくわく第8版 作成委員 | 94 |

第1章

2030年を見据えた教育

～ 目 次 ～

| | | |
|----------|--------------------------------------|----|
| 1 | 新しい時代に求められるもの | 10 |
| 2 | 0歳から18歳までを貫く「資質・能力」 | |
| | (1) 0歳から18歳までつながる保育・教育 | 11 |
| | (2) 就学前の保育・教育で育成を目指す「資質・能力」 | 12 |
| | (3) 小学校教育で育成を目指す「資質・能力」 | 13 |
| | (4) 資質・能力の育成を目指す「主体的・対話的で深い学び」 | 14 |
| 3 | 佐賀市の接続期教育と接続期プログラム「えがおわくわく」 | |
| | (1) 佐賀市の接続期教育で育てたい子ども像 | 15 |
| | (2) 接続期プログラム「えがおわくわく」 | 16 |

1 新しい時代に求められるもの

「Society5.0」時代の到来。今、私たちはかつてない大きな社会の変革期にいます。

「Society5.0」とは、人工知能（AI）、ビッグデータ、Internet of Things（IoT）、ロボティクス等の先端技術が高度化し、あらゆる産業や社会生活に取り入れられた社会のことです。

次世代の子どもたちが、このAIを中核とした革新的な変化が起こるであろうこれからの未来を、豊かに生き抜いていく力を身に付けることができるように、必要な環境を整えていくことは、私たち大人の責務であり、とても重要なことです。

「Society5.0」

⇒AI 技術の飛躍的な発達
⇒定型的業務等は、AI により代替
⇒産業の変化、働き方の変化

◇経済や文化など、国境を超えて活性化
⇒多様な人々とのつながりの緊密化
◇情報が、広範囲かつ複雑に伝播
⇒加速度的な変化と予測困難な社会

人間の強み

場面や状況を理解して自ら目的を設定し、目的に応じて必要な情報を見いだす。
⇒「自分の考えをまとめる」、「相手にふさわしい表現を工夫する」、「多様な他者と協働する」⇒目的に応じた納得解を見いだすことができること。

このような現状の中、2030年とその先の社会の在り方を見据えたとき、保育・教育を通じて育てたい子どもたちの姿は、次のように描くことができます。

育てたい子どもの姿（18歳の姿）

社会的・職業的に自立した人間として、我が国や郷土が育んできた伝統や文化に立脚した広い視野を持ち、理想を実現しようとする高い志や意欲をもって、主体的に学びに向かい、必要な情報を判断し、自ら知識を深めて個性や能力を伸ばし、人生を切り拓いていくことができる。

対話や議論を通じて、自分の考えを根拠とともに伝えるとき、他者の考えを理解し、自分の考えを広げ深めたり、集団としての考えを発展させたり、他者への思いやりをもって多様な人々と協働したりしていくことができる。

変化の激しい社会の中でも、感性を豊かに働かせながら、よりよい人生や社会の在り方を考え、試行錯誤しながら問題を発見・解決し、新たな価値を創造していくとともに、新たな問題の発見・解決につなげていくことができる。

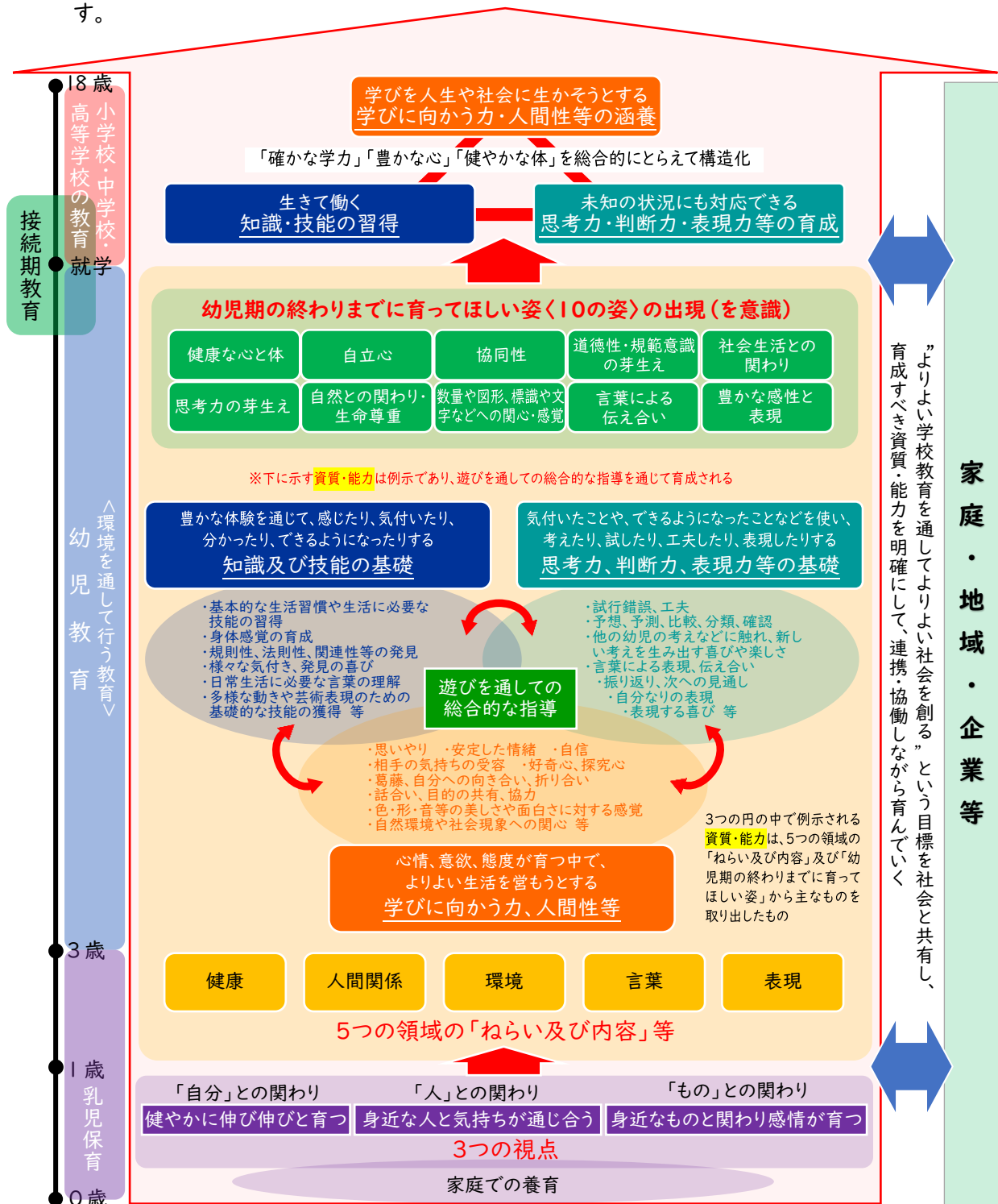
そこで、**資質・能力の育成** が求められている。

- ① 「何を理解しているか、何ができるか（生きて働く「知識・技能」の習得）」
- ② 「理解していること・できることをどう使うか（未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成）」
- ③ 「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の涵養）」

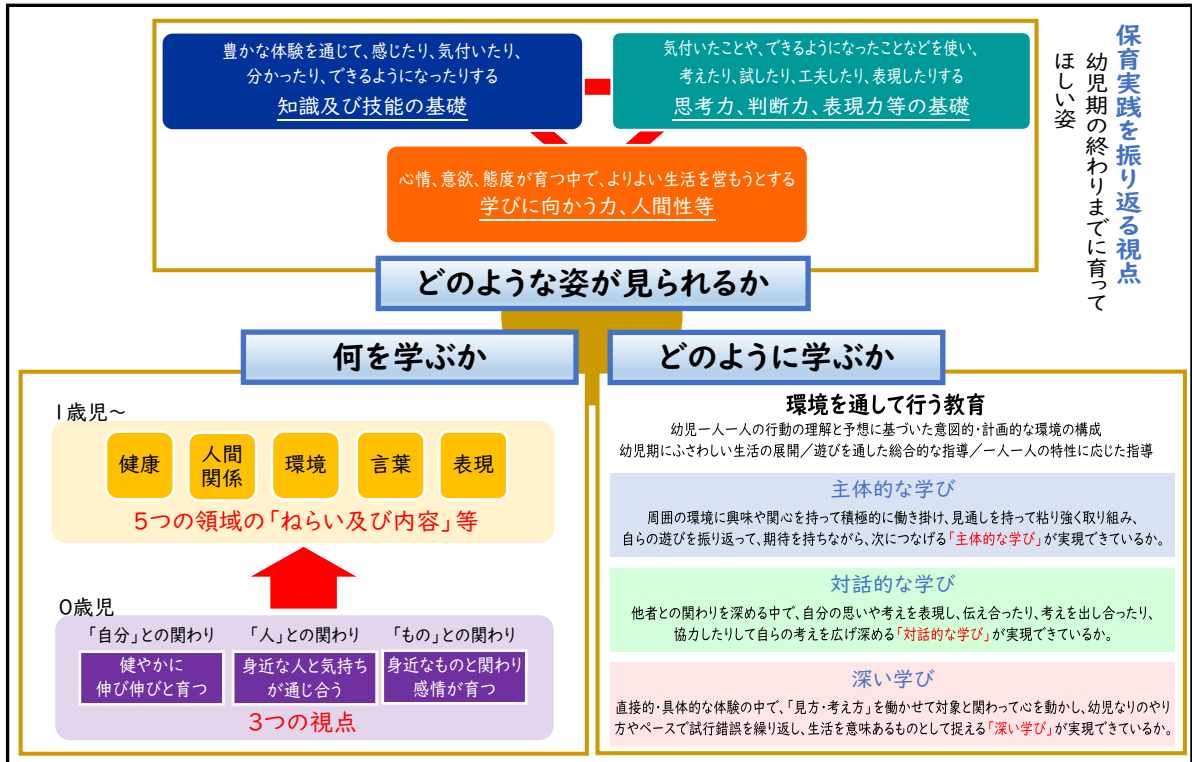
2 0歳から18歳までを貫く「資質・能力」

(1) 0歳から18歳までつながる保育・教育

幼稚園教育要領、小学校・中学校・高等学校の学習指導要領では、「一人一人の子どもが、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値ある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるように培っていくことが求められる」とされ、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領でも同様のことが示されています。これを実現していくためには、幼児期の教育の基礎の上に小学校以降の教育がつながることを見通しながら、子ども一人一人の資質・能力が育まれ、伸ばせるように保育・教育していくことが重要です。



(2) 就学前の保育・教育で育成を目指す「資質・能力」



©2020 Sakata Kazuko・佐賀市

ポイント①： 学びの基盤は0歳児から（3つの視点と5領域）

- ◆ 3～5歳児だけでなく、1～2歳児にも5領域、0歳児には3つの視点が定められた
- ◆ 0歳児から視点や領域に基づく育ちの積み重ね
- ◆ 安心感を基礎として、発達に応じた様々な体験を通して学びの芽が育まれていく

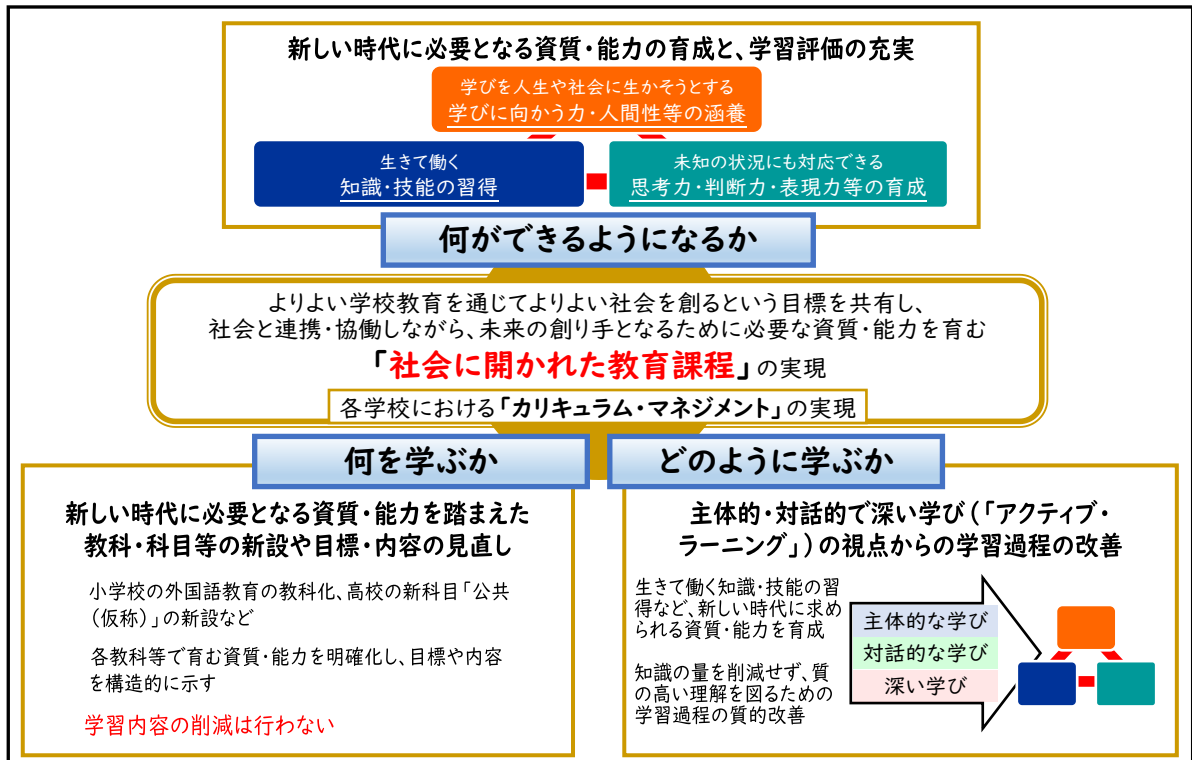
ポイント②： 環境を通して行う教育と非認知能力

- ◆ 幼児教育では、子どもが保育者（本誌では保育士・保育教諭・幼稚園教諭のことをまとめて「保育者」と記載する。）や身近な人、時間や空間・教材、行事等の「ひと・もの・こと」に主体的に関わり、夢中になって遊び楽しむ中で、学びの芽が育まれる「環境を通して行う教育」が重要
- ◆ 幼児期に育てたい非認知能力は、「最後までやり抜こうとする力」「気持ちをコントロールする力」「コミュニケーションする力」であり、安心感・自己肯定感を基礎として育まれていく

ポイント③： 一人一人のよさや可能性を大切にすまなざし

- ◆ なぜそのような姿なのか、何に興味があるのか、どんな気持ちなのかを見取り理解することで、その子に必要な援助は変わる
- ◆ できる・できないではなく、「子ども自身が育とうとしていること」に目を向け、一人一人のよさを認め伸ばしていくことが重要

(3) 小学校教育で育成を目指す「資質・能力」



文部科学省:新しい学習指導要領の考え方「学習指導要領改訂の方向性」を参考に作成

ポイント①：社会に開かれた教育課程の実現

- ◆ 「社会に開かれた教育課程」は、資質・能力や学ぶべき内容を見渡せる「学びの地図」
- ◆ 学校教育だけでなく、「家庭、地域、企業等」を含めた関係者の創意工夫により、多様で質の高い学びを引き出すことができる

ポイント②：カリキュラム・マネジメントの推進

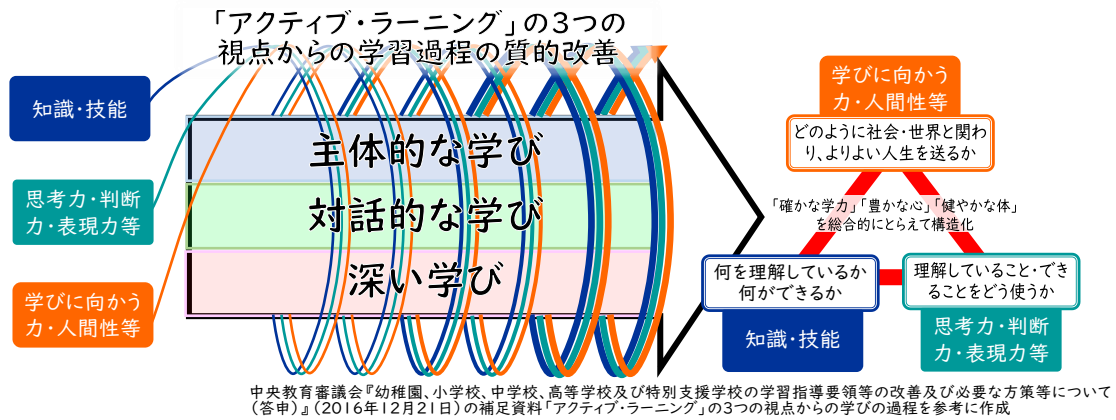
- ◆ 「教科横断的な視点」での再構成
→ 入学当初は生活科を中心に、合科的・関連的な指導と弾力的な時間割の設定が重要
- ◆ 「PDCAサイクル」の確立
- ◆ 「教育内容と人的・物的資源」の効果的な組み合わせ

ポイント③：一人一人のよさや可能性を大切にすまなざし

- ◆ 「学びに向かう力・人間性等」の涵養
→ 「①主体的に学習に取り組む態度」と「②感性、思いやりなど」で評価
- ◆ 「②感性、思いやりなど」は、個人内評価
→ 一人一人のよい点や可能性、進歩の状況などを積極的に評価し、日々の教育活動の中で、子供に伝えることが極めて重要

(4) 資質・能力の育成を目指す「主体的・対話的で深い学び」

資質・能力を育むためには、「主体的な学び」・「対話的な学び」・「深い学び」の3つの視点を取り入れて学びを作り、指導の改善を図ることが不可欠です。



【主体的な学び】

【幼児教育】

周囲の環境に興味や関心を持って積極的に働き掛け、見通しを持って粘り強く取り組み、自らの遊びを振り返って、期待を持ちながら、次につなげる「**主体的な学び**」が実現できているか。

【小学校教育】

学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「**主体的な学び**」が実現できているか。

【対話的な学び】

【幼児教育】

他者との関わりを深める中で、自分の思いや考えを表現し、伝え合ったり、考えを出し合ったり、協力したりして自らの考えを広げ深める「**対話的な学び**」が実現できているか。

【小学校教育】

子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める「**対話的な学び**」が実現できているか。

【深い学び】

【幼児教育】

直接的・具体的な体験の中で、「見方・考え方」を働かせて対象と関わって心を動かし、幼児なりのやり方やペースで試行錯誤を繰り返し、生活を意味あるものとして捉える「**深い学び**」が実現できているか。

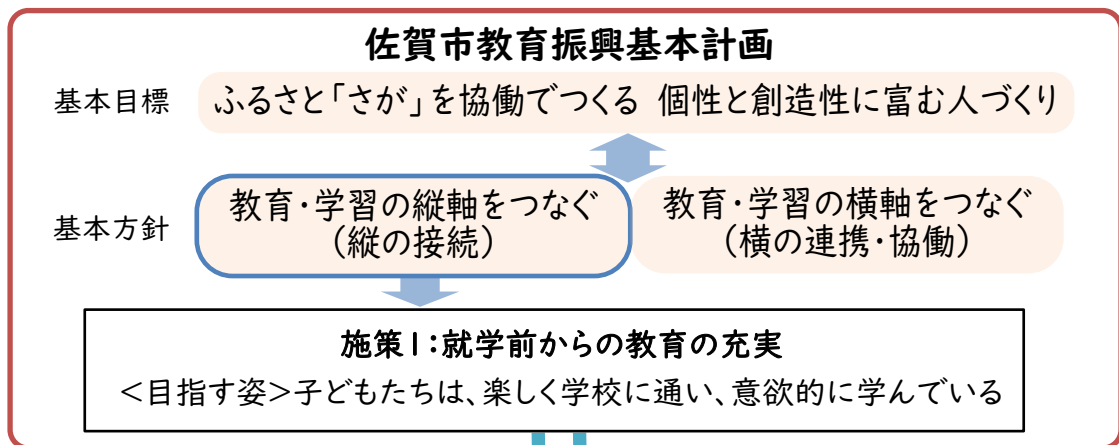
【小学校教育】

習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう「**深い学び**」が実現できているか。

3 佐賀市の接続期教育と接続期プログラム「えがおわくわく」

(1) 佐賀市の接続期教育で育てたい子ども像

『**安心感をもち、
意欲的に学んでいる子ども**』



<接続期教育で育てたい子ども像>
『**安心感をもち、意欲的に学んでいる子ども**』

どこの小学校に就学しても、自分らしく
学校生活を楽しめる子
ありのままの姿を受け止められ、認め
られることで「えがお」になる

新しい学習に関心を持ち、学ぶことを喜び、
楽しめる子
「やってみたい」「どうなるかな」「おもしろい」
「もっと」という「わくわく」の気持ち



楽しく学校に通う子どもの育ちの
すべては「安心感」から

園とは違う生活の流れ・・・
授業の始まりのチャイムが鳴りました。
涙が止まらない子どもがいます。
「思いをしっかり受け止めてもらっている子ども」
「大丈夫かな?と心配している子ども」
「そんなに気にしていない子ども」
でも「先生、早くして!」という言葉はありません。
ある佐賀市立小学校のこの教室は
「安心感」という温かい空気に包まれていました。

(2) 接続期プログラム「えがおわくわく」

接続期プログラム「えがおわくわく」は、乳児保育・幼児教育と小学校教育の接続期に関わる保育者と教師が互いの教育の特性を理解し、よりよい連携・接続を考えるために参考としてほしい接続期の教育プログラムです。



接続期プログラム「えがおわくわく」の対象期間

子どもは就学を機に、遊び主体の生活から授業主体の生活へ大きく変化します。その大きな変化の中、接続期の子どもに関わる保育者及び教師は、子ども一人一人の気持ちに寄り添い、心の安定・安心を図りながら、子どもの育ちの一貫性を保障していかなければなりません。そのためには、互いの教育について理解を深め、子どもの姿と育ちや学びの連続性を共有して、子どものよさや可能性を丁寧に見取り、伸ばしていくことが必要です。

そこで、えがおわくわく第8版では、この接続期を「**えがおわくわく期**」という一つの期間に設定し、対象期間を「**5歳児の10月から小1の7月まで**」に設定しています。

なお、本プログラムを運用する上では、就学前後で区分する必要がありますので、年長児の期間と小学校1年生の期間をそれぞれ「**年長アプローチカリキュラム期**」、「**小1スタートカリキュラム期**」と定めています。



第2章ーI

育ちや学びのつながりを意識した実践 ～えがおわくわく期のカリキュラム～

年長アプローチカリキュラム期

～ 目 次 ～

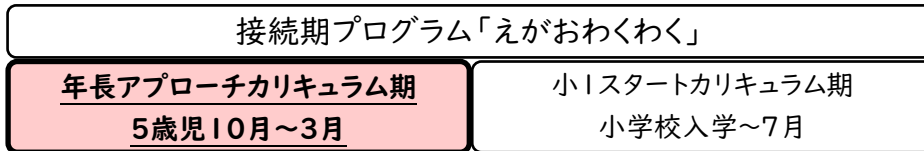
| | |
|---|----|
| I 年長アプローチカリキュラム期 | |
| (1) アプローチカリキュラムとは | 18 |
| (2) アプローチカリキュラムの効果 | 18 |
| (3) アプローチカリキュラム作成・実施のポイント | 18 |
| (4) 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(10の姿) | 19 |
| ◇ 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(10の姿)と小学校へのつながり | 20 |
| (5) 資質・能力を育む「学びの過程」を意識した実践 | 22 |
| (6) 年長アプローチカリキュラム期の実践例 | 24 |
| ◇ 実践例を読むにあたって | 24 |
| ◇ 実践例①：「すごいぞ!何でもできるぞ!ダンボール」 | 28 |
| 学びの育ちを確認するために～実践例①を通して見られた子どもの姿を 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿との関連で可視化すると～ | 32 |
| ◇ 実践例②：「友達と一緒にだから、やってみたい!」 | 34 |
| ◇ 実践例③：「明日はもっと怖くしよう」 | 38 |

1 年長アプローチカリキュラム期

(1) アプローチカリキュラムとは

➤ 幼児教育と小学校教育が円滑に接続するためのカリキュラムです

- ・ 小学校との接続の手掛かりとして示された「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10の姿）」を意識した幼児教育の充実を図ります。



(2) アプローチカリキュラムの効果

- 幼児教育と小学校教育で育まれる資質・能力の一貫性を確保することができます
- 小学校教育を見通しながら遊びや体験を豊かにしていくことで、小学校以降の安定した生活や学習の基盤が育まれます

(3) アプローチカリキュラム作成・実施のポイント

- アプローチカリキュラムでは、小学校での生活や学習を見通し、育ちや学びの連続性が見えるように作成します
 - ・ 発達段階を踏まえ、遊びや環境を通して、子どもがどのような体験をし、その過程において何が育ってほしいのかが、分かりやすく示されていることが大切です。
 - ・ アプローチカリキュラムは、5歳児担当の先生だけでなく、園全体のこととして、園長や教頭・主任をはじめ、これまでの育ちに関わってきた保育者などを含めたチームで作ることで、より良いものになります。

「幼稚園教育要領解説」第1章総説第3節5「小学校教育との接続に当たっての留意事項」より抜粋
幼児は、幼稚園から小学校に移行していく中で、突然違った存在になるわけではない。発達や学びは連続しており、幼稚園から小学校への移行を円滑にする必要がある。しかし、それは、小学校教育の先取りをすることではなく、就学前までの幼児期にふさわしい教育を行うことが最も肝心なことである。つまり、幼児が遊び、生活が充実し、発展することを援助していくことである。

【解説】

同様のことは、保育所保育指針解説、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説にも書かれています。

例えば、アプローチカリキュラムで「小学校への期待感をもつ」ことを計画する場合、ランドセルをその時期の環境として配置構成すると、学校ごっこが展開されることがあります。小学校へ行くことは楽しみである一方で自覚のない不安などもあるかもしれません。みんながいる集団での学びが展開される中で、ワクワクドキドキを経験するこの時期にふさわしい遊びの一つと言えるでしょう。

【坂田先生より】



➤ 子どもの姿を見取り、柔軟に実施することが大切です

- ・ 日々、子どもが何に興味・関心をもっているかに着目し、子どもがすることを保育者が認め、受け入れることが大切です。計画した内容に固執せずに、子どもの興味・関心の姿から、柔軟に計画を変更し、ねらいを立て直し、環境を再構成するなど、子どもの姿から軌道修正することで、主体的・対話的で深い学びにつながります。

(4) 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(10の姿)

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」は、乳幼児期にふさわしい生活や遊びを積み重ねることにより(5領域のねらいや内容に基づく活動全体を通して)、資質・能力が育まれている子どもの小学校就学時の具体的な姿を示しており、保育者が一人一人の発達に必要な体験が得られるような環境を作ったり必要な援助を行ったりするなど、指導を行う際に考慮するものです。

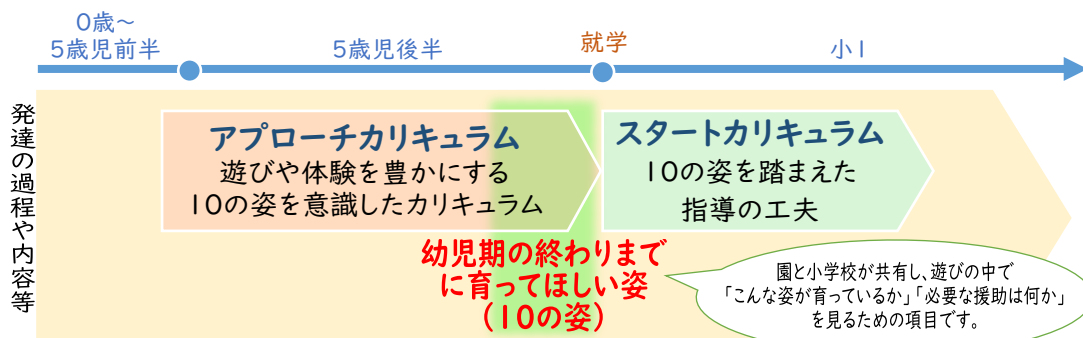
5領域と10の姿の関連性

(青字が5領域、緑字(ア~コ)が10の姿です。)

| | |
|------|---|
| 健康 | ア. 健康な心と体 |
| 人間関係 | イ. 自立心 ウ. 協同性 エ. 道徳・規範性の芽生え オ. 社会生活との関わり |
| 環境 | カ. 思考力の芽生え キ. 自然との関わり・生命尊重 ク. 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚 |
| 言葉 | ケ. 言葉による伝え合い |
| 表現 | コ. 豊かな感性と表現 |

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を理解する 重点ポイント

- ! 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿は到達目標ではありません。
- ! 個別に取り出して指導するものではありません。
- ! 5領域による保育・教育の中で、子どもの自発的な活動としての遊びを通して、一人一人の発達の特性に応じて育っていくものです。
- ! 卒園を迎える年度の子どもたちに突然みられるようになるものではないため、卒園を迎える年度の子どもだけでなく、その前の時期から、子どもが発達していく方向を意識して、それぞれの時期にふさわしい指導を積み重ねていくことが大切です。
- ! 幼児教育で培われた資質・能力を小学校教育に生かすことができるように、保育者と教師が「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手掛かりに話し合い、共有することが大切です。



◇ 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(10の姿)と

ア. 健康な心と体

園の生活の中で、充実感をもって自分のやりたいことに向かって心と体を十分に働かせ、見通しをもって行動し、自ら健康で安全な生活をつくり出すようになる。

●小学校では

小学校生活において、時間割を含めた生活の流れが分かるようになると、次の活動を考えて準備をしたりするなどの見通しをもって行動したり、安全に気を付けて登下校しようとしたりするようになる。また、自ら体を動かして遊ぶ楽しさは、小学校の学習における運動遊びや、休み時間などに他の子どもと一緒に楽しく過ごすことにつながり、様々な活動を十分に楽しんだ経験は、小学校生活の様々な場面において伸び伸びと行動する力を育てていく。

イ. 自立心

身近な環境に主体的に関わり様々な活動を楽しむ中で、しなければならないことを自覚し、自分の力で行うために考えたり、工夫したりしながら、諦めずにやり遂げることで達成感を味わい、自信をもって行動するようになる。

●小学校では

小学校生活において、自分でできることは自分でしようと積極的に取り組む姿や、生活や学習での課題を自分のこととして受け止めて意欲的に取り組む姿、自分なりに考えて意見を言ったり、分からないことや難しいことは、教師や友達に聞きながら粘り強く取り組んだりする姿など、日々の生活が楽しく充実することにつながっていく。

ウ. 協同性

友達と関わる中で、互いの思いや考えなどを共有し、共通の目的の実現に向けて、考えたり、工夫したり、協力したりし、充実感をもってやり遂げるようになる。

●小学校では

小学校における学級での集団生活の中で、目的に向かって自分の力を発揮しながら友達と協力し、様々な意見を交わす中で新しい考えを生み出しながら工夫して取り組んだりするなど、教師や友達と協力して生活したり学び合ったりする姿が見られるようになっていく。

エ. 道徳性・規範意識の芽生え

友達と様々な体験を重ねる中で、してよいことや悪いことが分かり、自分の行動を振り返ったり、友達の気持ちに共感したりし、相手の立場に立って行動するようになる。また、きまりを守る必要性が分かり、自分の気持ちを調整し、友達と折り合いを付けながら、きまりをつくったり、守ったりするようになる。

●小学校では

小学校生活において、初めて出会う人の中で、幼児期の経験を土台にして、相手の気持ちを考えたり、自分の振る舞いを振り返ったりなどしながら、気持ちや行動を自律的に調整し、学校生活を楽しくしていこうとする姿が見られるようになっていく。

オ. 社会生活との関わり

家族を大切にしようとする気持ちをもつとともに、地域の身近な人と触れ合う中で、人との様々な関わり方に気付き、相手の気持ちを考えて関わり、自分が役に立つ喜びを感じ、地域に親しみをもつようになる。また、園内外の様々な環境に関わる中で、遊びや生活に必要な情報を取り入れ、情報に基づき判断したり、情報を伝え合ったり、活用したりするなど、情報を役立てながら活動するようになるとともに、公共の施設を大切に利用するなどして、社会とのつながりなどを意識するようになる。

●小学校では

小学校生活において、相手の状況や気持ちを考えながらいろいろな人と関わることを楽しんだり、関心のあることについての情報に気付いて積極的に取り入れたりするようになる。また、地域の行事や様々な文化に触れることを楽しんで興味や関心を深めることは、地域への親しみや地域の中での学びの場を広げていくようになっていく。

小学校へのつながり（保育所保育指針解説を参考に作成）

カ. 思考力の芽生え

身近な事象に積極的に関わる中で、物の性質や仕組みなどを感じ取ったり、気付いたりし、考えたり、予想したり、工夫したりするなど、多様な関わりを楽しむようになる。また、友達の様々な考えに触れる中で、自分と異なる考えがあることに気付き、自ら判断したり、考え直したりするなど、新しい考えを生み出す喜びを味わいながら、自分の考えをよりよいものにするようになる。

●小学校では

小学校生活で出会う新しい環境や教科等の学習に興味や関心をもって主体的に関わることにつながる。また、探究心をもって考えたり試したりする経験は、主体的に問題を解決する態度へとつながっていく。

キ. 自然との関わり・ 生命尊重

自然に触れて感動する体験を通して、自然の変化などを感じ取り、好奇心や探究心をもって考え言葉などで表現しながら、身近な事象への関心が高まるとともに、自然への愛情や畏敬の念をもつようになる。また、身近な動植物に心を動かされる中で、生命の不思議さや尊さに気付き、身近な動植物への接し方を考え、命あるものとしていたわり、大切にす気持ちをもって関わるようになる。

●小学校では

小学校の生活や学習において、自然の事物や現象について関心をもち、その理解を確かなものにしていく基盤となる。さらに、実感を伴って生命の大切さを知ることは、生命あるものを大切に、生きることの素晴らしさについて考えを深めることにつながる。

ク. 数量や図形、標識や 文字などへの 関心・感覚

遊びや生活の中で、数量や図形、標識や文字などに親しむ体験を重ねたり、標識や文字の役割に気付いたりし、自らの必要感に基づきこれらを活用し、興味や関心、感覚をもつようになる。

●小学校では

小学校の学習に関心をもって取り組み、実感を伴った理解につながるとともに、学んだことを日常生活の中で活用するようになっていく。

ケ. 言葉による伝え合い

保育者等や友達と心を通わせる中で、絵本や物語などに親しみながら、豊かな言葉や表現を身に付け、経験したことや考えたことなどを言葉で伝えたり、相手の話を注意して聞いたりし、言葉による伝え合いを楽しむようになる。

●小学校では

小学校の生活や学習において、学級の友達と互いの思いや考えを伝え、受け止めたり、認め合ったりしながら一緒に活動する姿や、自分の伝えたい目的や相手の状況などに応じて言葉を選んで伝えようとする姿が見られるようになっていく。特に、戸惑いが多い入学時に自分の思いや考えを言葉に表せることは、初めて出会う教師や友達と新たな人間関係を築く上でも大きな助けとなる。

コ. 豊かな感性と表現

心を動かす出来事などに触れ感性を働かせる中で、様々な素材の特徴や表現の仕方などに気付き、感じたことや考えたことを自分で表現したり、友達同士で表現する過程を楽しんだりし、表現する喜びを味わい、意欲をもつようになる。

●小学校では

小学校の学習においても感性を働かせ、表現することを楽しむようになる。これらは、音楽や造形、身体等による表現の基礎となるだけでなく、自分の気持ちや考えを一番適切に表現する方法を選ぶなど、小学校以降の学習全般の素地になる。また、臆することなく自信をもって表現することは、教科等の学習だけではなく、小学校生活を意欲的に進める基盤ともなっていく。

(5) 資質・能力を育む「学びの過程」を意識した実践

資質・能力を育むためには、小学校教育においても幼児教育においても学びの過程を意識して実践することが重要です。

| | |
|--|---|
| <p style="text-align: center;">幼児教育における 資質・能力を育む学びの過程の考え方 幼児教育部会における審議の取りまとめ (中央教育審議会 幼児教育部会2016.8.26)より</p> <p>幼児教育において、幼児の自発的な活動としての遊びは、心身の調和のとれた発達の基礎を培う重要な学習である。(中略)幼児教育においても、資質・能力を育む上で学びの過程を意識した指導が重要である。</p> | <p style="text-align: center;">小学校教育における 主体的・対話的で深い学びの実現 幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の 学習指導要領等の改善及び必要な方策等について(答申) 補足資料(中央審議会2016年12月21日)より</p> <p>「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善を行うことで、学校教育における質の高い学びを実現し、学習内容を深く理解し、資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的(アクティブ)に学び続けるようにする。</p> |
|--|---|

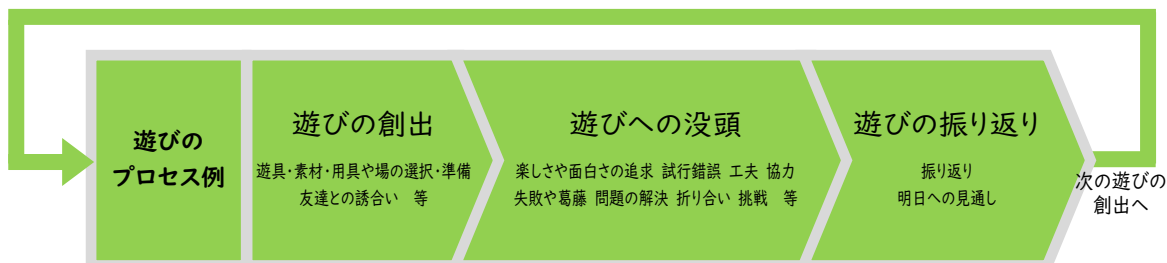
そこで、えがおわくわく第8版では、「幼児教育部会における審議の取りまとめ」で示されたイメージ図(次ページ)を参考にして、「遊び」と「単元」の学びを捉えた実践例を作成することにしました。

<実践にあたっての考え方>

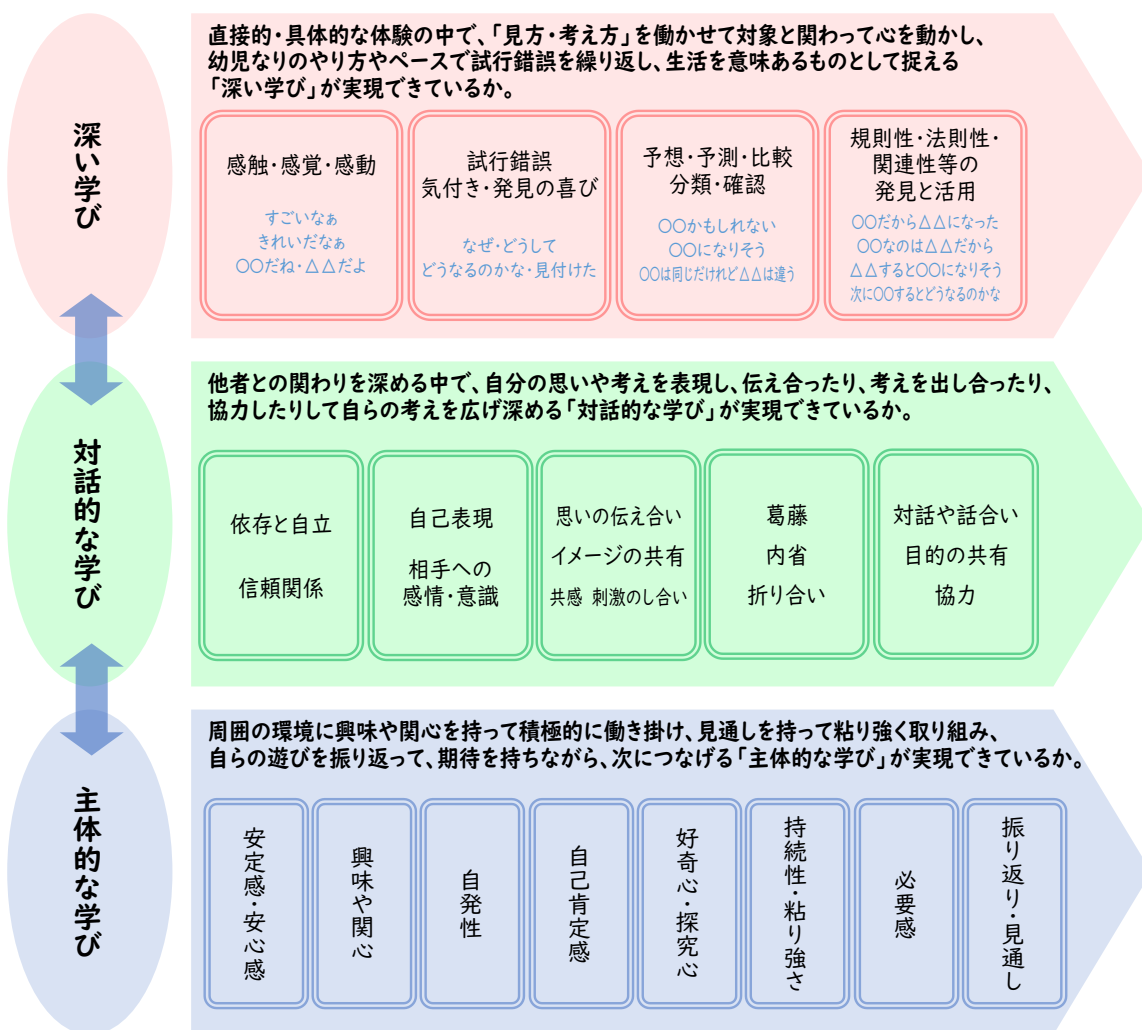
| | |
|--|---|
| <p style="text-align: center;">幼児教育部会における審議の取りまとめ (中央教育審議会 幼児教育部会2016.8.26)より</p> <p style="text-align: center;">幼児教育における 資質・能力を育む学びの過程の考え方</p> <p>○幼児教育における学びの過程は、発達の段階によって異なり、一律に示されるものではないが、一例を示すとすれば、5歳児の後半では、遊具・素材・用具や場の選択等から遊びが創出され、やがて楽しさや面白さの追求、試行錯誤等を行う中で、遊びへ没頭し、遊びが終わる段階でそれまでの遊びを振り返るといった過程をたどる。(次ページ参照)</p> <p>○前述のような学びの過程が実現するには、教員は、幼児教育において育みたい資質・能力を念頭に置いて環境を構成し、このような学びの過程の中で、一人一人の違いにも着目しながら、総合的に指導していくことが前提となる。</p> | <p style="text-align: center;">小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 総則編より</p> <p style="text-align: center;">小学校教育における 資質・能力を育む学びの過程の考え方</p> <p>○単元や題材など内容や時間のまとまりを見通しながら、児童の主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を行う。</p> <p>○児童が各教科等の特質に応じた見方・考え方を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう過程を重視する。</p> |
| <p style="text-align: center;">幼児教育における「見方・考え方」</p> <p>○幼児教育における「見方・考え方」は、幼児がそれぞれの発達に即しながら身近な環境に主体的に関わり、心動かされる体験を重ね遊びが発展し生活が広がる中で、環境との関わり方や意味に気づき、これらを取り込もうとして、諸感覚を働かせながら、試行錯誤したり、思い巡らしたりすることである。</p> <p>○また、このような「見方・考え方」は、遊びや生活の中で幼児理解に基づいた教員による意図的、計画的な環境の構成の下で、教員や友達と関わり、様々な体験をすることを通して広がったり、深まったりして、修正・変化し発展していくものである。こういった「見方・考え方」が幼稚園等における学びにつながるものである。</p> <p>○このような様々な体験等を通して培われた「見方・考え方」は、<u>小学校以降において、各教科等の「見方・考え方」の基礎になるとともに、これらを統合化することの基礎ともなるものである。</u></p> | <p style="text-align: center;">小学校教育における「見方・考え方」</p> <p>○主体的・対話的で深い学びの実現を目指して授業改善を進めるに当たり、特に「深い学び」の視点に関して各教科等の学びの深まりの鍵となるのが「見方・考え方」である。</p> <p>○各教科等の特質に応じた物事を捉える視点や考え方である「見方・考え方」は、新しい知識及び技能を既にもっている知識及び技能と結び付けながら社会で生きて働くものとして習得したり、思考力、判断力、表現力等を豊かなものとしたり、社会や世界にどのように関わるかの視座を形成したりするために重要なものである。</p> |

アクティブ・ラーニングの三つの視点を踏まえた、 幼児教育における学びの過程（5歳児後半の時期）のイメージ

幼児教育において、幼児の自発的な活動としての遊びは、心身の調和のとれた発達の基礎を培う重要な学習として位置付けられている。
下に示すプロセスは例示であり、順序を含め本例に限定されるものではない。



幼児教育における重要な学習としての遊びは、様々な形態等で構成されており、下に示す三つの学びの過程を相互に関連させながら、
学びの広がり（深い学び、対話的な学び、主体的な学び）を意識した、指導計画の工夫が望まれる



環境を通して行う教育

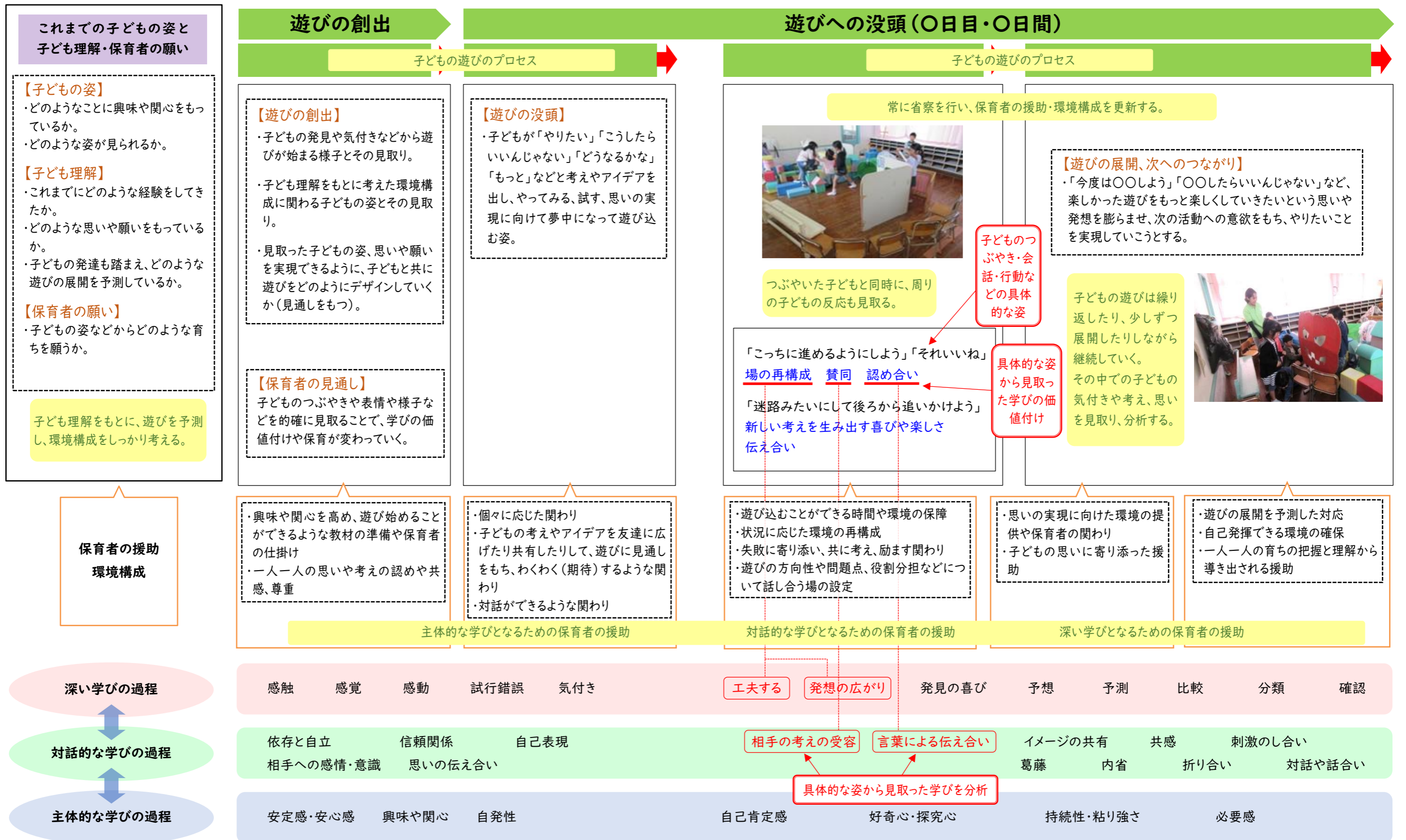
幼児一人一人の行動の理解と予測に
基づいた意図的・計画的な環境の構成

幼児期にふさわしい生活の展開
遊びを通じた総合的な指導
一人一人の特性に応じた指導

(6) 年長アプローチカリキュラム期の実践例

◇ 実践例を読むにあたって(年長アプローチカリキュラム期)

5歳児 ○月 「○○○○○○」 ねらい:○○○○○○○○○○



深い学びの過程

感触 感覚 感動 試行錯誤 気づき 工夫する 発想の広がり 発見の喜び 予想 予測 比較 分類 確認

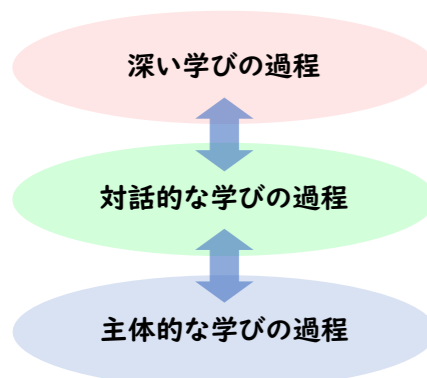
対話的な学びの過程

依存と自立 信頼関係 自己表現 相手の考えの受容 言葉による伝え合い イメージの共有 共感 刺激のし合い
相手への感情・意識 思いの伝え合い 葛藤 内省 折り合い 対話や話し合い

主體的な学びの過程

安定感・安心感 興味や関心 自発性 自己肯定感 好奇心・探究心 持続性・粘り強さ 必要感

具体的な姿から見取った学びを分析



5歳児 ○月 「○○○○○○」 ねらい:○○○○○○○○○○

振り返り

子どもの遊びのプロセス

【振り返りの例】

○子ども自身が振り返る

- ・楽しかったというだけでなく、どんなところが楽しかったのか、良かったこと、嬉しかったことは何かを具体的に振り返り、自分自身の成長を感じる。
- ・どうしたからうまくいったのか、今後どうしたいのかを振り返る中で、友達のよさに気づき、協同することや、やり遂げることの達成感や充実感を味わう。

【今後の活動につながるために】

- 子どもの振り返りを踏まえて、今後の活動につながるような保育者の関わり
- ・子どもの達成感や充実感に共感し、それを生かしてさらに楽しめるような活動について、子どもたちと話し合ったり、提案してみたりする。

- ・遊びの振り返り、話す場・聞く場の設定
- ・具体的な振り返りの視点の提示
- ・今後へのつながりに向けた関わり
- ・今後の活動に期待がもてるような関わり

主体的・対話的で深い学びとなるための保育者の援助

規則性・法則性・関連性等の発見と活用

目的の共有 協力

振り返り 見通し

【Q&A】(小学校の先生の疑問に答えます。)

- Q. 各実践例や幼児教育に関する小学校の先生の疑問です。
- A. 保育者が疑問に答えながら、それに関連した幼児教育のポイントや大切にしていることを伝えます。

【省察】

「知識及び技能の基礎」「思考力・判断力・表現力等の基礎」「学びに向かう力・人間性等」について考察している箇所を下線を引くなどの方法で、学びの育ちを確認し、振り返る。

- :知識及び技能の基礎
- :思考力・判断力・表現力等の基礎
- :学びに向かう力・人間性等

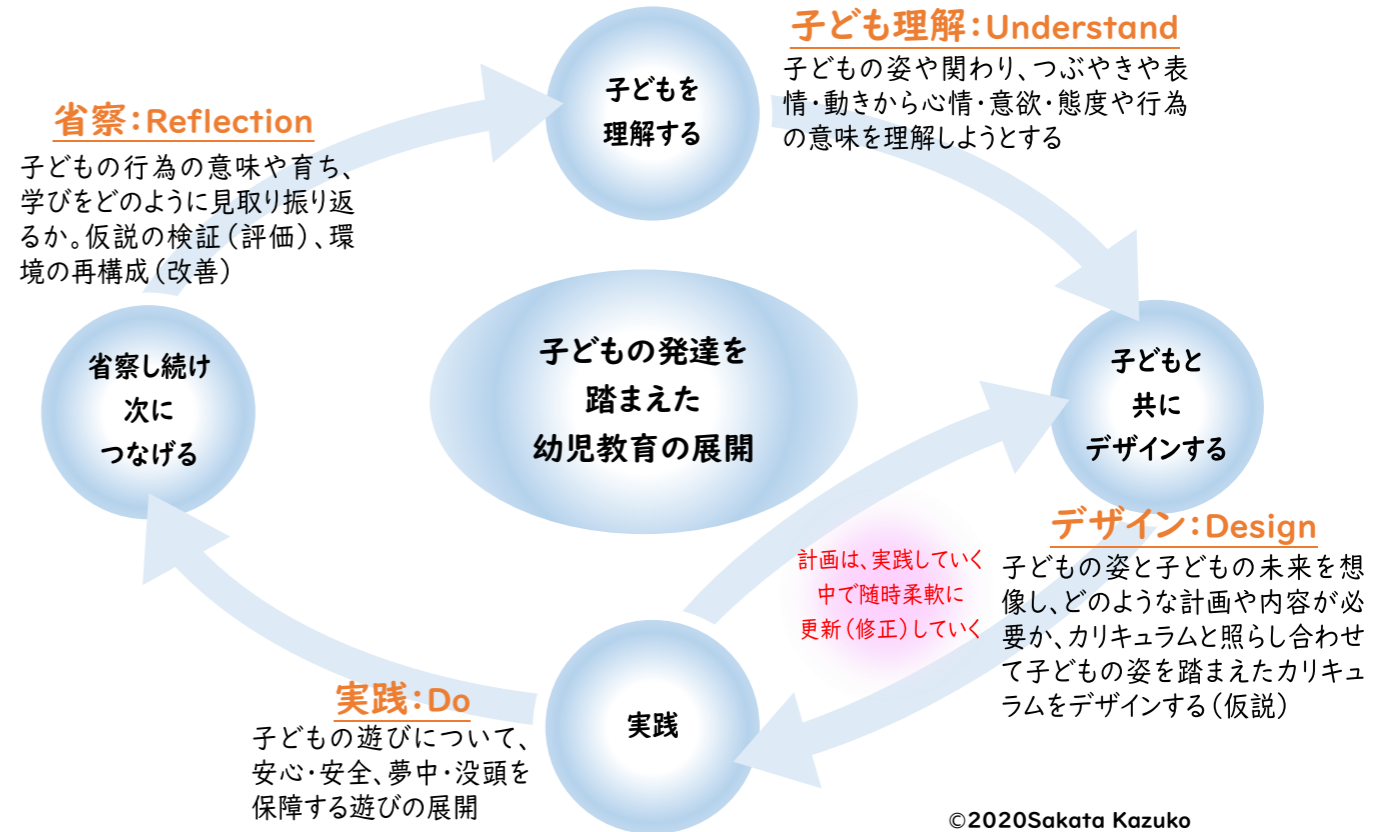
【保育者の振り返り】

- ・一人一人の特性を考慮し、思いや願いを大切にできたか。
- ・省察をし続けているか。
- ・常に適切な環境を考え、再構成をしたか。
- ・保育者の予測や計画を子どもの姿から柔軟に考え、子ども自身が意欲的に遊びを進めることができるようにしたか。
- ・一人一人の身に付いた力を見取ることで、自分が行った援助や環境構成はどうだったか。

【成果:幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(10の姿)が見えてきているか】

- ・遊びの中で見えてきた子どもの育ちの姿を10の姿から見取る。
- ・実際の子どもの姿から育とうとしているものを把握する。
- ・次の遊びへの予測や計画、そこに向かう時の育つ力を見通す。

年長アプローチカリキュラム期で大切にしたいこと



【解説】

子どもが学びの主人公となる幼児教育(主体的な学び)を展開していくためには、保育者が専門性を発揮しながら、上図のように『子ども理解(Understand)ーデザイン(Design)ー実践(Do)ー省察(Reflection)』を循環させ、改善・充実していくことが有効です。子どもの心情からはじまる学びが、さらなる意欲や態度を育む乳幼児期の発達と学びの特性を踏まえると、子どもの姿を見取り、子どもを理解することが起点になります。

次ページ以降の年長アプローチカリキュラム期の実践例には、はじめに【子どもの姿】【子ども理解】【保育者の願い】が書かれています。子ども理解を基盤に、保育者の願いや子どもの未来に思いを馳せデザインされた計画は、子ども達の遊びの創出から没頭で変化していく、保育者が随時柔軟に計画を更新(修正)していくプロセスとして見る事ができます。『行為の中の省察』(D.シヨーン)と呼ばれる保育者の専門性が現れている場面です。

各園、保育の評価にあたっては、PDCA(Plan(計画)ーDo(実践)ーCheck(評価)ーAction(改善))のサイクルで進められていると思います。佐賀市では、『安心感を持ち、意欲的に学んでいる子ども』という接続期教育で育てたい子ども像を共有し、学ぶ前提には安心感が必要であること、安心して学ぶためには子どもの思いなどの心情を大切にしています。UDDRの見方ですらに子ども理解の深化を目指しましょう。

【坂田先生より】

小学校教育の基盤となるために

安心感をもてるように

夢中になれるためには、安心して自己発揮できることが大前提です。興味・関心のほかにも、子どもの状態や得手不得手、発達など一人一人を理解することが大切です。

この時期にふさわしい育ちを大切に

やりたい気持ちと、発達段階、やれる環境が結びつくと、「考えたことを実現できる事は楽しい!」と感じる経験となり、自信につながります。

幼児教育は環境を通して行うもの

子どもが環境に主体的に関わり、興味・関心をもった事に夢中になることで、様々な学びの芽が育まれていきます。

◇ 実践例① (年長アプローチカリキュラム期)

5歳児 11月 「すごいぞ!何でもできるぞ!ダンボール」 ねらい:ダンボールや自然

物を使って、友だちとイメージを共有しながら工夫して作ることを楽しむ。

これまでの子どもの姿と
子ども理解・保育者の願い

秋の園外保育や戸外への散歩を通して、秋の自然物(様々な色や形の落ち葉、どんぐり・松ぼっくりなどの木の实、小枝など)を集めて遊びに使うことを楽しんでいる。そこで、廃材を準備し、秋の自然物と一緒に様々な工夫をして遊びを楽しめるようにした。

廃材の中でも、ダンボールへの興味は高く、たくさんの落ち葉を集めるためにダンパーやブルドーザーとして使っていたが、次第に教材の主役はダンボールになってきた。

自然物や廃材の持つ可塑性※は子ども達の好奇心や探究心を引き出すため、この時期それらを使って、試したり工夫したりして遊ぶことを大切にしている。これまでの子どもの姿から、ダンボールを追加し、協同的な遊びに発展するように環境を再構成した。

※可塑性:自在な形が作りやすい性質のこと

保育者の援助
環境構成

○活動の流れの見通し

話し合いで意見がうまく伝わるように、気持ちを確認したり、意見が出しやすい雰囲気を作ったりする。

○発想の実現に向けた教材提示

子どものイメージを聞きながら、ダンボールやガムテープなどを多めに準備する。

○子どもの発想への認めや関心

子ども達が、どんなことに気付きイメージをもっているのかを見守り、道や線路のイメージが広がるような言葉掛けをする。

遊びの創出(1~2日目)

運ぶ道具として利用 → ダンボールで道や線路を作ろう →

昨日から始まった広場での落ち葉の遊びを「明日もしようね」と話し合っていた。「おはよう!今日も、あの続きで、すくすく広場(第2園庭)に行こうね!」

遊びへの意欲 仲間意識



「ピーピー、落ち葉を運ぶダンパーが通りまーす」

「危ないですよー!」

大量の落ち葉を一度にたくさん運ぶための工夫・協力



「ダンパーの道を作ろう」
「切って、長くしたいから…ここ持って!」

遊びの発見 思いの実現 協力



「線路の線を書こう」
「同じくらいの長さでね」

図形への関心・活用

遊びへの没頭(2日目)

いろんな乗り物ができた →

「僕は、ヘリコプターが作りたい」
「プロペラは羽根4枚にしよう!」
「それ、いいねえ」
仲間とイメージを共有



「プロペラつけよう」
「何回もテープつけとこう」

アイデアを実現するための工夫



○子どもの気付き・発見への認めや共感

自分のイメージを形にしようと工夫する姿を見守り、気付きや発見に共感の言葉を掛ける。

○子どもの楽しさや探求の時間や場の確保

・前日に材料を十分準備しておく。
・じっくり取り組めるように、時間や場を確保する。



「連結して、新幹線作るよ」 「ブルドーザーのキャタピラだ!」
イメージを形にするための工夫 イメージしたものができた喜び

T「硬くて強いキャタピラができたね」

C「こっちの山だって登れるよ」

T「すごい!本物のブルドーザーみたいね」

C「降りるときの方がスピードが出て面白いよ」「もう1回しよう」

「もっと高いところから降りてみたいね」

T「この山をもっと高くできたらいいよね。どうしたらいいかな?」

C「そうだ!もっとダンボールちょうだい」「うん。ダンボールを上に乗せたらいいよね。僕も一緒に作る!」

友達のアイデアに触発されながら、楽しさや面白さの追求



○一人一人が自分のイメージを広げられるような援助・環境の再構成

子どもとの対話を通して素材や用具を補充し、個々のアイデアを大切にしながら、一緒に遊びを広げていく。

深い学びの過程

気付いたことを言葉に表す

図形の捉え

新しい考えを生み出す喜びや楽しさ

気付き 予測

対話的な学びの過程

思いや考えの伝え合い

目的やイメージの共有

協力

共感 刺激のし合い

伝え合い

主体的な学びの過程

意欲 期待感

自発性

発見を楽しむ

自己有用感

探求心

さらに面白いことへの意欲 期待感

遊びへの没頭(2日目)

坂道を滑ると楽しい!

「めっちゃ楽しい!超スピード」
「次は、私に滑らせて」「いいよ!怖いかも」
新たなアイデア・発想の広がり
挑戦・友達への思いやり



○子どもの気づきを促す材料の準備

高い傾斜を作るのに適したものを自分達で気付けるように、様々な大きさや硬さのダンボールを準備する。

○一人一人の楽しさ・気づき等の把握と理解

その子らしい発想や工夫を大切にしながら、必要に応じてアイデアを出したり手伝ったりする。

ものの特性や変化の捉え

相手の考えの受容 折り合い

好奇心 探究心

達成感 充実感

遊びの振り返り(2日目)

修理・片付け

「ここ修理しよう!」「明日は、連結して滑りたい!」
「雨が降ったらどうしよう」
明日への期待・見通し



降園時、遊びの広がりや深まりを共有できるように、ドキュメンテーションにして掲示板に張り出した。子ども自身が活動を振り返ったり、保護者に子どもの育ちを伝えたりした。掲示板の周りでは友達や親子での会話が生まれた。



○次の遊びへの見通しや意欲への共感

明日に向けての子ども達と話し合い、準備するものなどを確認しながら意欲を高める。

○遊びの広がりや深まりを共有できるような工夫

活動の様子をドキュメンテーションにして張り出し、子ども自身も活動の振り返りができるようにする。

思いや考えの伝え合い

振り返り 次の遊びへの見通しや意欲

【Q&A】(小学校の先生の疑問に答えます)

Q. 時間を忘れて活動に取り組んでいる時の、片付けや食事などの次の活動への切り替えはどうしていますか?

A. 活動を始める前に子ども達と大まかなスケジュールを決め、ある程度の見通しをもって活動するようにしています。時間になっても活動が盛り上がっているときは、翌日に遊びの続きができることを伝え、子ども達が折り合いをつけながら次の活動への切り替えができるように工夫しています。

Q. 一人一人が主体的に活動するために大切にしていることは?

A. 安心感をもって園生活を送り、保育者や仲間からどんな意見も(行動も)受容される信頼関係を大切にしています。なるべく、保育者が否定語や指示語を使わず、一人一人が思い付いたアイデアを伸び伸びと言葉にできる雰囲気づくりを心掛けています。

【省察】

- : 知識及び技能の基礎
- : 思考力・判断力・表現力等の基礎
- : 学びに向かう力・人間性等

様々な廃材を使ってイメージ通りのものを作ることは、これまでも多く経験している。比較的、戸外で過ごしやすいこの時期に園庭に創作の場を設定したことで、予測していたよりダイナミックで継続的な活動となった。様々な大きさや硬さのダンボールを数多く準備したことで、作りたいもののアイデアが次々と出てきたり、作りたいものに適したものに気づき、選んで作ったりすることができた。

計画の段階では、落ち葉のプールや滑り台を作って遊ぶと予測していたが、道や線路を作り出したことで次第に乗り物のイメージが膨らみ、乗り物が好きなA児を中心にヘリコプターやブルドーザー、電車などを作る遊びに広がっていった。

A児を見て、B児も一緒になってヘリコプター作りが始まった。明らかに、A児達の活気溢れるヘリコプター作りに触発されブルドーザーや電車作りが生まれてきた。子ども同士、イメージを伝え合い助け合いながら、一緒に作り上げる喜びやできたもので一緒に遊ぶ楽しさを共有できたこと、お互いのよさを知り、一緒に遊ぶ楽しさを十分に味わえたと思う。

遊びの後半では、傾斜をつけたダンボールで作った乗り物などで滑ることを楽しみ、友達と話し合いながら工夫して遊んでいた。探求の時間や場の確保をしたことで、作っては遊び、遊んでは作ることを繰り返していた。いつもは遊びが長く続かないCちゃんが没頭し、試行錯誤する姿に、粘り強さの育ちが友達によって引き出されていることを感じた。

【実践例についてのコメント】

前日の遊びから、遊びへの期待感を持ち登園した子ども達。遊びの主役が落ち葉集めから可塑性に富んだダンボールへ移っていったことは自然の流れかもしれませんが、落ち葉を入れる容器としてのダンボール、長い道になるダンボール、ヘリコプター・新幹線・キャタピラ・ブルドーザーなど乗り物としてのダンボール。子ども達がダンボールの素材や特性を試しながら理解し創造していく姿は、保育者が見取り、大きさや硬さなどの異なる段ボールを追加し準備していくなどの応答的な環境構成(再構成)あつてのことです。子ども達の試行錯誤や工夫、長さの比較、発見のプロセス、関連性の発見など、年長アプローチカリキュラム期のアクティブラーニングがダイナミックに描かれています。

そして、遊びの広がりや深まりを共有するためにドキュメンテーションで学びを可視化しており、学びの振り返りや明日の遊びの見通しなどがわかりやすく子ども達の意欲が高まります。保護者と子どもの育ちを喜び合うツールとしてのドキュメンテーションに留まらず、子どもたちが遊びや生活を通じて、「どのように育っているのか」、「何を学んでいるのか」という学びの育ちを伝え、家庭で子どもと保護者をつなぎ、家庭と園が見通しをもちながら生活を重ねることは安心のみならず安定へ繋がるでしょう。

【坂田先生より】



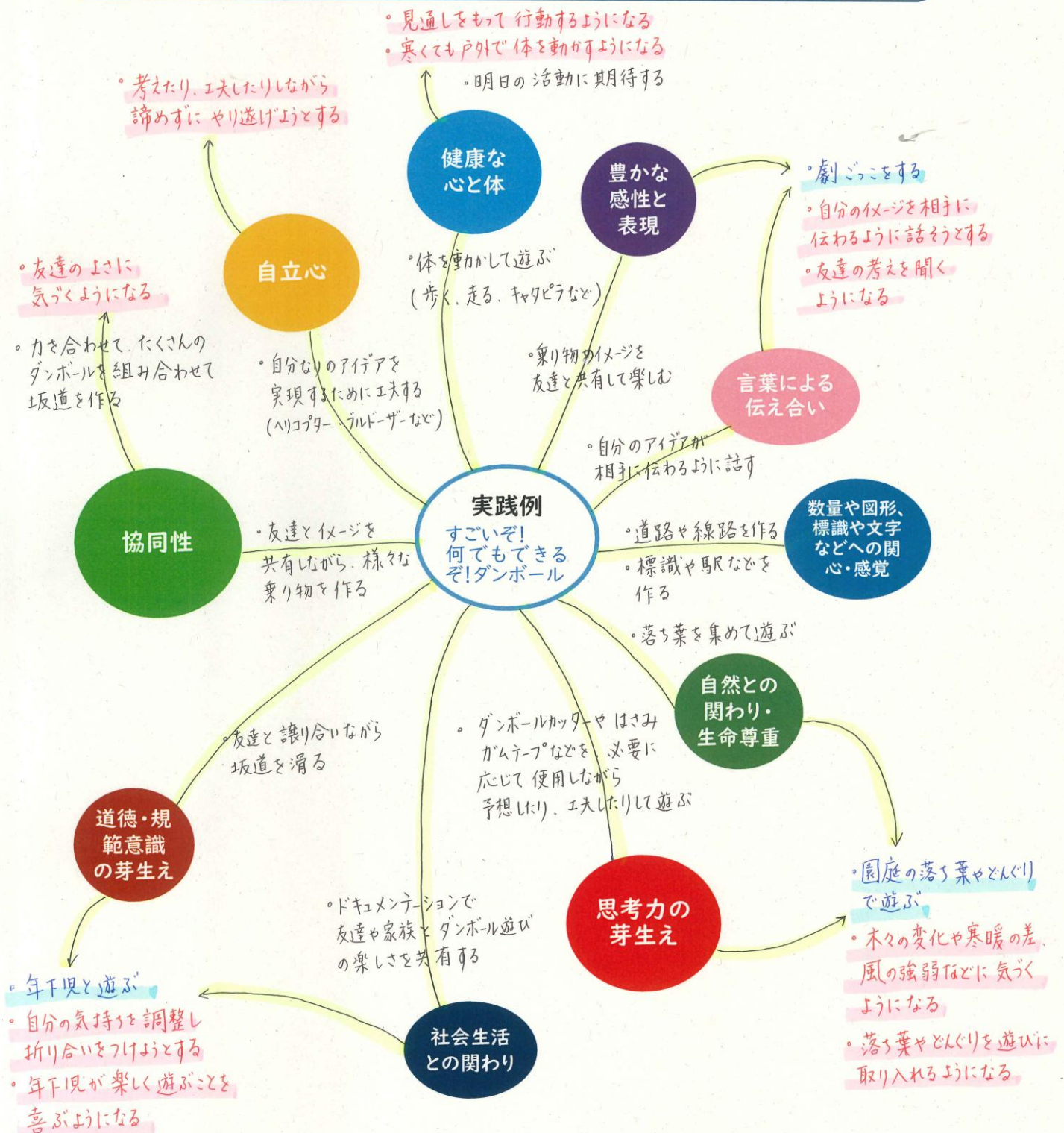
©tutumi

学びの育ちを確認するために

実践例を通して見られた子どもの姿を
 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(10の姿)との関連で可視化すると

学びの育ちを確認するために、実践例①から見えてくる子どもの姿を「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(10の姿)」を基に整理してみました。

一つの活動からいろいろな育ちの姿が見えてきます。(必ずしも一つの活動から10の姿のすべてが見えてくるわけではありません。)その時の姿が、次の活動につながったり広がったり発展していくことも多くあります。また、見えてきた育ちの姿から何が獲得できたかを把握することで、子ども一人一人の育ちを次の遊びにつないでいくことができます。



【解説】

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿とは、『幼児期にふさわしい遊びや生活を積み重ねることによって、幼児教育において育みたい資質・能力が育まれている幼児の具体的な姿』です。育ってほしい『姿』が、育ってほしい能力となっていないところがポイントです。能力であれば到達目標がありますが、10の姿は、この姿が幼児期の終わりまでに育ってほしいという発達の道筋のようなものです。この姿は突然見られるようになるものではなく、それぞれの時期にふさわしい育ちを積み重ねて幼児期の終わりまでに育ってほしい姿として現れます。そしてこの姿は、到達目標や個別に取り出されて指導されるものではないこと、全ての子どもに同じように見られるものではないことに留意する必要があります。

子どもの心が動き、それをしてみようと意欲が湧き、よりよくしていこうという態度が直線的に現れ育まれるというよりも、環境を通した遊びの中で、瞬間あるいは継続的に多様に立ち現れるような姿をイメージしてください。



【坂田先生より】

©tutumi

●幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10の姿）

| | |
|---------------------|---|
| 健康な心と体 | 園の生活の中で、充実感をもって自分のやりたいことに向かって心と体を十分に働かせ、見通しをもって行動し、自ら健康で安全な生活をつくり出すようになる。 |
| 自立心 | 身近な環境に主体的に関わり様々な活動を楽しむ中で、しなければならないことを自覚し、自分の力で行うために考えたり、工夫したりしながら、諦めずにやり遂げることで達成感を味わい、自信をもって行動するようになる。 |
| 協同性 | 友達と関わる中で、互いの思いや考えなどを共有し、共通の目的の実現に向けて、考えたり、工夫したり、協力したりし、充実感をもってやり遂げるようになる。 |
| 道徳性・規範意識の芽生え | 友達と様々な体験を重ねる中で、してよいことや悪いことが分かり、自分の行動を振り返ったり、友達の気持ちに共感したりし、相手の立場に立って行動するようになる。また、きまりを守る必要性が分かり、自分の気持ちを調整し、友達と折り合いを付けながら、きまりをつくったり、守ったりするようになる。 |
| 社会生活との関わり | 家族を大切にしようとする気持ちをもつとともに、地域の身近な人と触れ合う中で、人との様々な関わり方に気付き、相手の気持ちを考えて関わり、自分が役に立つ喜びを感じ、地域に親しみをもつようになる。また、園内外の様々な環境に関わる中で、遊びや生活に必要な情報を取り入れ、情報に基づき判断したり、情報を伝え合ったり、活用したりするなど、情報を役立てながら活動するようになるとともに、公共の施設を大切に利用するなどして、社会とのつながりなどを意識するようになる。 |
| 思考力の芽生え | 身近な事象に積極的に関わる中で、物の性質や仕組みなどを感じ取ったり、気付いたりし、考えたり、予想したり、工夫したりするなど、多様な関わりを楽しむようになる。また、友達の様々な考えに触れる中で、自分と異なる考えがあることに気付き、自ら判断したり、考え直したりするなど、新しい考えを生み出す喜びを味わいながら、自分の考えをよりよいものにするようになる。 |
| 自然との関わり・生命尊重 | 自然に触れて感動する体験を通して、自然の変化などを感じ取り、好奇心や探究心をもって考え言葉などで表現しながら、身近な事象への関心が高まるとともに、自然への愛情や畏敬の念をもつようになる。また、身近な動植物に心を動かされる中で、生命の不思議さや尊さに気付き、身近な動植物への接し方を考え、命あるものとしていたわり、大切にすることを覚えるようになる。 |
| 数量や図形、標識や文字などへ関心・感覚 | 遊びや生活の中で、数量や図形、標識や文字などに親しむ体験を重ねたり、標識や文字の役割に気付いたりし、自らの必要感に基づきこれらを活用し、興味や関心、感覚をもつようになる。 |
| 言葉による伝え合い | 保育者等や友達と心を通わせる中で、絵本や物語などに親しみながら、豊かな言葉や表現を身に付け、経験したことや考えたことなどを言葉で伝えたり、相手の話を注意して聞いたりし、言葉による伝え合いを楽しむようになる。 |
| 豊かな感性と表現 | 心を動かす出来事などに触れ感性を働かせる中で、様々な素材の特徴や表現の仕方などに気付き、感じたことや考えたことを自分で表現したり、友達同士で表現する過程を楽しんだりし、表現する喜びを味わい、意欲をもつようになる。 |

◇ 実践例② (年長アプローチカリキュラム期)

5歳児 11月 「友達と一緒にだから、やってみたい!」 ねらい:友達と一緒に多様な

な遊び方を楽しんだり、自分の思いに向かって挑戦したりする

これまでの子どもの姿と
子ども理解・保育者の願い

年少・年中の時に、遊びの中でたくさん体を動かし、色々な遊びを楽しんできた子ども達。縄遊びでは、蛇跳びや縄くぐり、綱渡り、長縄跳び等の経験を重ね、遊びながら縄に親しんできた。

年長になり、10月の運動会後から、縄跳びが遊びの中心に盛んになってきた。一方、苦手意識をもっている子もいて、意欲に差がある。

遊びの中で、縄跳びが跳べるようになるということではなく、友達の刺激を受け、やってみようという意欲をもったり、一人一人が自分の思いに向かって挑戦したりしてほしいと考える。また、遊び方を考え工夫し、友達と一緒に多様な動きを楽しめるようにしたい。

保育者の援助
環境構成

遊びの創出(1~2日目)

友達・縄跳びへの関心

ある日の帰りの会で、クラスで1日の振り返りをしている中、子どもから縄遊びの話題が出た。縄跳びをたくさん跳んでいた友達に気付いた子が、その様子を皆に伝えると、自然と拍手をする子どもの姿が見られた。

友達のよさの気付き・受容 温かい心もち
縄跳びへの興味・関心・意欲



(翌日)

「わたしもする!」「いれて!」「いいよ」
今まであまり興味を示さなかった子や、苦手意識のある子も、友達が跳ぶ様子を見たり、やってみたりする姿が見られ始めた。

興味・関心
一緒に遊び
たい気持ち
意欲



コツを教える

縄跳びに挑戦するがうまく跳べずに困っている友達に気づき、「縄を回して、下にきたら跳ぶんだよ!」と分かりやすいようにコツを教える。

友達の姿(思い)への気付き 思いやり

「やったー! 跳べた!」
「やったね! 跳べたね!」と友達が拍手する。

跳べた喜び 自信 喜びに共感 思いやり

この後、自分で何度も挑戦している。

きっとできると予測 挑戦



○子どもの姿の認め

子ども達の遊びを見守りながら、子ども同士のやりとりに共感したり、子どもの発想や頑張りを認めたりする。

○子どもの発言や思いの受け止め

子ども達の思いを受け止めながら、明日の遊びにつながるように話を進める。

遊びへの没頭(2~10日間)

長縄・みんなで跳ぼう

「私、長縄がいい!」と年中の時に遊んだ「郵便屋さん」「蛇跳び」など、自分が跳べる遊びを楽しむ。

跳びたい気持ち 跳べる楽しさ 自信



「みんなで一緒に跳ぼう」「引っかかった人は座ってね」 みんなで遊ぶ楽しさ ルールの共有

「やったー。勝った!」「間違えたから、もう1回!」「僕だって本当はもっと跳べるよ」「じゃあ、しよう!」 悔しさ 勝ちたい気持ち 自信



○遊びの環境の設定

子ども達が楽しんで遊べるものを運動場に準備しておく、それを自由に使って遊べる環境を整える。

○子どもの遊びの見守り、思いの受け止め・共感

ルールを伝え合い、遊びを進める様子を見守り、それぞれの思いを受け止めたり、皆で遊ぶ楽しさに共感したりする。

一緒に跳んでみよう

「そうだ!先生、2人跳びしよう」「わー! 跳べた!」

発想 跳べた喜び

「いいな、私もしたい!」「じゃあ、3人で跳んでみようよ」

少し難しいことへの挑戦

「3人って難しいね」「もっとくっついたらいいんじゃない?」

跳び方の工夫 諦めずに頑張る気持ち



T:「何回跳べたかな?」

「数えてあげようか?」「いち、に、さん...」今まで縄跳びに参加していなかったA児が数えてくれる姿があった。

興味 数えることでの参加 優しさ



「私たちが跳んでみよう!」

発想 挑戦 友達同士と一緒に跳ぶ喜び

「先生!5回も跳べたよ!」

数、どれだけ跳べたかへの関心

A児が自ら縄を持つ

跳びたいでも不安な気持ち 葛藤



○遊びへの参加・思いの共感

保育者も遊びに加わり、楽しさを共有すると共に、周りの子に楽しんでいることを姿で伝えていく。

○それぞれの個性の把握・認め

それぞれの個性を感じながらよさを認めていく。

○遊びの展開や挑戦に向けた関わり

遊びが広がったり自分の思いに向けて挑戦できるような関わりや言葉掛けをする。

深い学びの過程

対話的な学びの過程

主体的な学びの過程

楽しさや面白さの発見

新しい遊びの発見
試行錯誤

発想の広がり
工夫

期待感
気付き

楽しさ面白さの追求
跳び方の工夫 数量への関心

話し合い
思いや考えの伝え合い

目的の共有

協力

対話

行動と言葉での伝え合い

ルールの共有

喜び

葛藤

アイデアの伝え合い

興味・関心

自発性

真似る

意欲の芽生え

ルールを意識して取り組む

楽しさの共有

挑戦する意欲

認められる喜び

自信

次への挑戦

諦めないで取り組む

遊びへの没頭

遊びの振り返り(10日目)

遊び方の発見・跳びたい

縄への気づき

遊びの紹介



「ねえ、こうやって跳んでみようよ!」「跳べた!」「あたたしたちすごいよね」「うん。すごいよね!」
発想の広がり 成功した喜び 喜びの共有 自信

引っかかっても繰り返し挑戦する子が増えてきた。なかなか跳べずにやめてしまっても、また次の日に再度挑戦する姿が増えた。

跳べるようになりたい気持ち 意欲 粘り強さ 諦めない気持ち

「この縄だったらたくさん跳べる!」「これはあんまり跳べない」「ビニールの方が回しやすいよ」
繰り返し遊ぶうちに、縄の違いで跳びやすさがあることに気付く。

素材による跳びやすさの気づき



「やってみたい。貸して!」「その次、僕もさせて」
試したい気持ち たくさん跳べる予測と期待



「みんなに跳びやすい縄のことお知らせしたい!」 発見の喜び 友達に伝えたい気持ち

T:「今日ね、縄跳びの大発見をしたお友達が、みんなにお知らせしたいって」

「こっちの縄より、ビニールの縄跳びの方が回しやすくて、たくさん跳べるよ」

「僕がやってみたら、本当にたくさん跳べたんだよ。」「なら、私も明日やってみたい!」
やってみたことを伝えたい気持ち 明日への意欲 たくさん跳べることへの期待

T:「ほかにも発見やお知らせしたいことあったかな?」

「2人跳びできたよ」「私たちは手をつないで跳べたんだよ」「どうやって?」「こうだよ」

遊びの振り返り 自信 満足感 言葉や動作で自分なりに伝える 遊びへの興味関心 意欲



○子どもの姿の見守り

できた喜びを子どもと一緒に分かち合う。また、子どもの挑戦する姿を見逃さずに、その子なりの頑張りを認めることで自信へとつなげる。

○環境の設定

跳びやすさを試せるように素材や長さの違う縄をさりげなく置いておく。

○遊びをみんなで振り返る時間を設ける

様々な遊び方をしている様子や縄の違いに気付いたこと等、友達の話や聞くことで、興味をもったり、遊びの工夫・発展につながるきっかけとなったりするように配慮する。

クラスで紹介し合う時間を設けることで、友達のよさへの気づきを認め合い、一緒に高まり合えるようにする。

【Q&A】(小学校の先生の疑問に答えます)

Q:小学校では、苦手意識から活動に興味を示さない子どもの姿があります。園ではどのように関わっていますか?

A:子どもは、小さいころに安心して過ごせる環境があることが、心身の安定につながります。特に0~2歳の時は、保育者が子どもの思いや甘えを十分に受け止め、やりたいことを思い切りやれるような関わりを心掛けています。この経験がその後の「やりたい」「面白い」という意欲を引き出す原動力になっていきます。また、失敗したり間違ったりしてもとがめられないという安心感をもつことができるような関わりも心掛けています。「誰が一番上手かな?」よりも、人と比べられることなくやりたいことを十分に組み立てるような配慮も大切です。そして、道具や遊具、保育者や友達との関わり方など、一人一人の姿に応じた環境を整えていくようにしています。

Q:子どもにどのように関わったら、やる気が持続しますか?

A:子どもに持続して何かに取り組ませようとするのではなく、子どもが自ら夢中になって遊び、遊びに没頭していきることが大切です。そのためにも、好きな遊びを見つけられるような環境を準備したり、十分遊び込める時間を保障したりすることが、持続する姿につながっていくと思います。

【省察】

- :知識及び技能の基礎
- :思考力・判断力・表現力等の基礎
- :学びに向かう力・人間性等

クラスの仲間意識が強くなっていくこの時期。友達の様子に興味をもち、友達のよさに気付いたり、それを伝え合い一緒に遊ぶ姿が見られたりしたことは、「友達っていいな」と感じる子ども達の成長を感じる。縄跳び遊びでは、年少・年中と遊んできた経験も糧としながら、友達の遊びの輪の中に自然と入って一緒に遊ぶ楽しさを感じたり、友達がしているのを見て自分もやってみようと思ったりする姿にもつながっていった。また、上手く跳べずに困っている友達の悔しい気持ちを感じたり、できるようになったことを一緒に喜んだりなど、多様な気持ちへの共感性や思いやりが育まれていった。

縄跳び遊びがブームになり、多くの子どもが楽しんだり挑戦したりする中で、様々な素材の縄を準備したり、遊びが広がるようにさりげなく仕掛けをしたりすることで、子どもの気づきや発想が生まれ、多様な跳び方を楽しんだり跳びやすいものを探求したりする姿になっていた。

「跳べないからつまらない」「したくない」という子どもの姿もあったが、その思いに寄り添いながらも、「(本当は)跳べるようになってみんなと一緒に遊びたい」という気持ちがあることも読み取り、心の動きを見守るようにした。中にはちょっとしたきっかけで心が動き、自分なりに縄跳び遊びを楽しんだり、葛藤を乗り越え挑戦したりすることができると、自信が付き、自分なりの目標が生まれ、傍で一緒に遊ぶ友達がいて、諦めずに粘り強く頑張る気持ちがもてるようになっていく姿も見られた。

今回、縄跳び遊びをしなかった子どももいたが、違う場面でその子のよさを知らせる機会を作り、お互いに刺激を受けながら自己肯定感を高め、自信をもって様々な活動に取り組めるようにしていきたい。

【実践例についてのコメント】

年少、年中からの遊びで育まれてきた学びの積み重ねと、その姿として出ている年長児クラスでの1日の振り返りの縄遊びの話題。縄跳びをたくさん跳んでいた友達に気付いた子が、その様子を皆に伝えたくて、そのことを知った他の子どもたちが自然と拍手をしたくなった子どもの姿から先生が見取った子どもたちの心情。そして、「跳べないからつまらない」「したくない」という子どもの言葉に、「(本当は)跳べるようになってみんなと一緒に遊びたい」という気持ちがあることを見取っている先生の子も理解から始まる実践が大変豊かに展開されています。

遊びに没頭した子どもが、遊び方の発見をしたときの言葉、「あたたしたちすごいよね」「うん。すごいよね!」に子ども自身への期待が込められています。

目の前の子ども達は、私たちが生きている世界に生まれてきてまだ5~6年、歩き出して4~5年しか経っていません。その中には出産予定日より早く・遅く産まれてきた子どもなど様々な違いがあります。日々の積み重ねでわかること、たくさんの『できる』が増えた子ども達は有能感に満ちています。縄跳びの縄の素材の違いを発見した子ども、その他の子どもにも発見やお知らせを確認している振り返りの時間は、子どもが肯定されていることを自覚する大切な時間になっています。そして縄跳びで自己発揮する子どもがいれば、その他で発揮する子どもがいるという、一人一人のよさを大切にされる保育は自己肯定感を育むことにつながると言えるでしょう。

【坂田先生より】



遊びの発展・工夫 予測

様々な発見や気づき 素材への関心 比較

試行錯誤

思いや気持ちの芽生え

イメージの共有 喜びの共有

考えや思いの伝え合い 遊びの振り返り

自主的な遊び 自信 興味の芽生え 挑戦 粘り強さ

遊びを繰り返す

充実感 満足感 次への期待・意欲

◇ 実践例③ (年長アプローチカリキュラム期)

5歳児 11月 「明日はもっと怖くしよう」 ねらい:遊びを通して友達とイメージを

共有し、考えを出し合いながら遊びを進めようとする

これまでの子どもの姿と
子ども理解・保育者の願い

1学期末にあった夏祭りでは、かき氷やヨーヨー、くじ引きなど保護者による縁日遊びをお客さんとして楽しんだ。

夏祭りの後、「お母さんがかき氷つくってくれたね」「焼きそばも食べたよ」など、楽しかったことを子ども同士で嬉しそうに話していた。これをきっかけに、かき氷や焼きそばを様々な素材を使って製作したり、年下児を招いて出店屋さんごっこを再現したりして楽しんできた。

2学期になって、これまで遊んできたことを生かし、折り紙屋さんや塗り絵屋さんなど、自分の好きなことや得意なことをお店屋さんにして友達と一緒に遊ぶ姿がよく見られている。

そこで、やりたい遊びに友達と一緒に取り組む中で、イメージを共有し、考えを出し合いながら遊びを進め、協同的な遊びに発展していけるようにしたい。

保育者の援助
環境構成

深い学びの過程

対話的な学びの過程

主体的な学びの過程

遊びの創出(1日目)

暗がりから広がる遊び

ホールの隅にできた暗がりへ隠れ、驚かすこと楽しんでいたA児とB児。そこに夏祭りで製作したのっぺらぼうのようなお面を持ってきたC児。「怖〜い、おばけみたい」と他児ら。「じゃあ、ここおばけやしきにするっていうのはどう?」「いいね」と遊びが始まる。

想像を膨らます楽しさ イメージの共有

それぞれのもつイメージでおばけになって遊ぶ



「おばけだぞ〜」
「きゃあ〜逃げろ〜」
人との関わり 相手を驚かすことを楽しむ面白さ
「何してるの?」「楽しそう、入れて」

「毒グモを背中に背負うようにしたいな」「おどかしてみよう」工夫 表現
「きゃあ〜面白い。全然怖くない!」
「あれっ!?どうしてかな」
予想外の反応へ疑問

どうしたらもっとこわいおばけやしきになるか話し合う

「どうしたら怖くなるかな」「明日はもっと怖くしよう」と同じ目的をもつ。
困りの共有
「顔見えなくしたら」「暗くしたら」
「いっぱい来てくれるようにチケット作ったらどう?」「それ面白そう」
疑問解決に向けて思いや考えの伝え合い より怖くするための方法の模索
想像性

○思いを受け止め、楽しさを共有
イメージやアイデアを出し合いながら遊べるように、それぞれの思いを受け止めたり、一緒にやり方を考えたりする。

○思いを伝え合える場づくり
「もっと怖いおばけやしきにしたい」という思いをクラスの友達に伝え、話し合う場を設けることで、友達と一緒に同じ目的に向かって遊びを進められるようにする。

遊びへの没頭(2~4日目)

目的を共有し、友達と場の再構成をする



「私達は入口でチケット渡すね」
「みんなに分かるように看板作って置こう」
「1、2、3...13枚あるよ」
自分の思いや考えの伝え合い 目的の共有
数や看板への関心

「こっちに進めるようにしよう」
「それいいね」
場の再構成 賛同 認め合い
「迷路みたいにして、後ろから追いかけてみよう」
新しい考えを生み出す喜びや楽しさ

「こんなの作ったよ!顔が見えないからきつと怖いと思うよ」「布ガムテープの方がよくつくつくよ」「まず穴を開けてからハサミで切ろう」「ボンド乾くまで触らないでね」
試す 相手の反応を予測したやり方の工夫
創造性
様々な素材や用具の特性を踏まえた選択



○思いを表現できるような教材や時間、場の保障
子ども自身で動かしたり、組み合わせたりできる素材や用具を用意する。
子どもがイメージを形にしていく過程を楽しめるように、必要なものを環境に取り入れていく。

目的を共有しながら、
(次ページへ)



「怖いから行きたくない」と遊びに入らずに見ている子がいた。
T「おばけカボチャにお菓子をあげたら何もしないんじゃない」
近くの材料でキャンディーを作り、おばけカボチャに渡す
「ほらっ、何もなかった」
「私もキャンディーつくりたい」「どうやって作ろうかな」「私は折り紙」「平テープでもつくれるよ」
発想の広がり
「私もお菓子あげる人になりたい」「じゃあ、つくる人いなくなるじゃない」「交代しよう」
折り合い 受容 役割分担 協同性

○関わりを広げる提案、誘い掛け
興味をもって見ている子どもも遊びに入れるような提案や誘い掛けをし、興味があることに関われるようにする。

疑問をもつ 理由や原因を考える

気づき 発想の広がり 予想 試行錯誤 発見の喜び
ものの特性の捉え 数への関心と活用

目的の共有 思いの伝え合い 自己表現 共感

協力 協同 役割分担 言葉による伝え合い 思考力 イメージの共有
折り合い 受容

興味・関心 真似る 試す 自発性

振り返り 遊びの継続 期待感 遊びの見通し 意欲 必要感

遊びへの没頭

遊びの振り返り

おばけやしきごっこを進める
(→前ページより)



「次のお客さんが来た。せーので驚かそう」「いいね、面白そう!」

相手の考えの受容

「おばけカボチャだぞ〜ヒッヒ〜」
「きゃあ〜おばけカボチャがしゃべった〜」

驚かす喜びの共有 満足感

「外から中が見えないようにしたらもっと来てくれるんじゃない?」
「ガラスのところに紙を貼ろうよ」
「貼り終わったらまたお客さん呼んでこよう」

新たな気付き 遊びへの意欲 思いの伝え合い

異年齢への遊びの広がり



「私も作りたい、どうやって作るの、教えて」と年下児の願いに「いいよ、教えてあげるね。一緒に作ろう」「こうやって動かすんだよ」

思いの受容 思いやり 分かりやすい伝え方

「今度は、チケット渡す人になりたい」「怖そうな音鳴らしたらどうか、ジャジャ〜ン(ピアノ低音)」

発想の広がり 様々な表現

「もも組(年少組)さんの時はあんまり怖くないおばけにしよう」

思いやり

「たくさん来てくれて良かったね」
「喜んでくれて嬉しかった」

満足感

「本当に怖がってたね」

達成感

「今度は僕がおばけカボチャしたいな」小学生と日頃から交流があることから「小学生も呼ぼうよ」「その時はいちばん怖くしよう」「小学生だってすごく怖がる人もいるかもよ」「今日ぐらいがいいんじゃない?」「そうだね、みんな楽しそうだったもんね」

振り返り 怖さの度合いの調整 次への意欲

○思いや考えを引き出す関わり

それぞれの発想や思いを共感的に受け止めることで、思いや考えを出しやすい雰囲気をつくる。

○思いが伝わる喜びを感じられる関わり

年長児が工夫したところで年下児が楽しんでいたことを伝えることで、自分たちの工夫が楽しんでもらえた喜びを感じられるようにする。

○様々な表現に出会える関わり

それぞれの工夫を取り上げ、自分なりの発想でおばけやしきごっこを楽しめるようにする。

楽しさ面白さの追求

予測

発見の喜び

工夫に気付く

折り合い

葛藤

相手の考えの受容

憧れ

思いやり

自信

好奇心

充実感

達成感

年長児としての自覚

振り返り

次への遊びの見通し

【Q&A】(小学校の先生の疑問に答えます)

Q:子ども同士で思いがぶつかるなどの場面では、どのような関わりをされていますか。

A:思いを伝え合う姿を見守り、必要に応じて保育者が関わるようにしています。それぞれの思いに共感し受け止めたり、互いに相手の思いに気付けるような言葉を掛けたりすることで、子ども同士が折り合いを付け、相手の思いを受け止める姿が見られるようになります。

Q:この遊びに興味をもたない子がいる場合、どうするのでしょうか。

A:まず、なぜ興味をもたないのか子どもの様子から見取ります。その実態に応じて、遊びへの誘い掛けや参加しやすいようなきっかけづくり(その子の好きなことや得意なことを遊びに取り入れる等)をし、やってみようかなという気持ちをもったり、協同的な遊びの楽しさに気付いたりできるようにしていきます。しかし、必ずしも皆が同じ遊びをしないとイケないというわけではありません。主体的に取り組み、じっくり遊び込む中で育まれる学びが大切であり、協同的な遊びの楽しさは他の遊びでも育むことができるものです。

【省察】

- :知識及び技能の基礎
- :思考力・判断力・表現力等の基礎
- :学びに向かう力・人間性等

年長児なりに工夫したおばけやしきだったが、「全然怖くない」という年下児の反応に「あれっ、どうして?」と疑問や残念な気持ちをもったことから遊びが発展した。「明日はもっと怖くしよう」と目的を共有したことで子どもの遊びがより協同的なものになっていった。子どもの思いに寄り添いながらも、子ども同士で思いや考えを出し合いながら遊びを進められるような保育者の関わりや、場の設定・時間の保障を心掛けたことで、自分では思い付かなかった友達の面白い発想に触れ、新たなアイデアがひらめいたり、力を合わせることでみんなを楽しませる遊びを進めたりする楽しさを味わうことができたように思う。

友達とアイデアを出し合いながらおばけやしき遊びを工夫して楽しむ子がいる一方で、「入りたいけど怖そう」「怖そうだけどやってみよう」という思いをもち、戸惑う子どもの姿も見られた。子どもの葛藤する姿を保育者が理解し寄り添いつつ、機会を捉えて折り合えるきっかけをつくったことで、遊びに参加することができ、「こうしてみよう」「怖そうだけどやってみたら楽しかった」と葛藤を乗り越え、やってみる姿が見られた。また、子ども同士で対話する中で、相手の気持ちを想像し、怖さを加減するなど、遊びを調整し工夫する姿にもつながっていった。

場面によって子どもは様々な葛藤を体験している。今回は、そこを見逃さず、共感的・肯定的に寄り添いながら関わったことが、子どもの安心感につながり、主体性を引き出していくことができたと感じた。

【実践例についてのコメント】

年長児なりに工夫したのに、まさかの「全然怖くない」という年下児の反応で『明日はもっと怖くしよう』と展開されたおばけやしきごっこ。「怖いけど、見てみたい」のように、遊びには一見『矛盾』するような二重構造があります。「怖いけど、見てみたい」という感情の揺れ動きがあるからこそ面白く、息をのむほどの怖さを探求した結果、「やってみたら楽しかった」と、つぶやきから夢中で没頭した遊びの充実が見取れます。

園という保障された空間と子ども達の生活の中で、『遊びの世界』だからこそ、思い切って想像と現実の世界を行き交うことが可能になります。

『自由とルール』『したいけど、できない』『頑張りたいたいけど、頑張れない』『悔しいけど、楽しい』などは私達の生活で常に出会う二重性の世界です。葛藤を受け止め折り合いをつけようとする心もち、また自分たちの怖くしたいという思いだけでなく、他の子ども達に想いを馳せて怖さを調整し工夫する心もち、よりよい世界を構築しようとする姿です。

さらに、これらの学びに振り返りが入ることで、年長児後半の時期を踏まえた遊びの価値の共有と更なる意欲が引き出されています。

【坂田先生より】



第2章-2

育ちや学びのつながりを意識した実践 ～えがおわくわく期のカリキュラム～

小1スタートカリキュラム期

～ 目 次 ～

2 小1スタートカリキュラム期

| | |
|--|----|
| (1) スタートカリキュラムとは | 44 |
| (2) スタートカリキュラムの効果 | 45 |
| (3) スタートカリキュラムの編成・実施のポイント | 45 |
| (4) スタートカリキュラムの計画 | 46 |
| (5) スタートカリキュラムの実践 | 52 |
| (6) 小1スタートカリキュラム期の実践例 | 53 |
| ◇ 実践例を読むにあたって | 54 |
| ◇ 実践例①：生活科「夏がやってきた～砂場でみんなと楽しい 遊びを創り出そう!～」 | 58 |
| (単元計画・展開案) | 62 |
| ◇ 実践例②：国語科「場面の様子や登場人物の行動を想像して、 音読発表会をしよう」 | 66 |
| (単元計画・展開案) | 70 |
| ◇ 実践例③：特別活動「みんなあそびをしよう」 | 74 |
| (活動の流れ・展開案) | 78 |
| ◇ 学習評価 | 81 |

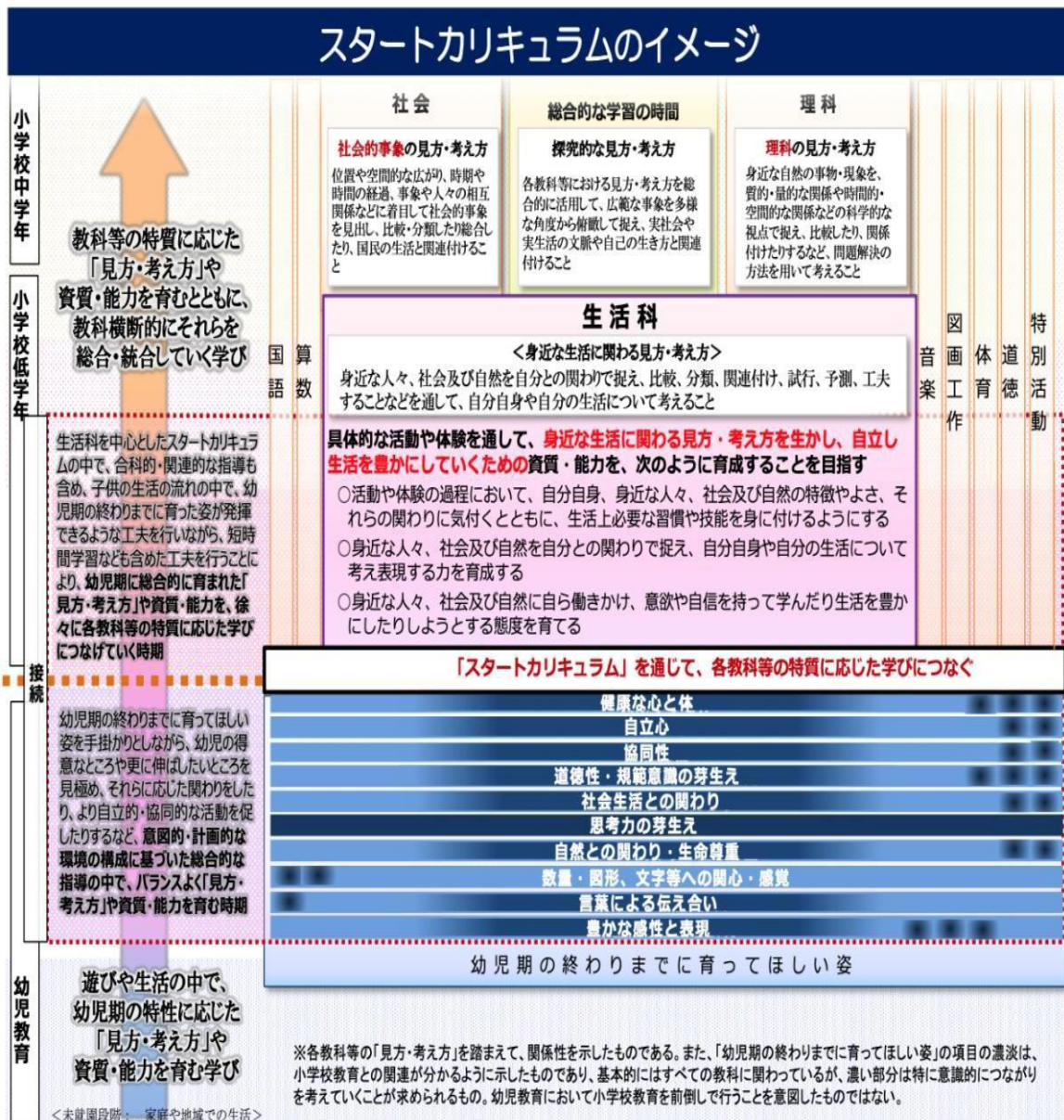
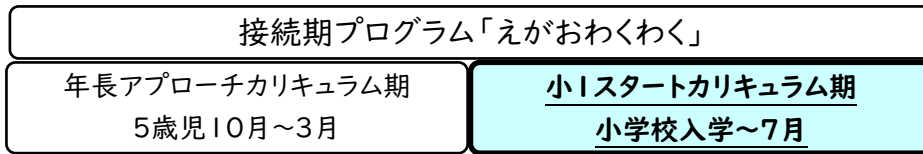
2 小1スタートカリキュラム期

(1) スタートカリキュラムとは

➤ 小学校において編成・実施する「小学校入学当初の教育課程」のことです

幼児期における遊びを通じた総合的な学びから、各教科等における、より自覚的な学びに円滑に移行できるよう、入学当初において、生活科を中心とした合科的・関連的な指導などの工夫を行うのがスタートカリキュラムです。

児童が入学してからも安心感をもち、幼児期の教育を通じて身に付けた力を発揮しながら意欲的に学ぼうとする姿を目指しています。



(2) スタートカリキュラムの効果

- 安心して、学校生活をスタートすることができます
 - 幼児期の教育を通じて身に付けた力を発揮することができます
 - 児童が主体的に小学校の生活や学びを創り出す姿を実現することができます
- 遊びや生活を通して総合的に学んでいく幼児期の教育では、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(10の姿)」を手掛かりに、小学校就学時の子どもの育ちを見通して5歳児後半の保育の充実が図られます。小学校での各教科等の学習内容を系統的に学ぶ教育課程とは、内容や進め方が大きく異なります。教育原理や指導方法の違いを理解・尊重した上で、スタートカリキュラムの編成・実施が必要です。

(3) スタートカリキュラム編成・実施のポイント

Plan (計画:2月~4月)

- ・就学予定児の育ちやこれまでの経験を把握する
- ・既存のカリキュラムを見直し、育てたい子ども像をもって編成する
- ・昨年度の成果や改善点を生かす

Do (実施:4月~7月)

- ・スタートカリキュラムを実施する

Check (評価:4月~7月)

- ・実践を振り返り、児童の育ちを確かめる

どこで、どのように評価するのか、計画をしておくことが大切です。スタートカリキュラムを実施しながら、カリキュラムの良かった点、改善点等を書き込んでいき、記録を残しておくことで、児童の育ちと学びの状況をより見取ることができます。

- 年間計画
- スタートカリキュラムの実践が分かる週案
- 活動の様子(写真や動画)
- 掲示物の記録(写真)

単元毎に気づき等を書き込んでいくと、貴重な記録となります

(評価メンバーの例)・管理職・教務主任・幼保小連携担当者・1年生担任
・特別支援学級担任・養護教諭 など

Action (改善:7月~8月)

- ・評価したスタートカリキュラムの成果について、2学期以降の指導につなげると共に、次年度のスタートカリキュラムの編成・実施に生かせるよう引継ぐことが大切です。

2学期以降に生かす

- ◎2学期以降の生活科を中心とした合科的・関連的な指導についての計画を立てます。
- ◎校区毎の幼保小連携会議などで、接続期カリキュラムについて振り返る機会を設けて、小学校の生活や学習の様子について幼児期の教育の成果として捉えられるものを伝え、今後の交流・活動に生かします。

次年度に生かす

- ◎次年度のスタートカリキュラムの編成・実施に生かせるように、成果や改善点を次年度に引き継ぎます。
- ◎年間計画や週案、活動の記録(写真や動画等)を残しておきます。

(4) スタートカリキュラムの計画

① 編成のための組織づくり

1年生に関わりの深いメンバーで組織をつくり、スタートカリキュラムの意義や考え方を共有します。また、共有したことを全職員に伝えることも大切です。

(編成メンバーの例)

・管理職 ・教務主任 ・幼保小連携担当者 ・1年生担任 ・特別支援学級担任 ・養護教諭 など

② 新1年生の実態把握

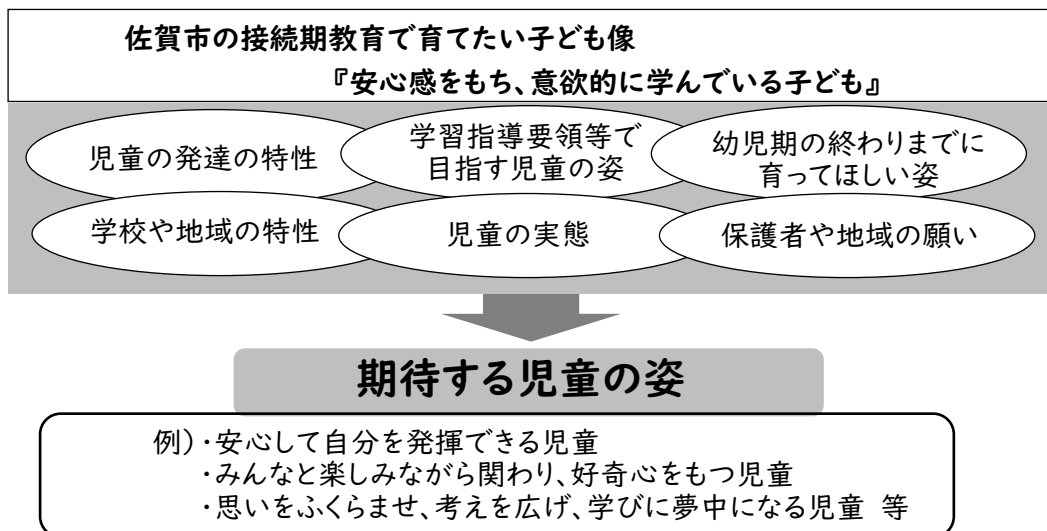
スタートカリキュラムを編成・実施するためには、1年生のこれまでの育ちや学び、経験を把握し、反映させます。

【幼児期の実態を理解する】

- 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を確認する。
- 幼稚園幼児指導要録、幼保連携型認定こども園園児指導要録、認定こども園こども要録、保育所児童保育要録から一人一人の実態を掴む。
 - 要録は児童理解の重要な手がかり
 - P86～88「育ちや学びをつなぐ要録の活用」
- 園と学校が行った交流・連携での就学児の姿や意見交換から実態を掴む。
 - 「校区ごとの幼保小連携会議」「わくわく学校訪問」「幼・保訪問」「幼保小合同研修会」「学校での交流活動」(生活科での交流、学校体験など)
 - P84～85「園と小学校の交流」

③ 期待する児童の姿の共有

スタートカリキュラムは、接続期の児童の気持ちにじっくりと寄り添い、児童のよさや可能性を丁寧に見取り、伸ばしていくことができるようにデザインすることが重要です。スタートカリキュラムを通して、一人一人が確かに成長することを目指し、期待する児童の姿を明らかにします。



文部科学省 国立教育政策研究所教育課程研究センター 編著
「発達や学びをつなぐスタートカリキュラム～スタートカリキュラム導入・実践の手引き～」より引用

期待する児童の姿については、小1スタートカリキュラム期の教育課程全体を通して学校全体で育てていく目標として、全教職員で共通理解を図ります。1年生担任だけでなく、学校全体で協力体制を整えて児童を見守り育てることは、児童の安心感につながります。

④ スタートカリキュラムの作成 (既存のカリキュラムの見直し)

1) 「単元配列表」の見直し(例)

以下の表は、第1学年の1年間全体を見渡した単元配列表から、スタートカリキュラムの実施期間(4月~7月)を取り出した「単元配列表(例)」です。

児童の思いや願いをきっかけとして始まる学びが、自然に教科等の学習につながっていくように、単元の構成と配列を行うことが大切です。

また、合科的・関連的な指導の工夫を行う際には、各教科の内容の関連を想定し、児童の意欲の高まりや主体性の発揮につながるような単元配列をします。

| | | 実践例【国語科】 | | | |
|------------|---|--|--|---|----|
| | | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 |
| 国語 | <ul style="list-style-type: none"> ・さあはじめよう ・よろしくね ・ひととつながることば ・こえをとどけよう ・あいうえおのうた | <ul style="list-style-type: none"> ・あめですよ ・ぶんをつくらう ・みんなにはなそう ・さとうとしお ・とんこととん | <ul style="list-style-type: none"> ・あひるのあくび ・どうやってみをまもるのかな ・こんなことしたよ | <ul style="list-style-type: none"> ・かぞえうた | |
| 算数 | <ul style="list-style-type: none"> ・くらべたことあるかな ・おいしいのはどちらかな ・なかまづくりとかず | <ul style="list-style-type: none"> ・なんばんめ | <ul style="list-style-type: none"> ・あわせていくつ ・ふえるといくつ | <ul style="list-style-type: none"> ・のこりはいくつ ・ちがいはいくつ ・どちらがながい | |
| 合科的な指導 P48 | <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> がっこう だいすき </div> | | | | |
| 生活 | <ul style="list-style-type: none"> ・がっこうだいすき ・がっこうのことが ・しりたいな ・みんなと なかよく ・なりたいな | <ul style="list-style-type: none"> ・ともだちと がっこう ・たんけんしよう ・がっこうにいるひと ・なかよくなるう ・みんなで つうがくろ ・をあるこう | <ul style="list-style-type: none"> ・きれいに さいてね ・たねをまこう ・せわをしよう | <ul style="list-style-type: none"> ・なつが やってきた ・こういてで くさばなや ・おしをさがそう ・たのしかったことをつた ・えよう ※キャリア教育とのつながり | |
| 音楽 | <ul style="list-style-type: none"> うたっておどって なかよくなるう うたってなかよし | <ul style="list-style-type: none"> はくを かんじとろう | <ul style="list-style-type: none"> 実践例【生活科】 すなあそび 関連的な指導 P48 はくによって リズムをうとう | <ul style="list-style-type: none"> ・みのまわりのおとに ・みみをすまそう | |
| 図工 | <ul style="list-style-type: none"> ・すきなかたちや ・いるなあに ・かきたいもの なあに | <ul style="list-style-type: none"> ・ちきよちきよがざり ・つちやすなど ・なかよし | <ul style="list-style-type: none"> ・ひもひもねんど ・みてみて あのね | <ul style="list-style-type: none"> ・おってたてたら ・べったんころころ | |
| 体育 | <ul style="list-style-type: none"> おにあそび ゆうぐあそび | <ul style="list-style-type: none"> かけっこ たまれ ダンス リレー | <ul style="list-style-type: none"> てつぼうあそび マットあそび | <ul style="list-style-type: none"> みずあそび ボールあそび | |
| 道徳 | <ul style="list-style-type: none"> 1 ようこそ1ねんせい 2 じゅぎょうがはじまり ますよ | <ul style="list-style-type: none"> 3 あいさつ 4 がっこうにはね 5 きをつけて | <ul style="list-style-type: none"> 6 はしのうえのおおかみ 7 ハムスターのあかちゃん 8 みんないっしょ | <ul style="list-style-type: none"> 9 うかんだうかんだ 10 ぼくのあさがお 11 にじがでた | |
| 特別活動 | <ul style="list-style-type: none"> ・あんぜんな どうげこう ・たのしい きゅうしよく 【第1回学級会】 がっきゅうむくひょうを きめよう | <ul style="list-style-type: none"> ・たいいくたいがい ・がんばろう ・からだを きれいに 【第2回学級会】 みんなあそびをしよう ・そうじを がんばろう | <ul style="list-style-type: none"> ・はを たいせつにしよう ・つゆどきの すごしかた ・たべものの はたらきについ てしろう | <ul style="list-style-type: none"> ・できるようになったよ (1がっきを ふりかえ ろう) ※キャリア教育との つながり ・なつやすみの すごしか た | |
| | | 実践例【特別活動】 | | | |

2) 合科的・関連的な指導の計画

児童が自然な形で意欲的に学習に取り組めるように、生活科を中心とした合科的・関連的な指導や、1コマを45分ではなく短い時間に区切って設定するなど工夫を行います。

【合科的な指導】 (□学習指導要領総則解説 P72)

教科のねらいをより効果的に実現するための指導方法。複数の教科の目標や内容を組み合わせ、学習活動を展開するもの

例) 4月 第1週目(1日目) がっこう だいすき(3時間計画) →P49

児童の思いや願いを見取りながら、各教科の内容(◆)を組み合わせ、児童が安心感をもって学習(◎)に取り組むことができるように計画を立てます。

| 合科的な指導 | 教科 | 時間 | 教材名 | 内 容 |
|--------------|----|-----|-----------------|--|
| がっこう だいすき | 音楽 | 0.5 | 「うたって なかよし」 | ◎隣の席の友達と一緒に、教科書の絵の中に隠れている歌を見つける。 ◎見つけた歌を、みんなと一緒に声を合わせて歌ったり、体を動かしながら音楽を聴いたり、遊んだりする。 ◆歌詞の表す様子、旋律、リズムや曲想との関わりに気づき、声を合わせて歌う技能を身に付ける。 |
| | 国語 | 0.5 | 「よろしくね」 | ◎友達の顔を見て、自分の名前を言う。 ◎グループで輪になって座り、友達や先生と自己紹介をし合う。 ・「わたし(の名前は)は〇〇〇〇です。」「よろしくお願ひします。」 ・「よろしくお願ひします。」「仲良くしてね。」「友達になろうね。」 ◆丁寧な言葉遣いを意識し、友達と名前を紹介し合うことができる。 |
| | 体育 | 1 | 「おにあそび」 | ◎鬼遊び(手つなぎ鬼、子増やし鬼など)の行い方を知る。 ◎鬼にタッチされないように、空いている場所を見つけて、速く走ったり、急に身をかわしたりする。 ◆鬼遊びの行い方を知ると共に、一定の区域で逃げる、追いかける、陣地を取り合うなどの簡単な規則で鬼遊びをすることができるようになる。 |
| | 生活 | 1 | 「がっこうのことがしりたいな」 | ◎みんなで教室や学校の中を見て回り、発見したことを出し合う。 ◎教室や学校の施設の役割、使い方について教師や友達と話す。 ◆学校は様々な人や施設と関わっていることが分かる。 |

朝の時間(→P51)と連続した計画も考えられます

【関連的な指導】 (□学習指導要領総則解説 P72 参考)

教科等別に指導するに当たって、各教科や特別の教科道徳、特別活動の指導内容の関連を検討し、指導の時期や指導の方法などについて相互の関連を考慮して指導するもの

例) 生活科「すなあそび」
→実践例①P58～61

・みんなで仲良く道具を譲り合って使う。
・友達の作ったものを壊さないように、気を付ける。

・土や砂をいろいろな形に変えて、力を合わせて「砂場の町」を創り出す。

道徳科「9 はしのうえの おおかみ」(親切、思いやり)

【生活科で学んだこと(協働、連携、認め合う)を生かす】

・導入や週末で、「すなあそび」での児童の姿を想起させ、児童が主体的に考えるヒントとする。

T「友達の作ったトンネルが壊れないように、そっと通っていた人がいたよ。」

T「砂遊びで町を創った時、仲良く道具を使っていたね。」

【道徳科で学んだこと(親切、思いやり)を生かす】

T「道徳科で親切や思いやりについて学んだね。これから、みんなで砂場遊びをする時に、学んだことを生かせるかな。」

特別活動「みんなあそびをしよう」【特別活動で蓄積した「学級のたから」を他教科等に生かす】

・みんなで見いだした「学級のたから」をもとに、「すなあそび」をスタートする。

図工科「おって たてたら」(紙を折って立てた形から思い付いたものを作る)

【生活科で学んだこと(協働、友達のよさを取り入れる等)を生かす】

・学習計画を立てる際に、生活科「すなあそび」での経験を想起させ、学習課題の設定につなげる。

T「砂遊びでは、友達の工夫に気付いたり、作ったものをつなげたりしたね。」

T「砂遊びではみんな力を合わせて『砂場の町』を創ることができたね。」

ポイント

各教科等のどちらを先に学習し、学んだことをどう関連付けるのか、学級の実態に応じて計画を立てることが大切です。

3) 「週時間割」(4月:1週目)の見直し(例)

| | 1日目 | 2日目 | 3日目 | 4日目 | 5日目 |
|-----|--|--|---|---|--|
| 行事 | 入学式 | 一斉下校 | 一斉下校 | 給食開始 | 給食2日目 |
| テーマ | 「がっこうだいすき」～安心して学校生活を送ることができる～ | | | | |
| 朝 | 登校してからの過ごし方が分かり、思い思いの活動を楽しむ ⑥ | | | | |
| 1 | (登校) ・靴箱、ロッカー、机の位置を確認する。 | ■がっこうだいすき 音楽(0.5) 国語(0.5) 体育(1) 生活(1) ③ 合科的な指導 | 行事(0.5) ・身体測定 ※着替えをする ■がっこうだいすき | ■がっこうだいすき 国語(1) 書写(1) 国語(1) 合科的な指導 | ■がっこうだいすき 音楽(1) 生活(0.5) 算数(0.5) 合科的な指導 |
| 2 | 入学式 | ○うたってなかよし ○よろしくね (名前の紹介) ○おにあそび ○がっこうのことがしりたいな ①安心感をもつ | 音楽(0.5) 国語(0.5) 生活(0.5) 合科的な指導 ○うたって なかよし ○さあ はじめよう ○がっこうのことがしりたいな ①安心感をもつ | ○さあはじめよう ○「すきなかたちやいろいろなに」の作品に名前を書いて、「自己紹介カード」を作る。 ④関連的な指導 | ○セブンステップス ○がっこうのことがしりたいな ・学校の中を見に行こう ○くらべたことあるかな ② ※幼児期に育った数や量への関心・感覚の想起 |
| 3 | 特別活動 <学級開き> | ②これまでの学びや経験を発揮する | 図工(1) ○すきなかたちやいろいろなに ・好きなものを描いたり、話をしたりする。 ④関連的な指導 | ④関連的な指導 | 道徳(1) ○ようこそ!ねんせい ・楽しい学校生活 ・学校でどんなことをしたいかな |
| 4 | ・保護者への連絡 | 【一斉下校】 ・下校グループ確認 ・安全な登下校 ・グループ別下校 | 【一斉下校】 ・下校グループ確認 ・前日の下校を振り返る。 ・グループ別下校 ② | 特別活動(1) <学級づくり> ○たのしいきゅうしよく ・給食の準備の仕方を考える。 ※これまでの経験を共有する ・協力して配膳する <給食開始> | 体育(1) ○ゆうぐあそび ・固定施設の安全な遊び方を知り、ジャングリズムや雲梯、登り棒、平均台などで様々な運動遊びをする。 |
| 5 | | | | 生活(0.5) ○がっこうのことがしりたいな ・安全な登下校 ① | 生活(0.5) ○がっこうのことがしりたいな ※園での1日を思い出しながら、学校での1日を振り返る ・次週の期待をもつ ・安全な登下校 |

見直し①安心感をもつ

安心感をもてるように、児童の思いや願いを教師が想像し、それに応える朝の会や活動を取り入れます。

先生や友達のことが知りたい

自分のことを知ってほしい

どんなことをするのか

見直し②これまでの学びや経験を発揮する

適応指導ではなく、すでに身に付けていることを発揮できる環境を整えます。

T「園では、どんなことをしましたか。」

T「園では、〇〇をしたことがありますか。」

見直し③合科的な指導 →P48

入学当初の児童の思いや願いに沿いながら、複数の教科の目標や内容を組み合わせた学習活動を組み立てます。

見直し④関連的な指導 →P48

学んだことが、実生活や次の学習に生かされる実感に伴うように工夫します。

4) 「週時間割」(4月:2週目)の見直し(例)

| | 6日目 | 7日目 | 8日目 | 9日目 | 10日目 |
|-----|---|---|---|--|--|
| 行事 | 2年生となかよし | | ようこそ1ねんせい | 眼科検診 | 授業参観 |
| テーマ | 「ともだちだいすき」～友達と楽しく過ごしながら、学校生活が少しずつ分かる～ | | | | |
| 朝 | 絵本の読み聞かせや歌遊び・手遊びなどの活動を楽しみ、友達との一体感を高める ⑥ | | | | |
| 1 | <p>■がっこうのことが しりたいな</p> <p>※週の初めの支度</p> <p>音楽(0.5)</p> <p>合科的な指導</p> | <p>■がっこうのことが しりたいな ③</p> <p>国語(1)</p> <p>図工(1)</p> <p>算数(0.5)</p> <p>生活(0.5)</p> <p>体育(1)</p> <p>合科的な指導</p> | <p>国語(1)</p> <p>○こえをとどけよう</p> | <p>■がっこうのことが しりたいな</p> <p>音楽(0.5)</p> <p>算数(1)</p> <p>図工(1)</p> <p>国語(1)</p> <p>合科的な指導</p> | <p>■みんなとなかよく なりたいな</p> <p>生活(1)</p> <p>体育(1)</p> <p>書写(1)</p> <p>国語(1)</p> <p>合科的な指導</p> |
| 2 | <p>○こうかを うたって みよう</p> <p>○ひとと つながること ば</p> | <p>○ひととつながること ば</p> <p>・学校を歩いてみよう</p> <p>・校庭を歩いてみよう</p> | <p>行事(1)</p> <p>○「ようこそ1ねんせい」のかい</p> <p>・他学年との交流</p> <p>※いろいろな 並び方</p> | <p>○ひらいたひらいた</p> | <p>○いっしょにあそぼ う</p> <p>・校庭を探検しよう</p> <p>・何を見つけたかな</p> <p>※職員室の入り方</p> |
| 3 | <p>○じしょうかいカード をつくろう</p> <p>○がっこうのことが しりたいな</p> <p>「2年生となかよし になろう会」</p> <p>・2年生とペアで</p> <p>・自己紹介カードを 渡して、自分のこと を知ってもらおう</p> <p>・2年生と学校を歩 いてみよう</p> <p>○もういちど いって みたいな</p> <p>・次の学校探検の 計画を立てる</p> | <p>○誰かと会ったらどう するの?</p> <p>○すきなかたちやい ろなあに</p> <p>・見つけた好きなもの</p> <p>・好きなものを紹介 しよう</p> <p>○おおいのはどちら かな</p> <p>※幼児期に育った 数や量への関 心・感覚の想起</p> <p>○がっこうを たんけ んしよう</p> <p>○ゆうぐで あそぼう</p> | <p>算数(1)</p> <p>○なかもづくりと かず</p> | <p>○なかもづくりと かず</p> <p>○かきたいものなあ に</p> <p>○えんぴつをつかう ときにたしかめよう</p> <p>・作品の名前カード を書こう</p> | <p>○ゆうぐあそび、お にあそび</p> <p>○たのしくかこう</p> <p>・鉛筆で書いてみよう</p> <p>○あいうえおのうた</p> |
| 4 | | <p>○あいうえおのうた</p> <p>○あいうえおのうた ②</p> | <p>国語(1)</p> <p>○あいうえおのうた</p> | <p>○あいうえおのうた</p> <p>行事(0.5)</p> <p>・視力検査</p> | |
| 5 | | <p>特別活動(1)</p> <p>○あんぜんな どう げこう</p> | | <p>道徳(1)</p> <p>○「じゅぎょうが は じまりますよ」</p> | <p>授業参観</p> <p>音楽(1)</p> <p>○うたっておどって なかよくなるう</p> <p>※次週の期待をも つ</p> |

見直し⑤「柔軟な学習時間」の設定

授業時間を15分と30分に区切ることも考えられます。柔軟なスタイルを取り入れることで、活動にリズムができ集中力や深まりも出てきます。15分の時間設定は、朝の会や帰りの会などでも設定しやすく、授業に広がりが出てきます。

★区切り方

45分を
3分割

| |
|-----|
| 15分 |
| 15分 |
| 15分 |

★展開例

音楽:はくをかんじとろう

国語:あいうえおのうた

つながり

〈留意点〉

- ・単元や題材などの内容や時間のまとまりを見通して設定する。
- ・授業のねらいを明確にして実施する。

見直し⑥朝の時間の活用 →P51

入学後1～2週間程度は、朝の時間の過ごし方を工夫し、児童が安心感や自信、見通しをもって活動できるようにします。家に帰ってから「明日も学校に行きたいな」と思える時間となるように丁寧に計画しましょう。朝の時間が短い学校は、1時間目をモジュールとし、朝の時間から連続した時間として活用する計画を立てることも考えられます。

5) 朝の時間の活用(例①入学後1~2週間程度)

入学後1~2週間程度、年長期の生活リズムや一日の過ごし方に配慮し、朝の時間を工夫することにより、安心感や自信、見通しをもって、楽しい気持ちで活動することにつながります。

朝の時間から1時間目を連続した時間として計画することも考えられます。

安心して朝の時間を過ごせるように(15分程度)

- ① 登校後、朝の支度を済ませ、思い思いの活動をする。
- ② みんなが登校したら、落ち着いた雰囲気の中で**絵本の読み聞かせ**
- ③ 友達と一緒に体を動かしたり声を出したりする**歌遊び・手遊び**

- ・ 小学校に入学したばかりの児童は、期待と同時に不安を抱えています。
- ・ 年長期に親しんだ「読み聞かせ」や「歌遊びや手遊び」等を取り入れることで、児童の安心や楽しさにつながります。
- ・ 安心感とともに、友達との一体感も高まります。
- ・ 絵本を通して季節を感じることもでき、日常生活や各教科等の学習にも生かされます。

絵本の読み聞かせ

この絵本は初めて見たよ。どんなお話かな。

次の読み聞かせが楽しみだな!



手遊び・歌遊び

「ひらいたひらいた」は園で遊んだことがあるよ。

明日も、みんなで作りたいな。



学校の1日の過ごし方が分かり、安心して朝の時間を過ごせるようになったら……

6) 朝の時間の活用(例②入学後、約3週間目以降)

- ・ 朝の会(健康観察・朝の歌・今日の予定・先生の話 等)を取り入れて、一日の見通しをもつことができるようにし、児童の出番を増やして自信を付けさせる機会を設けます。
- ・ 係活動の時間として、より過ごしやすく、楽しくなるために自分達で工夫して活動する時間を設けると、クラスの一員としての自覚が高まります。
- ・ 各学校で計画されている活動(読書タイム、スキルタイム、各朝会、児童会活動 等)に少しずつ移行させていきます。

※朝の時間が設定されていない学校については、1時間目をモジュールとし、朝の時間から連続した時間として活用することも考えられます。朝の時間に1日の生活の見通しをもつことができると、安心感や自信をもって授業に臨むことにつながりますので、丁寧に計画しましょう。

(5) スタートカリキュラムの実践

スタートカリキュラムを実践する際は、次の4つのポイントを取り入れます。

ポイント1 生活や学習を「見通せる」工夫をしましょう

Q. 幼稚園や保育園の一日から、小学校の一日へ。児童の気持ちをどう切り替えたらいいの？

- ◇ 一日の生活を見通すためには？
 - ⇒ 一日の生活の流れを、絵や写真で視覚化する。
 - ⇒ できている児童をほめることで、どう行動すればよいかのモデルとする。
- ◇ 児童の集中力を保つためには？
 - ⇒ 時間の区切りを15分程度の短い時間とする。
 - ⇒ 「聞く」「話す」「動く」など行動のメリハリをつけた活動とする。

ポイント2 人とよりよい関係をつくるための仕掛けを工夫しましょう

Q. 複数園から入学します。小学校でもお互いを認め合う関係をつくるためには？

- ◇ 友達と、目標を共有して学ぶためには？
 - ⇒ クラスの目標を決め、できたことを帰りの会で振り返る。
 - ⇒ 取えて難しいめあてではなく、みんなが達成できそうなめあてにし、できたことを喜び合う。
- ◇ 他学年児童との交流を充実させるためには？
 - ⇒ 6年生担任と話合い、昼休みに1年生の教室や校庭で一緒に遊んだり、給食と一緒に食べたりするなど、交流の機会を設ける。
 - ⇒ 1・2年生の生活科で「なかよしになろう会」を計画し、1年生も主体的に活動する場を設定する。
 - ⇒ 全校で1年生の入学を歓迎する「ようこそ1年生の会」を開き、全校児童での交流活動を行う。
- ◇ 地域との交流をスタートさせるには？
 - ⇒ 生活科の「がっこうたんけん」や、特別活動「あんぜんなとうげこう」で地域の見守り隊の活動を知り、登下校時に進んであいさつができるようにする。



ポイント3 きまりや安全について理解させるための工夫をしましょう

Q. 児童の主体性を大切にしながらも、小学校のルールを教えるためにはどうしたらいい？

- ◇ 自分や友達の命や心を守るためには？
 - ⇒ 「命や心は、一番大事にしなければならいもの」ということ一貫して指導する。
 - ⇒ 安全な行動（交通安全や遊具の遊び方など）について生活科や各教科で合科的・関連的に学んだこと、特別の教科道徳や特別活動で関連的に学んだことを振り返ったり、確認したりする。
- ◇ 道徳性を高めるためには？
 - ⇒ 身近にいる友達や様々な人との触れ合いの中で、相手のことを考えて接している姿を褒める。
 - ⇒ 帰りの会などで、一日の生活中でよかったことを共有すると共に、困ったことがあればみんなて解決する場を設けるなど、特別活動と関連させて指導する。
- ◇ 規範意識を高めるためには？
 - ⇒ 生活の中できまりを守ったり、みんなが使うものを大切にしようとしたりする姿を認め、価値付ける。



(6) 小1スタートカリキュラム期の実践例

今回の小学校学習指導要領の改訂では、低学年の各教科等（国語科、算数科、音楽科、図画工作科、体育科、特別活動）においてスタートカリキュラムを行うことが明記されています。小1スタートカリキュラム期の実践例として、各教科等の中からの次の3つを紹介します。

① 生活科（□小学校学習指導要領解説生活編 P62～64参照）

スタートカリキュラムでは、生活科を中心に合科的・関連的な指導を工夫します。

実践例①生活科「夏がやってきた～砂場でみんなと楽しい遊びを創り出そう!～」



・園でも砂遊びをします。小学校との違いは何ですか？

⇒□P61【Q&A】

・園での砂遊びの経験は、小学校で生かされますか？

⇒□P58（第1次 砂遊び①）

② 国語科（□小学校学習指導要領解説国語編 P158～159参照）

人は、言葉で思考し、言葉で伝えます。言語能力は、全ての教科等の学習の基盤です。

実践例②国語科「場面の様子や登場人物の行動を想像して、音読発表会をしよう」



・園でも「劇ごっこ」をしますが、小学校との違いは何ですか？

⇒□P69【Q&A】

・どうやって学習計画を児童と共有すればよいですか？

⇒□P66（第1次）

③ 特別活動（□小学校学習指導要領解説特別活動編 P145～148参照）

新しい学級・学校生活に慣れるための活動を、各教科等と関連させながら仕組みます。

実践例③特別活動「みんなあそびをしよう」



・1年生の1学期でも、学級会はできるのですか？

⇒□P77【Q&A】

・学級会は、新しい学級・学校生活にどのように生かされるのですか？

⇒□P76（活動を通して学んだことを学級・学校生活へ広げる）

小1スタートカリキュラム期の実践で大切にしたいこと

➤ 主体的な学びとなるよう学習計画を立てます

「やってみよう!」「わくわくする!」と、意欲が高まる授業となるような課題設定が大切です。魅力的な学び・必然性のある学びとなるよう、児童と共に課題を設定し、単元計画を立てます。

➤ 幼児期の体験とのつながりを大切にします

遊びなどの「体験」と、「知ること」が結びつくと、「学ぶこと、知ことは楽しい!」と感じることに繋がります。児童理解を深めるために、児童がどのような思いや願いを持っているのか、実態把握をすることが大切です。

➤ 安心感をもてる言葉かけや授業の導入を工夫します

教師が「園では、どうしていたの?」と問いかけるなど、園での経験を生かす意識をもって児童に接することで、児童は安心感をもつことができます。児童が「学校は、園でやってきたことを使って、生活・勉強をしたらいいな。」という気持ちを持ち、安心して学校生活を送ることができるように、児童の思いや願いを見取ることが大切です。

◇ 実践例を読むにあたって(小1スタートカリキュラム期)

〇月 〇〇科「〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇」(全〇時間)

育成を目指す
資質・能力

| | | | |
|-------------------------------------|--|---|---|
| 知識及び技能 | 表現力等 | 思考力、判断力、人間性等 | 学びに向かう力、人間性等 |
| 生きて働く【知識及び技能】 「何を理解しているか、何ができるか」 | 未知の状況にも対応できる【思考力、判断力、表現力等】 「理解していること、できることをどう使うか」 | 「学びを人生や社会に生かそうとする【思考力、判断力、表現力等】 「学びに向かう力、人間性等」 | 「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか」 「学びを人生や社会に生かそうとする【学びに向かう力、人間性等】」 |

第1次

1 学習課題や学習計画を共有し、単元の見通しをもつ

【学びがいのある「学習課題」の設定】

- その単元で育成を目指す資質・能力(指導事項)を確認する。
- その資質・能力を育むための学習活動を教師が工夫したり、児童と話し合いながら学習課題を設定したりする。
- 設定した学習課題を常に意識し、振り返ることができるように工夫(教室掲示・ノートの工夫)する。

主体的な学びとなるように
「やってみよう!」「わくわくする!」と意欲が高まる学習課題を設定し、単元末には育成を目指す資質・能力が身に付いていることが大切です。

【これまでの学びを大切に「児童理解」を図る】

- 小学校で学んできたことを振り返る。
- 学習活動に関する園での経験を尋ねる。

【学習課題を解決する過程が見える「学習計画」の設定】

- 学びの道筋を見通す力を大切にする。
- 学習計画をもとに、自ら学習課題を見つける時間を確保する。
- 学習計画をもとに、児童が学習したことを振り返って自身の学びや変容を自覚できる場面

スタートカリキュラムでは柔軟に対応しましょう
・目指す資質・能力が育まれるのであれば、計画の途中であっても、児童の思いや様子を見取って、計画を変更することもあります。
・児童が安心して学習を進めることができるように、一人一人のよさや可能性、学びの状況を積極的に伝えていきます。

教材研究では、まず学習指導要領を見て指導事項を確認することが大切です。

教師の援助環境構成

・学びがいのある課題の設定

・興味・関心を高める学習活動の工夫

・見通しがもてる学習計画の設定

・学習課題や学習計画の視覚化

・課題解決のための、自分自身の解決方法を考える時間の確保

・自分の考えを友達に伝える時間の設定(ペア・グループ)

・集まる場の設定による安心感のある環境の確保


主体的な学びとなるための教師の援助

第2次

2 〇〇〇〇 3 〇〇〇〇 4 〇〇〇〇

児童の意識の流れを重視した展開を大切にします。

児童の反応を丁寧に見取り、共感・応答しながら、安心感の中で学習活動を進めていく。
T「なるほど。〇〇さんは、そう思ったんだね」「それいいね」



児童の反応は宝の山(例)行動が「固まっている」
→考えを整理している
→驚きすぎて動きがとれない
→予想外な反応に戸惑っている

・その子の反応の意味を捉えようとすることで、教師としての見取り力が高まり、児童理解が深まります。

「ぼくは〇〇の方がいいと思う」
課題解決に向けた見通す力の高まり

「この前、〇〇のときに、△△を使って、うまくいったよ」
これまでの学びを生かそうとする力
「じゃあ、△△を使ってみようか」
友達の意見の受容

児童のつぶやき、会話、行動などの具体的な姿

具体的な姿から見取った学びの価値付け

「……………」
〇〇〇〇
「……………」
〇〇〇〇

前の時間の学びを、本時につなげる声掛けをします。

・協働的な学びの賞賛

・対話を生かした解決の場の設定

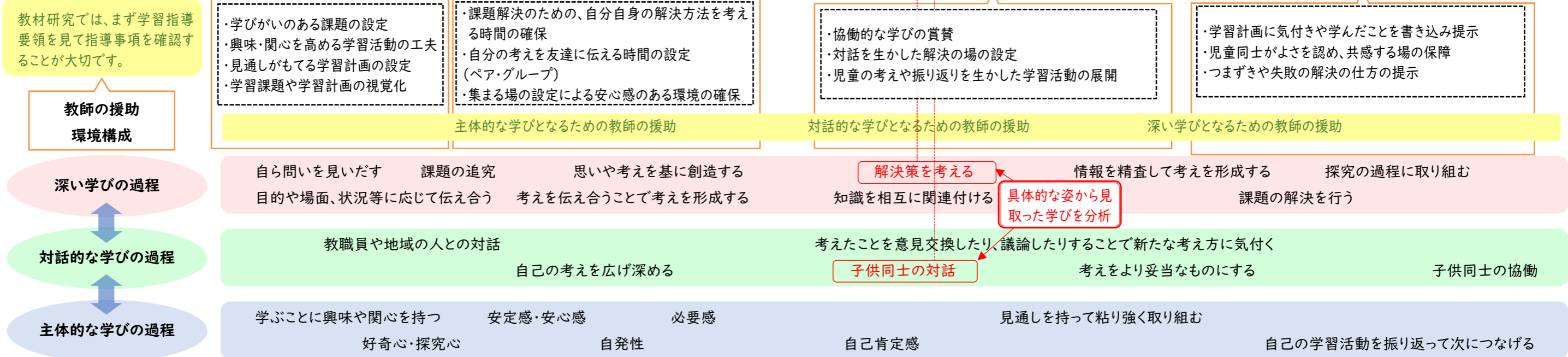
・児童の考えや振り返りを生かした学習活動の展開

・学習計画に気付きや学んだことを書き込み提示

・児童同士がよさを認め、共感する場の保障

・つまづきや失敗の解決の仕方の提示

対話的な学びとなるための教師の援助 深い学びとなるための教師の援助



〇月 〇〇科「〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇」(全〇時間)

第3次

5 学びの振り返り

【評価】特に4・5月は細やかな評価をするよりも、一人一人のよさや可能性を見取り、児童に積極的に伝えることが大切です。(評価の例)

・授業の様子や発言の見取り

特に4・5月は、ペアで意味を伝え合う学習や、作業をしている様子、また黙々と自力解決している様子を、単元を通して見取ります。単元を通して見取るためにはチェックリストを活用すると有効です。

・ワークシート等での振り返り

言葉での記述にこだわらず、線を引いたり、丸を付けたりにしているものから試行錯誤の様子を見取ります。

・身に付いた力を確かめる自作テスト

「本単元で育成を目指す資質・能力」が身に付いているか、ポイントを絞ったテストをすることもスタートカリキュラム後半では有効です。

「うまくできなかったので、色々な方法で練習したら、〇〇ができるようになりました。」

自分の成長への気づき

「△△の学習で、〇〇をすると、周りの人たちの役に立つことが分かって良かったです。」

学ぶことの価値の実感

身に付いた力を振り返る時間の確保
・振り返りの視点(学んだ力や付いた力、学び方、自分の成長等)の提示

振り返る

より深く理解する

意味や価値を創造する

子供と地域の人との対話

主体的に課題解決し、学習を振り返る中で自分の役割を認識できているものについては、「キャリア・パスポート」に収められる価値のあるものになる

※「キャリア・パスポート」・・・小学校から高等学校までのキャリア教育に関わる諸活動について、児童生徒自らが記録し、自らの学習状況やキャリア形成を見通したり振り返ったりしながら、自身の変容や成長を自己評価できるように工夫されたポートフォリオのこと。

【Q&A】(園の先生の疑問に答えます)

Q. 各実践例や小学校教育に関する、園の先生の疑問です。
A. 小学校の先生が、なぜそのような学びを仕組んだのか、小学校教育のポイントや大切にしていることについて理由を明確にして答えます。

【省察】

・主体的に学んでいる中にも、育成したい資質・能力が身に付いているか評価する。
・児童の多様性、一人一人の思いや願いを大切にできたか振り返る。
・「児童理解」をもとに立てた「計画」と「実践」であっても、実際の「ずれ」がないか常に児童の学びの様子を見取りながら、「計画」を弾力的に進めることができたか振り返る。

(知識・技能)

既存の知識及び技能と関連付けたり活用したりする中で、他の学習や生活の場面でも活用できる程度に概念等を理解したり、技能を習得したりしているか

→その素地として期待される、

小1スタートカリキュラム期での児童の姿(実践例から)

生活:砂の感触を楽しみ、遊びを工夫する面白さに気付いている
国語:「おおきなかぶ」の「誰がどのようにしたか」について理解している

特活:学級生活を楽しくするために、友達と協働して取り組むことの大切さを理解している

(思考力・判断力・表現力等)

課題を解決する等のために必要な思考力、判断力、表現力等を身に付けているか

→その素地として期待される、

小1スタートカリキュラム期での児童の姿(実践例から)

生活:試行錯誤を繰り返し、遊びや遊びに使うものを工夫している

国語:場面の様子が分かるように、様々な読み方を試している

特活:よりよい学級生活づくりについて考え、判断し、話し合っている

(主体的に学習に取り組む態度)

自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど自らの学習を調整しながら、学ぼうとしているか

→その素地として期待される、

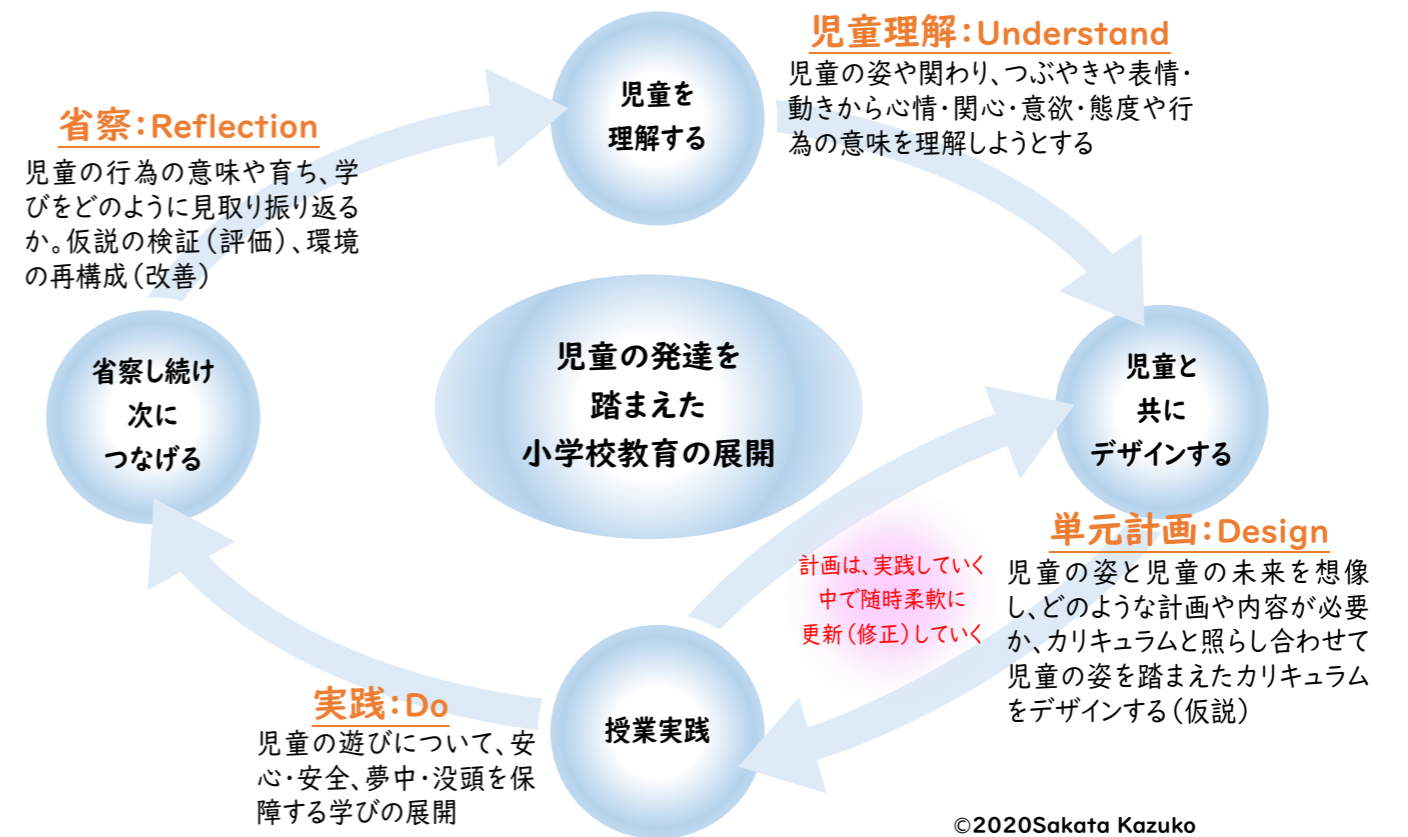
小1スタートカリキュラム期での児童の姿(実践例から)

生活:競い合ったり力を合わせたりして、友達と楽しみながら遊びを創り出している

国語:役割分担をしながら、最後まで楽しく学び続けている

特活:自分の考えをもち、積極的に意見を述べようとしている

小1スタートカリキュラム期で大切にしたいこと



【解説】

スタートカリキュラムは、児童の発達の特性や幼児期の発達を踏まえてデザインすることが重要^{P93-11)}と明記されています。まずは、児童の発達の特性、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿、学習指導要領等で目指す児童の姿、学校や地域の特性、保護者や地域の願い、そして児童の実態を踏まえて期待する児童の姿を共有しますが、ポイントは目の前の児童の姿から心情や関心などを見取り理解することです。

今までの生活から小学校での生活へ変化することを環境移行と呼びますが、環境移行初期は新たな環境の全体像がつかめず無自覚的な不安が生じます。期待と不安などの相反する感覚の二重性については、幼児教育の遊びの中で多くの葛藤と折り合いをつける経験を重ねていますが、環境移行自体は異なる文化へ所属する大きな段差になりますので、その段差を滑らかにして安心して学ぶ環境を整える必要があります。どこの園の子も、家庭から直接小学校へ入学する子も、全ての児童のありのままの姿を受け止め、安心して居場所感を児童自身がもてるような児童理解が学級経営の鍵になります。

教師が個人内評価を中心に子供一人一人のよさや可能性を評価し省察し続けると、自己肯定感を高めながら伸びやかに学ぶ児童の姿が立ち現れます。『学ぶことは楽しい』『分かる面白い』『難しいけど挑戦してみよう』など、学習への肯定的な感覚がスタートカリキュラム期以降の学びに向かう力へ繋がってきます。教科横断的に、合科関連的にマネジメントしていきましょう。

【坂田先生より】



幼児期とのつながりを大切にするために

幼児期の「遊び」とのつながりを大切に

遊びなどの「体験」と、「知ること」が結びつくと、「学ぶこと、知んことは楽しい」と感じることに繋がります。

安心感をもてるように

教師:「幼稚園や保育園では、どんなことをしたことがありますか?」
児童:「学校は、幼稚園でやってきたことを使って、勉強するところなんだな。」

単元を通した学びを、次に生かすために

【評価について】

・単元を通して、どこで、どのように評価するのか、計画をしておくことが大切です。
・特に4~5月は、ノートやワークシートへの記入については丁寧に指導し、児童が一つ一つ獲得していくプロセスを押しやっておく必要があります。
・「児童にどういった力が身に付いたか」という学習の成果を的確に捉え、教師が指導の改善を図るとともに、児童自身が自らの学習を振り返って次の学習に向かうことができるようにすることが大切です。

◇ 実践例① (小1スタートカリキュラム期)

6月上旬 生活科「夏がやってきた～砂場でみんなと楽しい遊びを創り出そう!～」

(全4時間)

育成を目指す
資質・能力

知識及び技能

土や砂の感触を楽しみながら、砂遊びの面白さや自然の不思議さに気付く
【内容(6)その面白さや自然の不思議さに気付く】

表現力等

土や砂の特徴を見つけ、思考錯誤を繰り返しながら、遊びを工夫する
【内容(6)遊びや遊びに使うものを工夫してつくる】

人間性等

遊びに向かう力、友達のよさを取り入れたり自分との違いを生かしたりしながら、みんなと楽しんで砂遊びを創り出そうとする

第1次 砂場で遊んでみよう(1時間)

1 幼児期の経験を共有したり、実際に砂場で遊んでみたりして、
思いや願いを確かにする(砂遊び①)

【学びがいのある「学習課題」の設定】
T:学校探検ではどんなものを見つけましたか。
「小学校は、広くて色々なものがあつたね。」
「運動場で砂場を見つけたよ。遊んでみたいな。」
T:今までにどんな砂遊びをしましたかありますか?
「山を作ってトンネルを掘ったことがあるよ。」
「穴をたくさん掘って、その中に水を入れて、足を入れたよ。気持ちよかったよ。」
「よし、みんなで作ってみよう。」 **これまでの経験の共有・意欲の高まり**

ふかふかの砂場を見つけたよ。みんなに知らせよう。
前単元とのつながり

【学習課題】 砂場でみんなと楽しい遊びを創り出そう!
「大きな山をいくつも作ってみたいな。」 「カップを持ってきてケーキ屋さんやお団子屋さんを開きたいな。」 「川を作って水を流してみたいな。」 **自分の思いや願いの明確化**

小学校には多数の園から入学するので、新しい友達とも関わることで新しい発見が生まれる。幼児期の経験を共有し、安心感をもって砂遊びをしながら、砂場遊びの新たな楽しみ方を見出してほしいという願いをもち、児童と共に本学習課題を設定した。

【これまでの学びを大切に「児童理解」を図る】
・学校探検では校内を見て回り、様々な施設や、様々な人がいることに気付いた。
・その中で、様々な施設で遊んだり、人と関わったりしたいという思いをもった。
・園での楽しかった経験(砂遊び・水遊び)を想起し、新しい友達とも遊びたいという願いや思いをもった。

【学習課題を解決する過程が見える「学習計画」の設定】
・学びの見通しと経験をもとに自分の学習課題を見つける。 ・学びを振り返る場面を設定する。

砂の中は冷たくて気持ちいいな。場所による温度の違いの気付き
ぎゅっと固めると団子ができたよ。湿った砂の特徴の気付き
上から落とすとさらさらだね。乾燥した砂の特徴の気付き
ふかふかだから手で集められるよ。砂の手触りの気付き

第2次 砂場で楽しい遊びを創り出そう(2時間)

2 それぞれの思いや願いを遊び、遊びを工夫しようとする(砂遊び②)

砂遊び②前半

川の砂を山に使うと崩れにくいよ。砂と水の関連性の気付き
こっちの川に水を入れてね。はい、いいですよ。役割分担

トンネルの中で手がつなごうよ。協働の喜び
一番高い山はどれかな。数や長さへの関心

もっと高い山や長い川をたくさん作りたいです。振り返りによる新しい課題設定(ホワイトボード赤線・赤文字部分)

やま とんねるかわ なぎさ むとたかいやま おんこ けさきじつけん むとながいかわ うみ おんこ **作戦タイム**

個々の遊びが、同じ遊びをするグループでの活動に発展し、役割分担や協働作業が生まれ始めた。中間の振り返り(作戦タイム)では砂場全体を眺め、これからどうしていきたいのかを出し合う時間とした。そこでは新たな思いや願いが生まれ、教師が板書することで全員が共有した。

砂遊び②後半

バケツやザルを使うと、大きな山ができるよ。道具の工夫
水って重たいね。二人で運ぼうよ。水の特徴・友達との協力

川と川をつないで長くして、海も作ろう。振り返ったことの実行
ケーキとお団子屋さんができるよ。道具の工夫・活動への没頭

完成

新たに生まれた思いや願いを実現するために、これまでの経験等を関連付けながら遊びを工夫し、最後には「砂場の町」が完成した。「遊びを創り出している姿」だと捉える。

教師の援助
環境構成

- ・前単元「学校探検」での気付きや振り返りを想起させる発問や掲示物の提示
- ・幼児期の経験の想起
- ・環境整備(遊びたい砂場になるよう掘り起こす)

- ・前単元「学校探検」での気付きや振り返りの掲示物の提示
- ・幼児期の体験との関連付け

- ・気付きを自覚させたり、関連付けたりするための教師の言葉掛け
- ・活動の振り返りを共有するために、児童の活動や言葉を教師が板書

- ・児童の学習課題に対して解決するための支援
- ・児童の気付きに対する共感や称賛
- ・グループ内やグループ間での情報の共有化を目的とした対話活動の設定

深い学びの過程

知的な気付き
情意的な気付き
無自覚だった気付きの自覚化

没頭する
思考錯誤
気付きの質の高まりによる対象の意味付けや価値付け
個別の気付きの関連付け

対話的な学びの過程

経験の共有
見通しの共有

対話

自己の考えを広げる・深める

協働

言語活動(友達同士の対話・教師との対話)による気付きの質の高まり

主体的な学びの過程

思いや願いの実現に向けて「何をするか」
興味・関心
見通し

試行錯誤

粘り強く取り組む

第3次 遊んだことを振り返ろう(1時間)

3 遊びを振り返り、楽しかったこと、友達と一緒にできたこと、もっとやってみたいことなどを発表し合う



【ワークシート】
ひらがなでの記述については丁寧に指導すると共に、絵や発言からも児童の思いを読み取る。

【評価】
(1) 砂遊びや砂遊びに使うものを工夫を通して、砂遊び自体の面白さや友達と協力して遊びを創り出す面白さ、自然の不思議さに気付いている。(知識・技能)
(2) 試行錯誤を繰り返しながら、砂遊び自体を工夫したり、材料や道具を工夫したりしながら、さらに楽しくするために考えを巡らせることができる。(思考・判断・表現)
(3) 幼児期での経験を基に、思いや願いを明確にして進んで活動したり、もっと楽しくできると信じて試行錯誤を繰り返したりし、達成感や手応えを感じている。(主体的に学習に取り組む態度)

「ぼくは山を作っているところが楽しかったです。砂を触ったらとても気持ちよかったです。」 対象との関わり
「砂場でお山や町を作ったり、ケーキを作ったりしました。私はケーキを作りました。一番上に団子を乗せました。」 遊びへの没頭 遊びの工夫
「わたしは〇〇さんとお山を作りました。わたしと〇〇さんのお山ができたときに後ろを見たら町ができていたと思いました。またやりたいです。」 達成感・意欲
「わたしは砂場でお山を作りました。水をたくさん持ってきて、お山を固めました。次に4人で穴を開けたらつながったので嬉しかったです。」 遊びの工夫 友達との関わり・協力
「ぼくは金曜日に砂遊びをしました。楽しかったです。また遊びたいです。みんなとても頑張っていました。みんなすごいね。」 自分・友達の頑張りへの気付き
振り返りでは、写真を見ながら感想を述べ合った。写真を見ることで、その時の様子や気持ちがい出しされると共に、自分の姿を客観的に捉えることができると考えた。ここでは、砂や水など対象への気付きにとどまらず、友達と協働したことや自分自身が頑張ったり工夫したりしたことへの気付きや、次への意欲が生まれた。

感想交流の工夫
(画像を準備し、遊んだ時の様子や気持ちがい出しできるようにする)

評価の工夫
(活動の中で適宜、評価を行う)

対象への気付き ものの変化や特性の捉え 成功感・達成感
自分自身への気付き 仲間意識

交流 共有化
友達のよさや得意としていることに気付く 認め合う 生かして共に生きる

意欲や自信 振り返る 自身の学びや変容を自覚する 学びを次の活動や生活に生かす 新たな挑戦

【Q&A】(園の先生の疑問に答えます)

Q 園では「砂遊び」を経験しています。幼児期と小学校の「砂遊び」は、何が違うのですか。
A 小学校では、単元で目指す三つの資質・能力を明確にし、指導を行います。児童と一緒に学習課題を見だし、見通しをもたせながら学習に取り組み、評価を行います。多くの児童が、園で砂遊びの経験をしていることを踏まえ、小1スタートカリキュラム期では、園での経験を共有したり、試しに一度砂場で遊んでみたり、学校探検での気付きを出し合ったりしながら、安心感をもって砂遊びに対する思いや願いをふくらませていくことを大切にしています。
さらに、小学校では気付きの質を高める工夫を行っています。無自覚だった気付きが自覚されるように、また、気付きが関連付けられ、友達や自分自身への気付きへと高まるように、振り返りの中で意図的に言語活動を仕組みます。
Q ひらがなを習いたての児童にどのように振り返りをさせますか。
A 幼児期に文字への興味・関心が高い児童の意欲は大切にしながらも、児童一人一人が自分の気付きを安心して表現できるように工夫します。例えば、本単元では、児童の言葉を教師が文字や絵で板書しながら全員で共有したり、活動場面の画像を見せて振り返ったりしました。また、学習評価では、児童の言動を観察し言葉を掛けたり、ワークシートに描かれた絵の内容を読み取ったりしながら、多面的に評価を行います。

【省察】

本単元は、児童が身近な自然で遊ぶ活動を通して遊びを工夫し、その面白さや自然の不思議さに気付くとともに、みんなと楽しみながら遊びを創り出そうとすることを目指して設定した。
幼児期の経験や入学してからの経験を基に、個々の思いや願いから始まった砂場での遊び。最初は、個別の活動だったものが次第に「山作り」や「型作り」等、同じ活動をしている友達との情報交換や協力関係が生まれ始めた。土や砂の感触を楽しみ、「ぎゅっと固めると団子ができたよ」「上から落とすとさらさらだね」と砂遊びの面白さを共有する姿があった。
2次目になると、自分たちの遊びを「もっと〇〇したい」という思いから、様々な工夫を重ねていった。さらに、グループ間での交流が生まれ、お互いにできたものを壊さないように気を遣ったり、協働・連携し合ったりすることを楽しみ始めた。友達のよさを取り入れたり、自分との違いを生かしたりしながら、砂の特徴を見つけて試行錯誤を重ね、砂遊びを工夫する姿が見られた。
教師は、個人間やグループ間の気付きを自覚させ、つなぎ、共有させることを意図して、質問や共感、交流の場(作戦タイム)の設定等を行った。さらに、学習課題「遊びを創る」ということに関し、最大限の価値付けを行うことで、さらなる意欲につながった。最後には、1年1組のみんなで作った「砂場の町」が完成し、成功感や達成感を感じることができていた。

【知識・技能】

- ・濡れた砂が崩れにくいや「川を広げた分、深く掘らなければならない」等、砂の特性に気付いている。
- ・シャベルやじょうろ、バケツ等の道具の特徴を生かしながら遊ぶことができています。

【思考・判断・表現】

- ・自分たちの砂遊びをより楽しくするために、どのような工夫や道具が必要かを考えている。
- ・改善点や準備するものを考えながら活動することができています。

【主体的に学習に取り組む態度】

- ・思いや願いを互いに大切にしながら、協働することや連携することのよさを感じている。
- ・成功感や達成感をもったことを自信につなげ、新たな活動への意欲となっている。

【実践例についてのコメント】

園や家庭から小学校へ入学した子供にとって、小学校はとて大きく広い空間です。生活科で計画されている学校探検は、初めて出会うものやこと、今まで出会ったことのあるものやことの中で、ワクワクドキドキする時間でもあります。
本単元の【学びがいのある「学習課題」の設定】は、砂場を確認した児童の声を踏まえて幼児期の経験を基に授業が始まっています。砂遊びのよさは、個々が可塑性に富んだ砂との関わりに夢中になり没頭できること、そして個別の活動が『場』を中心に繋がる可能性をもつことです。教師は2次目に見られた児童の工夫、交流、協働・連携を確認し、個々の学びを共有する時間として作戦タイムを設けています。
個々の学びと次の目標へのつながりをホワイトボードに板書し、砂場の全体図を描いて児童が『砂場の町』を創り出しやすいよう価値付けを行っています。イメージの共有は集団で問題解決をする際の中核になります。さらに振り返りでは、砂場での写真を見ながら、友達と協働したことや工夫したことなどを確認しながら学習したことを自覚できる提示の工夫や、活動を学習したてのひらがな文字と絵で表現し思いを見取るなど、幼児期の学び児童の思いを大切にしたい小1スタートカリキュラム期の特徴を踏まえた実践と
【坂田先生より】



■単元計画(全4時間) 【生活科】

| 次 | 時 | 学習活動 | 指導上の留意点 |
|---|-----|--|--|
| 1 | 1 | <ul style="list-style-type: none"> ▶ 幼児期の経験を共有し、実際に砂場で遊ぶことで、思いや願いを確かにする。(砂遊び①) ・前単元を振り返る。 ・幼児期の経験を共有し、砂遊びをする。 ・学習課題と学習計画を立てる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・前単元「学校探検」の地図や写真などを掲示し、学習内容を想起させる。 ・砂場遊びができる環境を整え、児童の関心意欲を高めておく。 ・幼児期の経験を交流する場を設け、個々の思いや願いをもたせる。 |
| 2 | 2・3 | <ul style="list-style-type: none"> ▶ それぞれの思いや願いをもって遊び、遊びを工夫しようとする。(砂遊び②) ・学習課題を確認し、見通しをもつ。 <p>【前半】</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 思いや願いに基づいて遊ぶ。 ・川を作る ・山を作る ・型どり遊びをする ▶ 作戦タイムをする。 ・川をもっと長くしたい ・山をもっと高くしたい ・お店屋さんになりたい | <ul style="list-style-type: none"> ・活動日までに道具を準備するように知らせ、意欲を高める。 ・友達の作ったものは壊さないように気を付けている児童の様子を見取り、そのよさを全体に広げる。 ・楽しく遊ぶための約束やルールを確かめる。 ・【砂遊び(前半)】の活動を振り返らせ、児童の活動や言葉を教師が板書し、共有できるようにする。 |
| | | <p>【後半】</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 作戦タイムを基に遊びを工夫する。 ・「バケツだと水がたくさん運べる。重いから二人で運ぼう。」 ・「ざるを持ってきたら土がたくさん運べる。」 ・「箱の上にケーキを並べよう(お店屋さん)。」 | <ul style="list-style-type: none"> ・砂場全体を見渡して、変わっていく砂場の様子に気付かせ、今後の見通しをもたせる。 |
| 3 | 4 | <ul style="list-style-type: none"> ▶ 遊びを振り返り、楽しかったこと、友達と一緒にできたこと、もっとやってみたいことなどを発表し合う。 ・写真をもとに活動を振り返る。 ・ワークシートに書いたり、発表したりする。 | <ul style="list-style-type: none"> ・活動や、活動中の気持ちを想起させるために写真を提示する。 ・文字だけではなく、絵からも児童の気付きを読み取る。 ・学習課題に対する価値付けを行う。 ※新たな課題の発見 ※協力・協働をしている姿 ※よりよい遊びへの工夫 |

展開案①

展開案②

■展開案①(生活科:砂遊び① 1/4)

1 本時の目標 幼児期の経験を共有し、実際に砂場で遊ぶことで、
思いや願いを確かにする。

〈指導のポイント〉
・安心感をもてるようにする工夫
・環境構成の工夫 など

2 学習の流れ

| 学習活動 | 指導上の留意点 | 備考 |
|--|---|---|
| <p>1 前単元「学校探検」の学習内容を想起させる。</p> <p>・「学校探検」では、どんなものを見つけたか確かめ合う。</p> <p>・幼児期の砂遊びの経験を交流する。</p> <p>※「幼稚園で砂遊びをしたよ。」 ※「また砂遊びをしたいな。」 ※「山やトンネルを作ったよ。」 ※「学校にも砂場があったね。」 ※「新しい友達と砂遊びをしたいな。」</p> <p>2 砂遊びをする。</p> | <p>▶「学校探検」に関する掲示をする等、児童の関心・意欲を高めておく。</p> <p>▶個々の思いや願いをもたせる。</p> <p>▶幼児期の遊びや生活の経験を想起させることで、児童が安心感をもてるようにする。また、教師は児童の思いや願いを理解する。</p> <p>▶児童の新たな思いや願いを見取る。</p> | <p>地図・写真</p> <p>「学校探検」の地図や写真などを掲示し、学校の中の様子をいつでも確認できるようにしておくといいですね。</p> <p>集まる場 電子黒板</p> <p>児童一人一人の実態に合わせてながら、(電子)黒板前「集まる場」を設定することで、友達存在を身近に感じることができます。</p> <p>園訪問等での砂場遊びの写真があれば提示し、思いや願いを共有することもできます。</p> <p>砂場</p> |
| <p>3 砂遊びを振り返り、学習課題と学習計画を立てる。</p> <p>※「大きな山を作りたい。」 ※「カップを使ってケーキを作りたい。」 ※「川を作りたい。」</p> | <p>▶児童の思いや願いをもとに、学習課題と学習計画を立てる。</p> <p>▶学習を振り返り、これまでの経験をもとに、新しい友達と楽しく遊べたということを実感できるようにする。</p> | <p>砂場で安全に遊べるか確認する等、砂場遊びができる環境を整えておきます。</p> <p>次の活動に意欲を持つ姿を「遊びを創り出す」視点で褒めると、クラス全員で遊びを創ろうとする雰囲気生まれます。</p> |
| <p>【学習課題】 砂場でみんなと楽しい遊びを創り出そう!</p> | | |

■展開案②(生活科:砂遊び② 2・3/4)

1 本時の目標 それぞれの思いや願いをもって遊び、遊びを工夫しようとする。

〈指導のポイント〉
・安心感をもてるようにする工夫
・環境構成の工夫 など

2 学習の流れ

| 学習活動 | 指導上の留意点 | 備考 |
|---|---|---|
| <p>【前半】(1時間)</p> <p>1 学習課題を確認し見通しをもつ。</p> <div data-bbox="263 566 651 647" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>すなばでみんなとたのしいあそびをつくりだそう!</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・前時(砂遊び①)を想起する。 ・本時の見通しをもつ。 <p>2 砂遊び(前半)をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・川を作る ・山を作る ・型どり遊びをする <p>3 作戦タイムをする。</p> <p>〈児童の思い〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・川をもっと長くしたい ・山をもっと高くしたい ・お店屋さんになりたい | <p>※活動日までに道具を準備するように知らせ、意欲を高めておく。</p> <p>▶前時(砂遊び①)の振り返り(児童の思いや願い)を想起させる。</p> <p>▶児童の新たな思いや願いを見取る。 ※個々の遊びからグループ活動へ ※役割分担や協働作業へ</p> <p>▶【砂遊び(前半)】の活動を振り返らせ、児童の活動や言葉を、イメージしやすいように言葉や図で板書し、共有できるようにする。</p> <div data-bbox="699 1160 1066 1216" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>作戦タイムで出た意見を書き加えます。</p> </div> | <p>掲示物</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動日のカレンダー ・砂遊び①の写真 <p>ホワイトボード 集まる場</p> <div data-bbox="1166 1037 1377 1198" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>ホワイトボードに書くことで、気付きをみんなで共有することができます。</p> </div> |
| <p>【後半】(1時間)</p> <p>4 砂遊び(後半)をする。</p> <p>〈児童の思い〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「バケツだと水がたくさん運べる。重いから二人で運ぼう」 ・「ザルをも持ってきたら土がたくさん運べる」 ・「箱の上にケーキを並べよう(お店屋さん)」 <p>5 学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・思いや気付きを出し合う。 | <p>▶砂場全体を見渡して、変わっていく砂場の様子に気付かせ、今後の見通しをもたせる。</p> <div data-bbox="730 1417 1129 1601" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>アイデアをみんなで出し合い、自分たちで遊びを創る経験をすることで「自分たちで遊びを創り出した。」という学習への意欲が生まれます。</p> </div> <p>▶学習を振り返り、「みんなと楽しい遊びを創り出した。」ということを実感できるようにする。</p> | <div data-bbox="1166 1641 1377 1899" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>砂遊びを工夫している姿や、対話の中で気付きをもつ姿を褒め、学級全体に紹介すると、次の学びにつながります。</p> </div> |



ザルやバケツを使おう

「大きな山ができるよ。」

「バケツでも山が作れるよ。」

比べてみよう

「どうやって比べようかな。」

「これ(1メートル定規)使えるんじゃないかな。」



川と川をつないで長くしよう 海も作ろう

「みんなでどんな町を作ろうか。」

「山から川が流れてきてるよね。」

「川は海につながってるよね。」

「海も作ろうよ。」



◇ 実践例② (小1スタートカリキュラム期)

7月 国語科「場面の様子や登場人物の行動を想像して、音読発表会をしよう」

(「おおきなかぶ」全8時間)

第1次(1時間)

第2次(4時間)

育成を目指す
資質・能力

1 学習課題や学習計画を話し合って立てる。

2 既習教材「みんなのせかい」
を活用し、グループで『音読の
ポイント』を話し合う。(1時間)

3 『音読のポイント』を生かして、「おおきなかぶ」の音読の仕
方をグループで考える。(3時間)

知識及び技能

表現力等

人間性等

学びに向かう力、
人間性等

文の中における「誰が、どうしたのか」という関係に気付く
【(1)言葉の特徴や使い方に関する事項力】

場面の様子や登場人物の行動を手掛かりとして、内容の大体を捉える
【C読むこと 構造と内容の把握(1)イ】

物語の展開を楽しんで読み、音読発表をすることで、言葉を通じて友達や
周りの人と関わり、思いや考えを伝え合おうとする

【学びがいのある「学習課題」の設定】

- ① お話の楽しさを深く知り、もっと本を好きになる学習をします。(付きたい力)
- ② お家の人や園の先生を呼んで、音読発表会をします。(言語活動)
- ③ お話に出てくる人のしたことや、場面の様子が分かるように読み方を比べながら考えます。(学び方・思考の仕方)



①付きたい力



②言語活動



③学び方・思考の仕方

【これまでの学びを大切に「児童理解」を図る】

- ・声を揃えて読む楽しさに気付いた。
- ・「とんことん」を読んで登場人物に分けて読む楽しさに気付いた。
- ・園では、発表会に向けて、みんなで一つのことに向かって頑張りたいという思いをもった。

【学習課題を解決する過程が見える「学習計画」の設定】

→教師による言葉掛けで、これからの見通しをもつことができる。

| | | | | | | | |
|----------------|----------------|----------|---|---|-------------------|--------------------|-------------------|
| 8 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| ついたちからをたしかめよう。 | おんどくはびょうかいをする。 | りはあさをする。 | | | でのおんどくのしかたをかんがえる。 | みつけたばいんどをいかして、ぐるうぶ | たのしくおんどくするばいんどをみつ |

T「明日、本番で大丈夫？」
C「その前に練習がいるよ！」
発表会成功のための必要性に気付く

T「園ではどんなことをしたの？」
C「チームでしたことがあるよ。」
T「チームって、グループってことかな？」
「じゃあ、グループで発表しようか」
過去の経験の想起

C「緊張するけど頑張りたいな」
学ぶことへの意欲の向上・好奇心

C「みんなとならできそうだな」
友達と学ぶことでの安心感

○一人一人に「私の問い」をもたせる。

→音読発表会を成功させるために、頑張りたいことや上手になりたいことを考える。

(例)「お家の人を楽しんでくれるには、どんな読み方をすればいいのかな。」

(「私の問い」とは)自ら課題を見つける力を身に付けるために、学習活動を解決するために、自分なりに頑張りたいことを考えて、「私の問い」として記述します。

教師の援助
環境構成

学習の流れの見通し 学びの必然性
解決したくなる課題の設定

児童の気付きを促す教材の提示
解決に对话が必要な場の設定

○グループでの話し合い



C「人数が増えているよ」
人数の変化への気付き
挿絵を手掛かりにした物語の面白さの実感
C「最後のポーズはみんなで手をつなごう」
登場人物の気持ちの動作化することによる表現

どのように読めば聞き手に様子や気持ちが伝わるのかについてグループで意見を出し合い、学級全体で『音読のポイント』として設定し、これからの学習に生かすようにします。

話し合いで設定した『音読のポイント』
① 誰がどうしたのかを確かめる。
② 場面の様子から、読み方や読む人数を話し合って決める。

○本文を読んでグループで話し合いながら工夫を考える。



C「出てくる人が増えたから、音読する人も増やそうよ」
獲得した知識の活用
対話による内容理解の深まり
C「どうしたら、かぶが抜けなくていいかな」
相手意識を持って課題を解決しようとする思い

○グループ同士で見合う。



C「このグループは声がそろっているところがいいね」
C「〇〇さんたちのグループは、引っ張る動きを付けていたよ」
T「よいところに気付いたね」
互いの考えを伝え合うことによる気付き

○見つけた工夫を自分のグループに生かす。



C「自分達のグループでも真似しようよ」
音読の工夫の選択
C「前より音読が楽しいな」
物語の面白さの実感
自分の成長への喜び

「このグループはこんな工夫をしているところが素晴らしいね。」と各グループのいいところを学級全体に広げられるような声掛けができると、それぞれの工夫を共有できます。

お互いを認め合う時間の設定
自由に話し合い活動ができる場・時間の設定
協働的な学びへの称賛

深い学びの過程

自ら問いを見いだす

解決策を考える

物語の面白さの実感

知識を相互に関連付ける

より深い理解

読み方の吟味

対話的な学びの過程

友達と協力することへの期待
見通しの共有

話し合い
協働
友達の良さへの気づき

工夫の共有
相手の意見の尊重

互いの考えの伝え合い
友達と学ぶことの楽しさへの気付き

主体的な学びの過程

音読発表会での学びへの期待感

自分なりの課題の設定

興味・関心

動作化

課題を解決しようとする思い

試行錯誤

粘り強い取組み

園での経験からの発表会への期待感

第3次(3時間)

6 リハーサルをすることで自分達の課題や互いのよさに気付く

○互いのグループの発表を見合い、自分達の課題や他のグループのよさに気付く。



C「緊張するけど、このグループだから頑張れそう」

友達と学ぶことへの安心感

C「先生、昼休みも練習してもいい？」

T「え、何で昼休みも練習しようと思うの？」

C「だって、さっき上手くいかなかったもん」「もっと頑張りたい」

自己を振り返り、発表会を成功させようとする成功意欲の高まり

C「明日が早く来ないかな」

今までの学習に対する自信・充足感からくる期待

リハーサルをすることで自分達を振り返って課題を見つけることができると共に、本番への期待が高まります。

7 「1の1音読発表会」を開き、参観者に聞いてもらう

○お客さんの前で「音読発表会」をする。



【参観者の言葉】

・みんなで協力して発表できて、よかったと思いました。とても楽しかったです。
・お話に合わせて人数が増えていたので、どんなお話がよく分かりました。

C「最初はすらすら読めなかったけど、読めるようになったからよかった」

T「前の自分の音読と比べたんだね」

課題を解決したことへの喜び
力の高まりに対する満足感

C「練習を頑張ってたかった」

他者から認められた喜び
学ぶ価値の自覚

他者の評価を児童に直接伝えることで、児童の達成感がより高まり、次の活動への意欲につながります。通信で感想欄を設けたりすることが考えられます。

8 付いた力を確かめる

○教師が自作した問題で、学習評価をする。

→他の物語を使って問題を作成し、内容の大体を読み取ることができると確認する。

読書や安心できる居場所の広がり

(単元のその後)

児童の読書への関心が高まり、絵本を選んで音読をする児童の姿が見られるようになりました。

○音読が楽しめる本の読み聞かせをする。



毎日、学級文庫の本を入れ替えてたくさん本に触れさせる中で、児童が自覚的に読み聞かせを始めました。また、図書館で選んだ本を音読することも楽しんでいました。

【Q&A】(園の先生の疑問に答えます)

Q.年長期の「劇ごっこ」との違いは何ですか。

A.単元で育みたい三つの資質・能力を児童が身に付けていくための言語活動として、音読発表会を設定しています。音読発表会を成功させることは児童の願いではありますが、単元を通して身に付ける力を獲得していくことを丁寧に進めていく必要があります。児童は、音読発表会の成功を喜びますが、それは三つの資質・能力が身に付いていることが前提です。小学校では、単元で育みたい資質・能力に適した言語活動を設定しています。今回は、単元に適した言語活動として音読発表会を設定しました。理由は、4月からの国語科の学習「あいうえおのうた」「あめですよ」「とんこととん」でのリズムカルな言葉や登場人物の会話を楽しみながらの音読の経験、そして園での経験から、音読発表会をすることで児童が安心感をもつことができると考えたからです。

Q.単元で身に付いた力の評価は、ペーパーテストだけで行うのですか。

A.ペーパーテストもありますが、実技テストもあります。三つの資質・能力のバランスのとれた学習評価を行っていくためには、発表、グループでの話し合い、作品の作成など、単元末だけでなく、学習過程の中の多様な活動も評価の対象とします。単元末において、育みたい力が身に付いていない場合は、補充の指導を行います。

【省察】

国語科では、言語能力を育成する中心的な役割を担っており、言語活動を通して資質・能力を育成することが特に大切である。本単元では既習内容や園での経験を踏まえ、言語活動として音読発表会を設定していたところ、単元の導入では児童からも「劇みたいにやってみよう！」という声が出てきた。

しかし、人前で発表することに「失敗するかも」「緊張して声が出ないかも」と、苦手意識や恥ずかしいという思いをもっている児童もいた。音読発表会に意欲的な児童達が「一緒に頑張ってみようよ！」と励ますと、不安感をもっていた児童達も「グループでするならできるかも！」と意欲が高まり、グループで音読発表会をすることに決まった。

音読を重ねることで、「誰がどのようにしたのか」を何度も確かめ、場面の様子や登場人物の行動を把握しながら学び進めることができるように『音読のポイント』を設定した。

音読の仕方をグループで考える場面では、他のグループの工夫に気付いて取り入れようとしていた。また、「ここは何人で読む？」「一人増えたから3人にしよう」など、教科書の文章を根拠に話し合いが進められるようになり、「教科書を読んでいると、面白くなってきたね」という声も聞こえてきた。発表会が近づくと、グループで進んで練習に取り組み、自分達の課題や他のグループのよさに気付いて積極的に伝え合う姿が見られた。また、児童の発案で掲示物やお面作りを行うなど、本番を楽しむ気持ちや、お客さんを精一杯迎えようとする相手意識が高まっていた。本番後の参観者からのコメントをもらえたことが児童の自信となった。

音読発表会の後に、「お話、楽しいね」「他のお話も読んでみたい」「絵本が好きになったよ」と進んで本を読む姿が見られた。学習を通して、「読む」ということへの関心が高まったことを実感した。

(知識・技能)

・「おおきなかぶ」の「誰がどのようにしたか」について理解している。

(思考・判断・表現)

・場面の様子が分かるように様々な読み方を試している。
・何人で読めばよいのか話し合っている。

(主体的に学習に取り組む態度)

・友達と協力して物語を読んだり、音読の練習をしたりして、音読発表会を成功させようとしている。

【実践例についてのコメント】

自覚的な学びが始まったばかりの小1スタートカリキュラム期。担任が児童の学習を支えようとする安心であたたかさが込められている単元計画です。その先生の気持ちや願いは『隠れたカリキュラム(hidden curriculum)』となって子供達に伝わります。文部科学省は「隠れたカリキュラム(hidden curriculum)は、「教育する側が意図する、しないに関わらず、学校生活を営むなかで、児童自らが学びとっていく全ての事柄」を指します。学校・学級の「隠れたカリキュラム」を構成するのは、それらの場の在り方であり、雰囲気といったものである」としています。

自覚的に学ぶことが始まった子供達の意欲を受け止める一方、苦手意識や心配さをもつ子供達の気持ちを見取り、『私の問い』を立てることによって学習の流れの見通しをもち、学びの必然性に気付き、解決したくなる課題が設定され、一人ではなくグループで学び合うことで子供の見方・考え方を広げる計画になっています。

発表会成功に向けて意欲が高まる中、リハーサルの必要性を感じている姿や発表会後の学習の振り返りから、子供が学ぶ価値に気付いている様子と、『1の1音読発表会』として学級意識を高めようとする児童を支える教師の援助が見られます。



【坂田先生より】

© tutumi

それぞれの頑張りの承認
感想交流による本番への意欲の向上

意図的な地域・保護者への
発表機会の確保
(校区の地域や保護者と共に)

環境構成の設定(学級文庫に音
読が楽しめる絵本を整備する)

表現力の向上

振り返る

達成感・充実感

学んだ知識を生かして、新しい課題を見出す

相手意識

互いの考えを伝え合う

認め合い

地域の人との対話

向上心

課題解決への喜び

自己有用感の高まり

自発性

自己の学習活動を振り返って次につなげる

■単元計画(全9時間) 【国語科】

| 次 | 時 | 学習活動 | 指導上の留意点 |
|-----------------------------|-------------|--|---|
| 1 | 1 | <ul style="list-style-type: none"> ▶学習課題を見出し、学習計画を話し合っ て立てる。 ・学習課題や学習計画を確かめる。 ・一人一人に「私の問い」をもたせる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの絵本に関する経験を想 起させ、安心感をもてるようにする。 ・頑張りたいことや上手になりたいこ とを考える |
| 2 | 2 | <ul style="list-style-type: none"> ▶既習教材「みんなのせかい」を活用し、 グループで『音読のポイント』を話し合う。 ・グループ毎に音読する。 ・『音読のポイント』を考える。 | <ul style="list-style-type: none"> ・場面の様子や人物の行動をグルー プで話し合わせる。 ・どのように読めば、聞き手に様子や 行動が伝わるのか考えさせる。 |
| | 3 ・ 4 | <ul style="list-style-type: none"> ▶『音読のポイント』を生かして「おおきな かぶ」の音読の仕方をグループで考える。 ・本文を読んでグループで話し合いながら 工夫を考える。 ・グループ同士で発表を見合い、工夫につ いて話し合うことで、読みを深めていく。 | <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>【音読のポイント】</p> <p>①誰がどうしたのかを確かめる。</p> <p>②場面の様子から、何人で読む のかを考える。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・お互いの工夫について質問し合う ことで、内容の大体をつかませる。 |
| | 5 | <ul style="list-style-type: none"> ・他のグループの発表を聞いて見つけた工 夫を、自分のグループに生かす。 | <ul style="list-style-type: none"> ・お互いのよさに気付かせる。 ・物語の面白さを味わわせる。 |
| 3 | 6 | <ul style="list-style-type: none"> ▶自分達の課題や他のグループのよさに 気付くためにリハーサルをする。 ・お互いのグループの工夫や真似したいと ころを見つけて伝え合う。 ・発表会の成功への意欲を高める。 | <ul style="list-style-type: none"> ・丁寧にリハーサルを行い、課題を解 決して本番に臨めるようにする。 ・「もっと練習したい。」という思いを もつ児童には、その思いを教師が 認め励ますようにする。 |
| | 7 | <ul style="list-style-type: none"> ▶「1の1音読発表会」を開き、参観者に聞 いてもらう。(地域・保護者参観等) ・自分に付いた力を確認する。 ・友達と学ぶよさを実感する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・「私の問い」を振り返らせ、達成感 や充実感を味わわせる。 ・「参観者からの言葉」を児童に伝 え、次の学びへの意欲を高める。 |
| | 8 | <ul style="list-style-type: none"> ▶付いた力を確かめる。 ・教師が自作した問題を解くことで、自分 に付いた力を確かめる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・物語の内容の大体を読み取ること ができるかを確認する。 ・内容の大体をつかめていない児童 には、今後の学習の中で力が付く ように支援する。 |
| 読書や安 心できる 居場所の 広がり | | 音読が楽しめる本を図書館で見つけて、互いに音読したり、気に入った本を紹介したりする。 | <ul style="list-style-type: none"> ・単元での学びを生かす姿を称賛す る。 ・文章中の言葉を大切に、音読 で表現しようとする姿を認める。 ・音読を楽しんで聞く姿を認める。 |

■展開案①(国語科 1/9)

1 本時の目標 学習課題を見出し、学習計画を立て、「自分の問い」をもつことができる。

〈指導のポイント〉
・安心感をもてるようにする工夫
・環境構成の工夫 など

2 学習の流れ

| 学習活動 | 指導上の留意点 | 備考 |
|-------------------------------------|---|--|
| 1 題名「おおきなかぶ」から、予想することや知っていることを発表する。 | <ul style="list-style-type: none"> ▶ 児童と話をしながら、黒板にかぶを描いたり、実物(写真)を見せたりすることで、興味・関心をもたせる。 | <p>絵・電子黒板</p> <p>気付きをみんなで共有することができます。</p> |
| 2 「おおきなかぶ」を音読する。 | <ul style="list-style-type: none"> ▶ 音読をする前に、教師が範読し、大まかな内容をつかませる。 ・挿絵を見ながら範読を聞く。 | <p>集まる場</p> <p>電子黒板(挿絵)</p> |
| 3 単元を通した学習課題を見いだす。 | <ul style="list-style-type: none"> ▶ 幼児期の経験を想起させ、安心感をもたせた上で、付けたい力を確認する。 | <p>教科書を使うときには、黒板に○ページと書くと戸惑いが少なくなります。</p> |
| 4 学習計画を立てる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・教師が色々な読み方をして聞かせ、どんな読み方が場面に合うのか考えさせる。 ・場面に合わない声の大きさや声の調子の音読を教師が聞かせ、場面に合う読み方について考えさせる。 ▶ 見通しをもたせることで、安心感をもって学習に取り組むことができるようにする。 ・計画表を教室に掲示することで、学習の進み具合をいつでも確認できるようにする。 | <p>幼児期での絵本に関する経験を想起させることで、安心感をもてるようにします。</p> <p>色々な読み方に気付かせます。</p> <p>学習計画表</p> <p>視覚化すると、いつでも確認することができます。</p> |
| 5 頑張りたいことや、上手になりたいことを考える。 | <ul style="list-style-type: none"> ▶ 一人一人に合った「私の問い」を認める。 <p>例)「すらすらよめるようになりたいな」 「お家の人が楽しんでくれるには、どんな読み方をすればいいのかな。」</p> | <p>自分の思いに合った問いをもつことができたことを褒めると、学級全体で学んでいくことの期待感が高まります。</p> |

児童一人一人の実態に合わせてながら、黒板の前のスペースに集まって座る場(集まる場)を設定することで、友達の存在を身近に感じることができます。

- ① お話の楽しさを深く知り、もっと本を好きになる学習をします。(付けたい力)
- ② お家の人や園の先生を呼んで、音読発表会をします。(言語活動)
- ③ お話に出てくる人のしたことや、場面の様子が分かるように読み方を比べながら考えます。(学び方・思考の仕方)

■展開案②(国語科 3・4/9)

- 1 本時の目標 「音読のポイント」をもとに、グループで読み方の工夫を見せ合い、場面の様子や登場人物の行動などの内容の大体をつかむことができる。

〈指導のポイント〉
 ・安心感をもてるようにする工夫
 ・環境構成の工夫 など

2 学習の流れ

| 学習活動 | 指導上の留意点 | 備考 |
|---|--|---|
| 1 学習課題と学習計画、「自分の問い」を確認する。 | ▶前時の振り返りをする中で、本時の見通しをもてるようにする。 視覚化すると、いつでも確認することができます。 | ・計画表 (掲示物) |
| 2 グループ毎に共通の場面を読み、音読の工夫を考える。 ①本時で音読する場面を確認し、グループで音読したり、個人で読んだりする。 ②音読の工夫を考え、どのように読むか分かるようにする。 ③実際にグループで音読して、工夫を確認したり、修正したりする。 | ▶音読の工夫を考えさせる。 ・①～③の学習を、グループの進度に合わせて進めていく。 ・どのように読むと聞き手に伝わりやすいか考えさせる。 ・教科書の本文に線や言葉を書き加えている児童を認め、全体によさを広げる。 【音読のポイント】 ①誰がどうしたのかを確かめる。 ②場面の様子から、何人で読むのか考える。 | ・自分の問い (ノート) 読み方の工夫を視覚化する方法を考え、今後の学習にも生かすことができるようにします。 集まる場 教室の前や後ろなどのスペースで発表し合います。 |
| 3 グループ同士で音読発表を見合い、感想を伝え合う。 | ▶他のグループの工夫の仕方について質問したり、工夫した意図を予想したりしながら、場面の読みを深められるようにする。 ・お互いの工夫について質問し合うことで、内容の大体をつかませる。 | |
| 4 「私の問い」が解決したか、この学習でどんなことが分かったかについて振り返りを行い、次の時間の見通しをもつ。 | ▶本時の振り返りを伝え合わせる。 ・「私の問い」を振り返っている児童や、「私の問い」が解決し、更新をしようとしている児童を認めることで、「私の問い」をもつことへの意欲を高める。 | 何ができるようになったかを実感できるように、教師が一人一人の学びの状況を捉え、認め、励まします。 |



「私の問い」

「頑張りたいことや上手になりたいことは……。」

「みんなで力を合わせて読みたいな。」

「1の1音読発表会」に向けて

「〇〇さん達のグループのよいところを見つけたよ。」

「僕達のグループでも、真似してみたらどうかな。」



「1の1音読発表会」

「練習、頑張ったよ。」

「最初はすらすら読めなかったけど、読めるようになったよ。」

◇ 実践例③ (小1スタートカリキュラム期)

5月 特別活動「みんなあそびをしよう」 (全3時間+ショート)

学級活動(1)「学級や学校における生活づくりへの参画」

育成を目指す
資質・能力

つかむ(ショート) → **話し合う (1時間)** → **実践する(1時間)**

知識及び技能

いかなる学びの進め方に沿った意見の発表の仕方や他者の意見の聞き方を理解し、活動の方法を身に付けるようにする

表現力等

解決するために話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したりすることができるようになる

思考力、判断力、人間性等

学級・学校生活を楽しくするために、見通しをもったり振り返ったりしながら、自分の考えを持ち、自己実現を図ることができるようになる

学びに向かう力、人間性等

学級・学校生活を楽しくするために、見通しをもったり振り返ったりしながら、自分の考えを持ち、自己実現を図ることができるようになる

教師の援助環境構成

- 議題ポストの設置
- 議題カードによる提案の奨励
- 計画委員による話し合い活動の準備、話し合い活動

つかむ(ショート)

【学びがいのある「課題」の設定】
今の学級・学校生活に着目して、発達段階に応じた課題を設定する。
〈議題「みんなあそびをしよう」〉

- 「議題カード」による提案を奨励し、議題決定の話し合い活動をする。
- 「議題カード」に書けない児童もいます。その場合は、給食時間や休み時間のつぶやきから教師が議題を拾い上げたり、議題設定の話し合いで提案する時間を確保したりします。

【課題を解決する過程が見える「児童理解」の設定】

- 入学して1か月が経ち、一緒に学んだり遊んだりする中で、もっと仲良くなりたいという思いをもった。
- 4月の第1回議題「学級目標を決めよう」では、どんな学級にしたいか話し合うことで、みんなの思いを共有した。

児童の思いや願いを引き出す声かけ!

C「もっと友達と楽しく遊びたいな」
T「みんなで何かできないかな」
C「この前、学級目標をクラスで決めたように、みんなで考えてみたいな」

学校生活への意欲・期待
第1回議題との関連付け

【活動計画】
各活動を設計し、問題解決の場を意図的・計画的にデザインし、児童と共有します。

ぎだいかあと

がっきゅうで はなしあいたいことをかいてください

- やってみよう
- こまわっていること
- せんせいや かかりへのおねがい

話し合う (1時間)

議題「みんなあそびをしよう」

「みんなで楽しいことをしたいね」
「みんなが知っている遊びは何かな」
「仲良くなれるような遊びを考えたいね」

提案理由の共有

- まずは自分の意見をしっかりと伝えることができる姿を思いっきり褒めます。時には、児童の前に立ちながら児童を励まします。
- みんなが理解できる提案理由になるように、教師が助言をします。
- 提案理由について、学級目標や学級の実態と関連させて価値付けると、よりよい学級にしたいという意識が高まります。

話し合いの進め方に沿って自分の意見を発表したり、他者の意見をよく聞いたりして、合意形成することのよさを実感させます。

実践する(1時間)

「みんなが楽しい気持ちになるといいな」
「友達が増えるといいな」「協力して遊べるといいな」
「終わった時に、みんながにこにこになっているといいね」 実践への意欲・期待感の高まり

「〇〇さんが、最近元気がないような気がする」「何の遊びが好きかな？」
優しさ・思いやり

「サッカーだと、ルールを知らない子もいて、みんなが楽しくできないかもしれない」
「幼稚園の時にした、いす取りゲームはとても楽しかったよ」「いいね」
「みんながにこにこになる遊びは何かな」

話し合い(思いや願いを伝え合う)
共感性(友達の考えを受け止める)

- これまでの園での経験や、第1回議題「学級目標を決めよう」のことを想起させながら助言をします。
- 勝ち負けではなく、みんなで活動する心地よさを価値付けしながら活動を進めます。
- 様々な園で、様々な体験をもつ児童の考えを聞き合いながら、学級や学校の生活づくりについて考えることを大切にします。新たなアイデアが生まれることが期待できます。

みんなの顔を見ながら話し合うことができる教室環境の設定(例:机をコの字型に並べる)
実践活動につなぐ意欲付け

実践する(1時間)

「今からいす取りゲームパーティーを始めます(あそびかかり)」
「やったあ(拍手)」
「〇〇さんも、〇〇さんもどっちも頑張れ!」 協働

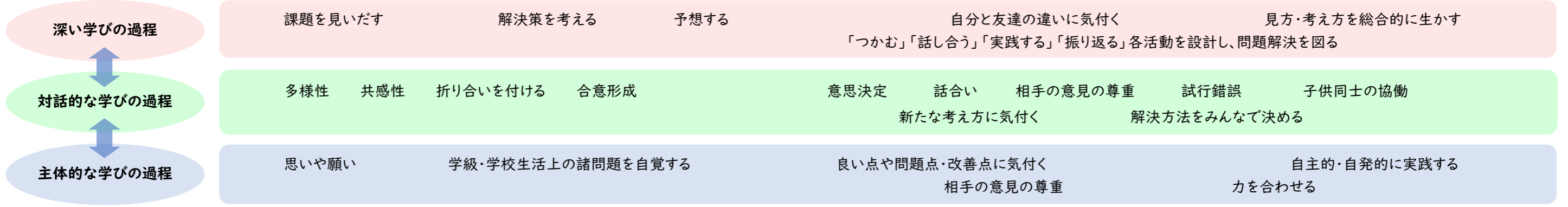
「早く負けちゃった人は楽しくないかもしれないね」
「もう一回やってみてもいいんじゃないかな」
「早く負けた人も、歌を歌って手拍子したら楽しい気分になるね」 課題の再発見・改善

合意形成によって決めたことをみんなで実践することのよさを実感できる活動となるよう、配慮することが大切です。
話し合いで決まったことをすぐに実践することによって、合意形成の意義を体感することができます。

勝ち負けではなく、みんなで活動する心地よさを価値付けしながら活動を進めます。

「楽しかったね」
「次は違う遊びがしたいね」
「みんながにこにこで、気持ちがいいね」
「最後まで仲良くやれたね」
達成感・充実感を味わう

個や集団への称賛
話し合ったことを学級全員で取り組むことの価値付け
活動がしやすく、友達を身近に感じることができる教室環境の設定(例:机を教室の後ろに下げ、いすを並べて座る)



5月 特別活動「みんなあそびをしよう」 (全3時間+ショート)

学級活動(1)「学級や学校における生活づくりへの参画」

振り返る(1時間)



自分の頑張り(自己評価)、友達の頑張り(相互評価)を肯定的に評価する場を設けます。

「みんながにこにこになって、嬉しかったよ」「またしたいな」
「こんなに楽しかったのは、学級みんなで力を合わせてできたからだね」

達成感・自己有用感を味わう

「学級のたから」(学級文化)の蓄積

「ドッジボールやサッカーみたいなボール遊びもしてみたいね」

「係活動でできないかな」

新たな問題に気付く、次の活動への意欲

「学級のたから」の蓄積

- ・よさ(相互評価)の中から、今後の活動や学校生活に生かしていきたいものを考えたり、発表したりする機会を設けます。
- ・児童から出された意見は教室の後方に「学級のたから」として掲示し、蓄積していきます。
- ・一人一人のよさを基に、学校生活を創っていくことの素晴らしさを賞賛します。

- ・自他の肯定的評価活動(個や集団への価値付け)
- ・「学級のたから」※(学級文化)の決定

活動を通して学んだことを学級・学校生活へ広げる

議題「みんなあそびをしよう」がきっかけとなり、係活動で、自主的・自発的な活動が芽生えました。



「ぬりえまつりをするよ」
「休み時間に楽しいおまつりをしよう」(おえかきがかかり)

考えを広げる
活動を積み重ねる



「アスレチックで虫を探すよ。やりたい人は僕のところに来てね」(いきものがかり)

考えを広げる
活動を積み重ねる

議題「みんなあそびをしよう」での学びが学級・学校生活に生かされている場面を見取り褒めることでさらに学びが広がります。

振り返りを積み重ねることで、児童は自分の成長を把握し、自分自身のよさや学級のよさに気付きながら、自己理解を深めることができます。

学級のみみんなで頑張ったことや協力したことなどを価値付けし、今後の活動への期待感をもたせることができます。

※「学級のたから」とは

- 今後の特別活動や学級・学校生活に生かしていきたいもの
例) 話し合いで決めたことは必ず守る。
- 例) 一人一人の思いや願いを大切にすること。 など

「学級のたから」(学級文化)の蓄積

知識・技能を学級・学校生活に生かす

話し合い活動

自分・集団のよさに気付く

考えを広げる

達成感

自己有用感

活動を積み重ねる

新たな問題に気付く

【Q&A】(園の先生の疑問に答えます)

Q. 特別活動が大切にしていることとは何ですか。

A. 特別活動を通して、児童は、学級や学校生活にある「課題」を自らの手で解決していきます。特別活動には「学級活動」「児童会活動」「クラブ活動」「学校行事」があり、幼児教育で培った自主性や人間関係などをさらに伸ばすためには特別活動が効果的です。特別活動を通したよりよい生活や人間関係づくりは、学力と相互に関連します。

Q. 学級会は難しいイメージがあります。小1スタートカリキュラム期でも学級会を開くことができるのですか。

A. 園では日頃から、「集まる場」をつくり、児童と一緒に考える時間を設けられています。それが、重要です。園での経験を生かすことで、安心感をもって学級会を開くことができます。小1スタートカリキュラム期では、しばらくは学級担任が学級会のモデルを示し、児童の「やってみたい!」という好奇心とやる気を高めます。

Q. 計画委員(司会グループ)はどのようにして決めるのですか

A. 原則は、輪番制で行います。役割を分担しながら、課題意識をもって楽しく豊かな学級や生活づくりを目指していきます。

Q. 学級会で、みんなの意見がまとまらずに終わることもありますか。

A. 学級のみみんなで折り合いを付けて集団としての意見をまとめたり、合意形成を図ったりすることが重要です。決め方には「これだけ型(一つだけに決める)」「いくつか型(時間や場所などを考えていくつか決める)」「たくさん型(よい意見を全部取り入れる)」があります。

【省察】

4月に学級活動のオリエンテーションを実施し、①楽しい学級を創る時間であること②問題をみんなで解決する時間であることを示し、第1回学級会を行った。第1回議題は「学級目標を決めよう」とし、1年間過ごしたい学級を思い描く時間にした。みんなで輪になって座ることで、緊張せずに自由に考えを出し合いながら、笑顔の多い話し合いを行った。

次に、児童の思いや願いをもとにした議題として第2回議題「みんなあそびをしよう」を実践した。ここでは机をコの字型に並べて学級会を行った。みんなの顔を見ながら話し合えるようにしたことで、「何か落ち着くよね」「どんな遊びになるか楽しみたいね」という声も聞かれ、安心感をもって学級会に臨んでいた。

学級会の進め方については、第1回「学級目標を決めよう」は担任主導で学級会を進めたが、第2回「みんなあそびをしよう」は計画委員に任せた。学級会ではこれまでの経験を想いしながら、もっとみんなと仲良くなるにはどんな遊びがよいか考え、話し合うことができた。教師の支援が必要な場面もあるが、自分たちで合意形成ができたという実感をもたせるようにしたところ、みんなで活動するよさを感じながら「いす取りゲームパーティー」を楽しむことができた。また、振り返りでは「こんなに楽しかったのは、学級みんなで力を合わせてできたからだね」「またしたいな」と振り返り、友達と協働して取り組むことの大切さを感じている様子であった。

実践後には「係活動で□□をするよ」「〇〇まつりをするよ」など、学級・学校生活に学びを生かす姿が見られるようになった。今後、さらに児童の自主的・実践的な活動を充実させていきたい。

(知識・技能)よりよい生活を築くための知識・技能

- ・学級生活を楽しくするために他者と協働して取り組むことの大切さを理解している。
- ・話し合いの進め方に沿った意見の発表の仕方や他者の意見の聴き方を理解し、活動の方法を身に付けている。

(思考力・判断力・表現力等) 集団や社会の形成者としての思考・判断・表現

- ・よりよい学級の生活づくりに向けて考え、判断し、話し合っている。

(主体的に学習に取り組む態度) 主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度

- ・学級生活がよりよくなるために、自分の考えをもち、積極的に意見を述べようとしている。
- ・他者と協働しながら活動し、役割を意識して集団活動に取り組もうとしている。

【実践例についてのコメント】

特別活動は、幼児教育で育てられてきた一人一人のよさや可能性を發揮する有効な時間です。学習指導要領第1章総則で、低学年における教育全体において、幼児期の教育及び中学年以降の教育との円滑な接続を図る役割が生活科に期待されるとともに、『特に、小学校入学当初において、生活科を中心に、合科的・関連的な指導や弾力的な時間割の設定など、指導の工夫や指導計画の作成を行うこと(スタートカリキュラムの編成・実施)』が規定されたことを受け、低学年の各教科等(国語科、算数科、音楽科、図画工作科、体育科、特別活動)の学習指導要領にも同旨が明記されています^{P93-11)}。なお、特別活動においては、『関連的な指導』を編成します。

期待をもって小学校へ入学した1年生のスタートカリキュラム期では、入学式や始業式から丁寧に生活科的、学級活動的な学習を通じて本実践のような学級活動につなげていきます。学級開きに始まり、学級の仲間、学校という場、学校や学校のシステムを知ること重ねて、安心感を基盤に自分でやってみようという意欲的で自覚的な学習が進んでいきます。集団活動での意思決定の過程で、児童は一人一人の自己決定を生かした問題解決のしかたを学びます。

0歳からの学びを重ね、何でもできるという小1スタート期の児童の心もちを生かし、やってみたいことや考えてみたいことを見取ることに加え、5・6月には児童が自ら提案したくなるようなコーナーなどを検討することも主体的な特別活動の学びになるかもしれません。











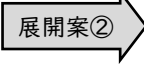


【坂田先生より】



© tutumi

■活動の流れ(全3時間+ショート数回) *「シ」はショートの時間を表す【特別活動】

議題 『みんなあそびをしよう』

| 過程 | 児童の活動(教師の働きかけ) | 期待される児童の姿 | 時配 |
|------|---|---|---------------|
| つかむ | <ul style="list-style-type: none"> ・議題カードによる提案 (提案の奨励) |  <p>学校って楽しいな。みんなで一緒に遊びたいな。</p>  <p>そうだね。話すことが少ない友達とももっと仲良くできたらいいな。</p> | シ |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・議題決定の話合い活動 (みんなが理解できる提案理由になるように提案者に助言する。) |  <p>どんなことをしたら、友達とお話したり、遊んだりできるのかな。</p> | |
| 話し合う | <ul style="list-style-type: none"> ・計画委員会による話合い活動の準備 (司会グループへの助言) ・司会グループと学級会の計画を立てる。 (話合いの柱や役割分担について助言する) (学級会カードに思いや意見を書かせる。) |  <p>話合いの進め方を先生に教えてもらおう。</p>  <p>たくさん意見を聞きたいな。</p> | シ |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・話合い活動 (提案者の思いを反映させる。) (話合い活動が円滑に進むように司会グループに適宜助言する。) (児童が自信をもって発言できるように児童の意見を価値付けていく。)  |  <p>みんなでどんな遊びをしようかな…。幼稚園のころ〇〇遊びをしていたなあ。</p>  <p>みんなで遊ぶのが楽しみなってきたなあ。</p> | |
| 実践する | <ul style="list-style-type: none"> ・実践活動(個や集団への称賛) |  <p>〇〇したらもっと楽しくなりそうだよ。</p>  <p>いろんな友だちと遊んだり、話したりできてうれいなあ。</p> | 準備 シ 当日 |
| 振り返る | <ul style="list-style-type: none"> ・自他の肯定的評価活動 (個や集団への価値付け)  <p>(今後の活動への意欲付け)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分が頑張ったこと、できるようになったことは何か、実践の前後でよくなったところを振り返る。 (学級みんなで頑張ったことや協力したことなどを価値付けし、次回の実践への期待感をもたせる。) |  <p>「みんなであそびをしよう」楽しかったな。またやりたいな。</p>  <p>もっともっとみんなと楽しいことをしたいな。ようし、係活動で〇〇をしてみよう!</p> | シ |

■展開案①(特別活動 1/3)

- 1 本時の目標 互いの思いや考えを出し合いながら話し合い、学級全体での意見整理や合意形成した過程を振り返り、実践活動への意欲をもつことができる。

〈指導のポイント〉

- ・安心感をもてるようにする工夫
- ・環境構成の工夫 など

2 学習の流れ(話し合う過程)

| 学習活動 | 主な発問など | 指導上の留意点 |
|---|---|--|
| <p>1 本時の議題と提案理由、決まっていること、話し合いのめあてを確認する。</p> <p>はなしあいのめあて 例) みんなの ほうをみて いけんをいおう</p> <p>2 話し合う。 柱① 何をして遊ぶか。 柱② 準備は何が必要か。</p> <p>(1) 意見を出し合う。</p> <p>(2) 意見を比べ合う。</p> <p>(3) 意見をまとめる(決める)。</p> <p>3 話し合い活動を振り返る。</p> | <p>・今日は、〇〇さんが提案した議題で話し合います。〇〇さん、提案理由をお願いします。</p> <p>ありがとうございました。今日の議題「みんなあそびをしよう」をすると、学級目標の□□につながりますね。</p> <p>決まっていることは、「・・・」です。自分達のかでこの会ができるように、しっかりと話し合しましょう。</p> <p>・皆さん、この前の話し合いの様子を見て、今日の話し合いのめあてを「……………」とします。この点に気をつけて、がんばりましょう。</p> <p>・□□□会議で話し合うことを「柱」といいます。今日の柱はこの2つです。</p> <p>①何をして遊ぶか。 ②準備は何が必要か。</p> <p>・柱①について、意見を発表してください。発表ができたなら○(丸)、理由まで言えたら◎(二重丸)です。</p> <p>・ここまで出された意見の中から決めます。これらの意見に、賛成や反対の人は意見を言ってください。</p> <p>賛成の意見が出たら赤丸、反対の意見が出たら青丸を書きます。</p> <p>・皆さんの意見を聞いてみると、「……………」の意見になりそうです。これに決めていいですか。(柱②も同じように繰り返す)</p> <p>・今日の話し合いでよかったところは、…と…です。皆さんで見つけないところはありますか。</p> <p>・今日の話し合いのめあてを考え、自分がどうだったか振り返りましょう。(ワークシート記入)発表してください。</p> <p>・次の時間は、準備をします。楽しみですね。</p> | <p>➢ 提案理由、学級目標(『〇〇〇』)に照らし合わせ、児童が目指す姿を確認する。</p> <p>➢ 提案理由について、学級目標や学級の実態と関連づけて価値付ける。</p> <p>➢ 決まっていること(会の期日、日程、場所、プログラム等)を伝える。</p> <p>決まっていることが明確でないと、話し合いが拡散してしまいます。</p> <p>➢ 話し合いのめあては、前回の話し合い活動からステップアップしたいことを意識付ける。</p> <p>➢ 挙手しての発表を促す。</p> <p>➢ 理由を言うように促す。その際、提案理由にふれる児童がいたら、褒める。</p> <p>➢ すべての意見に対し、同じ反応をする。</p> <p>意見を出し合う場面よりも発表しやすいので、学級の実態に合わせて意見の出し方を工夫しましょう。</p> <p>➢ 振り返りを口頭で行う。めあてに沿って、数人を発表させる。</p> <p>➢ 準備・実践活動につなぐ意欲付けをする。</p> |

■展開案②(特別活動 3/3)

- 1 本時の目標 話し合い活動や実践活動を通して、自分や友達、学級のよさに気づき、これからの学校生活に生かすことができる。

〈指導のポイント〉
 ・安心感をもてるようにする工夫
 ・環境構成の工夫 など

2 展開(振り返る過程)

| 学習活動 | 主な発問など | 指導上の留意点 |
|---|--|---|
| 1 実践活動までの学習を思い起こす。 ・学級活動ノートを見て ・話し合い活動や実践活動の写真や映像を見て | ・みなさん、議題「みんなあそびをしよう」を、振り返ります。この写真(映像)を見てください。 ・議題「みんなあそびをしよう」を振り返りましょう。 ・今日の学習のめあては、「学級のたからをたくさん見つけよう」です。 | ▶学級活動ノートや話し合い活動、実践活動時の写真や映像を利用して、これまでの学習を想起させる。 ▶写真や映像は、資質・能力を育む視点である「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」の3つの視点を基に選びます。 ▶児童主体の話し合いとし、めあての確かめを行う。 |
| 2 「つかむ」「話し合う」「実践する」の各過程での振り返りをする。 ・「話し合い活動」「実践活動」での自分自身がどうであったか考え、文章(口頭)で自他のよさを表現する。 ・全体でこれからも次の活動で生かせる「学級のたから」を見つける。 | ・みなさん、議題決め、話し合い、実践の時の「自分の頑張り」「楽しんだ自分」について書きましょう。 (自己評価) ・次に、話し合いの時、実践や準備の時に頑張っていた友達のことについて付箋紙に書きましょう。 (相互評価) ・これからも、使いたい「学級のたから」について発表しましょう。 | ▶「話し合い活動」「実践活動」での自分自身(個)、友達・学級全体(集団)の活動がどうであったか考えさせる。 ▶付箋紙に書けない児童がいることも考えられます。その場合には、他者からの肯定的な評価(口頭で話す姿等)を価値付けましょう。 ▶よさ(相互評価)の中から、今後の活動や学校生活に生かしていきたいものを考えさせ、発表させる。 ▶出されたものを認め合い、教室の後方に掲示する形で蓄積していく。 |
| 3 次の活動への意欲をもつ。 | ・「みんなあそびをしよう」はとっても楽しかったですね。今日の授業で、「学級のたから」がたくさん生まれましたね。これからも「学級のたから」をたくさん見つけていきましょう。 | ▶計画委員からこの議題を通してどう学級が高まったか児童の考える手法で発表させるのもよい。 ▶一人一人のよさを基に学校生活を創っていくことの素晴らしさを称賛し、今後の活動へとつなげていく。 |



振り返る

話し合いの時、実践や準備の時に頑張っていた友達の様子を互いに伝える。
 「いす取りゲーム、最後まで頑張っていたね。」
 「応援、嬉しかったよ。」

◇ 学習評価

① 学校評価に関する基本的な考え方

学習評価とは

学習評価は、学校における教育活動に関して、児童一人一人に学習指導要領の内容が確実に定着するように、また教師の指導改善につながるように、児童の学習状況を把握することです。

- 学習状況を分析的にとらえる **観点別学習状況の評価**
- **総括的にとらえる評定**

ポイント

- ・ 学習評価を通じて、学習指導の在り方を見直すこと
- ・ 個に応じた指導の充実を図ること

② 評価に当たっての留意点

- ・ 教師が児童のよい点や進歩の状況などを積極的に見取り、児童に伝える
- ・ 児童が学習したことの意義や価値を実感できるようにする
⇒ 自分自身の目標や課題をもって学習を進めていけるようにする

③ 実際の評価で大切にしたいこと

- ・ 単元や題材など内容や時間のまとまりを見通しながら評価の場面や方法を工夫し、学習の過程の適切な場面で学習状況の把握を行う
- ・ 他者との比較ではなく、児童一人一人のよい点や可能性などの多様な側面、進歩の状況などを把握し、学年や学期にわたって児童がどれだけ成長したかという視点を大切にする
- ・ 教師による評価とともに、児童による学習評価としての相互評価や自己評価などを工夫する

学習評価の種類

目標に準拠した評価

- ・ **観点別学習状況の評価**
- ・ **評定**

- ・ 学習指導要領に示す目標に照らしてその実現の状況を見る。
- ・ 評価基準は各学校が設定。

観点別の学習状況の評価

- ・ 各教科等の目標や内容に照らして、児童の実現状況がどのようなものであるかを、**観点ごとに評価**し、学習状況を分析的に捉えるもの。
- ・ 学力の三要素を踏まえ、観点ごとに評価（「A」「B」「C」の3段階）

個人内評価

- ・ 観点別学習状況の評価や評定には示されない児童一人一人のよい点や可能性、進歩の状況について評価するもの。
- ・ 指導要録では、「総合所見及び指導上参考となる諸事項」及び「特別の教科道徳」の評価において示される。

総括的な評価としての評定

- ・ 観点別の学習状況の評価をもとに、総括的な学習状況を示すため、**5段階（小学校は3段階。小学校低学年は行わない）の評定**を行う。
- ・ 観点別の学習状況だけでなく、**評定についても目標に準拠した評価とする**。
- ・ 各観点別の評価を、評定においてどのように総括するかは、各学校の工夫が求められる。

④ 学習評価の基本構造

学習指導要領の目標及び内容が「資質・能力の三つの柱」で再整理

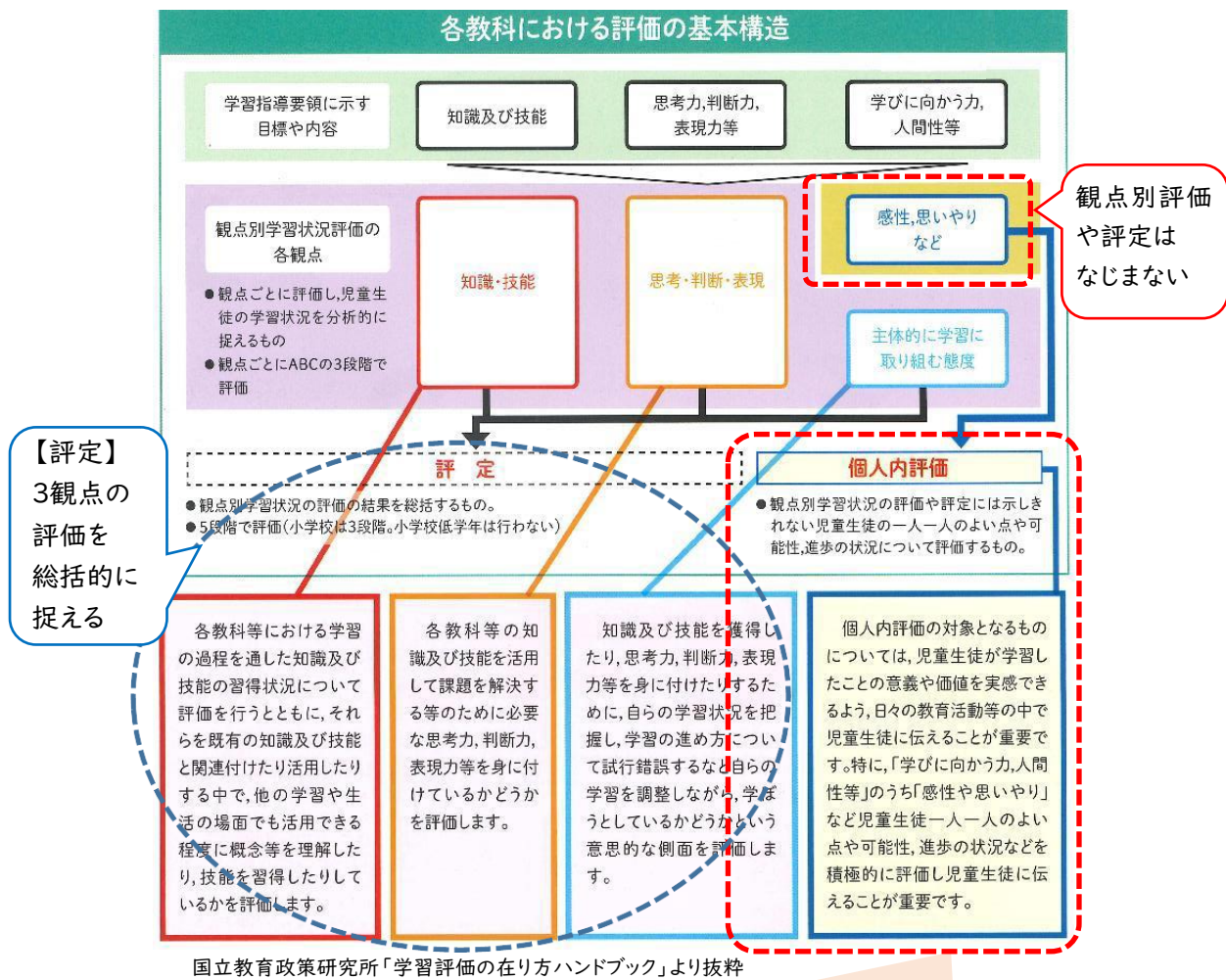
各教科における観点別学習状況の評価を3観点に整理

- ・「知識・技能」
- ・「思考・判断・表現」
- ・「主体的に学習に取り組む態度」

「主体的に学習に取り組む態度」を2つの部分から評価する

- ① **観点別評価**・・・「主体的に学習に取り組む態度」として見取ることができる部分
- ② **個人内評価**・・・観点別評価や評価はなじまない部分

⑤ えがおわくわく期で大切にしたい「自分のよさや可能性」を認め、育てる評価



ポイント 年長期の経験や、身に付けた力を発揮しながら学びに向かうこと、また小学校で学習した意義や価値を実感できることが重要です。
⇒ **児童一人一人のよさや可能性を見取り、評価し、積極的に児童に伝えましょう。**

主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善と評価

- ・ 教師の指導改善につながるものにしていくこと
- ・ 児童の学習改善につながるものにしていくこと
- ・ これまで慣行として行われてきたことでも、必要性・妥当性が認められないものは見直していくこと

第3章

交流を通じた相互理解

～ 目次 ～

| | |
|-------------------------|----|
| 1 園と小学校の交流 | |
| (1) 保育者と教師の交流 | 84 |
| (2) 園児と児童の交流 | 85 |
| 2 育ちや学びをつなぐ要録の活用 | |
| (1) 内容を理解するポイント | 86 |
| (2) 小学校で活用するポイント | 87 |

Ⅰ 園と小学校の交流

(1) 保育者と教師の交流

園と小学校が相互理解のために交流し、それぞれの保育や教育の良さや様子を知り、今後に生かしていきます。

『子ども理解に始まり子ども理解に終わる“子どもを真ん中”につながる』ことを意識して行っています。

校区内での 交流活動

小学校の教師と、各校区内にある園の保育者との間で、様々な交流を行っています。

保育者と教師で連携会議

- ・年間計画(交流計画、相互参観、研修計画)の立案
- ・計画の打合せ・情報交換 等



保育者の授業参観

園での学びが小学校でどのような学びにつながっているのか、保育者が授業を参観します。



教師の保育参観・保育体験

小学校の教師が園を訪問し、園の様子を参観したり、実際に保育の体験をします。



合同研修会

保育者と教師が、互いの教育を知り合うために、研修会を行っています。



保育者と教師がそれぞれ講師となり、相互理解を深めます。



**市が主催する
学校訪問、研修会**

園と小学校の相互理解を図るため、市では園訪問や学校訪問、各種研修会を実施しています。

わくわく学校訪問

毎年4・5月ごろに、保育者が市立小学校の1年生クラスを訪問し、各園の卒園児の様子を参観します。

園の先生を見つけ、児童は大喜び。それを見る保育者も自然と顔がほころびます。



園訪問

小学校の先生が園を訪問し、年長児の様子を中心に参観します。参観後は活発に意見交換が行われます。



研修会

- ・小1担任研修会 ・年長児担任研修会
「えがおわくわく」の活用について学び合い
- ・幼保小連携担当者研修会
校区の取組みについて情報交換・学び合い



(2) 園児と児童の交流

互恵性のあるそれぞれに出番がある交流、意識をつなげる活動を行っています。そのためには、一方的に計画して進めるのではなく、話し合っ一緒に進めることが大切です。

**校区内での
交流活動**

小学校の児童と、各校区内にある園の園児との間で、様々な交流が行われています。

プール遊び

園児を招待して、入学後を見通した、園児と5年生の交流活動



おみせやさん

1年生が考え、つくった「おみせやさん」に園児を招待



じゃがいもパーティー

年長児が育てたじゃがいもをピザ風にクッキングして小学生を招待



活動のための
打合せ

園児の学校体験

ランドセル体験



学校探検（音楽室）



給食体験



2 育ちや学びをつなぐ要録の活用

書き手の保育者は、卒園する子どものさらなる成長を願って、「この子のこんな姿を伝えたい!」と参考にして欲しいことを書いています。小学校では、その内容を読み取り、活用しましょう。

要録の2つの役割

- ① その子どもが確かにその園で教育・保育を受けたことを示す役割
- ② 子ども一人一人のよさや可能性などを把握し、子どもの育ちを支える資料としての役割

次年度または小学校等に
その内容が適切に引き継がれるようにする

育ちと学び
のつながり

(1) 内容を理解するポイント

例. [文例]

その中にある「10の姿」と
「参考となる事項」

① その子自身のよさ・個性

例. 泣いている友達に気付いて「どうしたの?大丈夫?」と声を掛け、寄り添う他者への思いやりの姿が見られた。また、「このお花、かわいい」「お部屋に飾ろう」と身近な自然に目が向き、生活に取り入れる感性が育まれる様子も見られた。

- 周りの様子に気付き行動する…自立心
- 友達の気持ちに寄り添う他者への思いやり…道徳性・規範意識の芽生え
- 自然に親しみ、生活をよりよくしようとする
…自然との関わり・生命尊重/豊かな感性と表現

② 著しい成長の姿とそのプロセス

例. 製作が好きで、廃材を工夫して使い、自分のイメージを膨らませながら夢中で遊ぶ姿が見られていた。秋祭りに向けたクラスのおみこし作りをきっかけに、友達と考えを伝え合い、イメージを共有して一緒に作ることを楽しんでいた。

- 工夫し、イメージを膨らませながら夢中で遊ぶ…思考力の芽生え/自立心
- 友達と考えを伝え合い、イメージを共有する…言葉による伝え合い/協同性
- 秋祭りに向けて…変化(成長)が見られた時期やきっかけ

③ 気になるところや課題(個人の重点)に対する保育者の関わり

例. 友達と一緒に遊ぶ中で、自分の思いが通らないと手が出たり遊びをやめたりすることがあったが、互いの思いを認め、話し合う場を設けてきたことで、徐々に友達の意見も聞きながら遊びを進めるようになってきている。

- 友達と一緒に遊び、自分の思いを伝える…健康な心と体/言葉による伝え合い
- 双方の思いの受容と解決へ向けた場の設定・課題提起…保育者の援助
- 友達の意見を聞き、自分の気持ちに折り合いを付ける
…言葉による伝え合い/道徳性・規範意識の芽生え

(2) 小学校で活用するポイント

小学校では、園の要録を十分に活用して児童理解を深め、小1スタートカリキュラム期の教科等の学びについて計画・実施していくことが大切です。

Q1. 園の要録は、どこにあるのですか？

- 校長室の金庫に保管してあります。
- 重要な個人情報なので、取扱いに注意が必要です。活用したら、必ず金庫に戻します。

Q2. 気になる児童がいます。園では、どのような様子だったのでしょうか？

- 園の要録を読むと、一人一人の「よさ」や「課題」に対する保育者の関わりが分かります。
- 入学式後の学年会等で、要録を読みながら児童についての情報交換を行うと、児童理解が深まり、以後の指導に生かすことができます。

まず、園の要録を読みましょう！

Q3. 園での様子をもっと詳しく知りたいです。どうしたらよいですか？

- 園の要録は、小1スタートカリキュラム期の支援のヒントとなりますが、園での支援の全てが記載されているわけではありません。
- 園の要録には、特に配慮すべき事項についての記載もありますが、さらに具体的な支援の内容を知りたい場合は、電話や園訪問をすると具体的な支援のヒントを掴めます。

園に電話をして尋ねてみましょう！

直接、園を訪ねてみましょう！

園に電話を
してみよう！

小1担任

「要録を読んで、〇〇さんが友達と一緒に遊ぶ中で、互いの思いを認め、話し合う場を設けてきたことで、徐々に友達の意見も聞きながら遊びを進めるようになってきたことがよく分かりました。」

「現在、〇〇さんは、クラスの中で友達とうまく関わるのが難しい様子です。今後の指導に生かしていきたいので、年長の時の担任の先生が、〇〇さんにどのような言葉掛けをされていたか、もう少し具体的に教えてください。」

いつでも、何でも聞ける、園と小学校の関係づくりを！

小学校は園の要録を十分に活用するとともに、いつでも情報交換・情報共有できる関係を築いていくことが大切です。

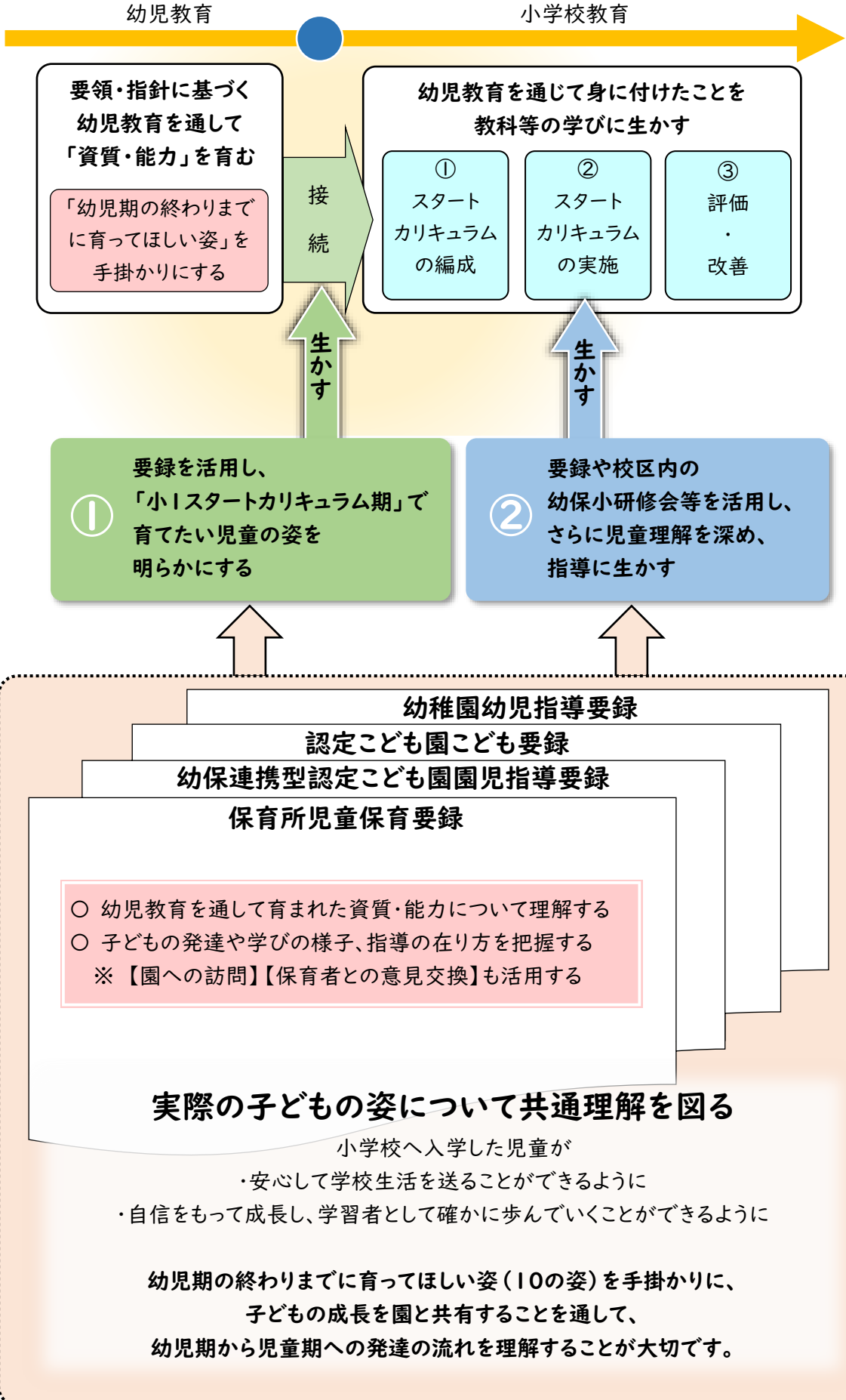
園
年長担任



小学校
小1担任

幼児教育

小学校教育



参考資料

| | |
|--|----|
| 資料1 児童の権利に関する条約(子どもの権利条約) | 90 |
| 資料2 児童福祉法(抄) | 91 |
| 資料3 幼保小連携・接続関連項目(保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、幼稚園教育要領、小学校学習指導要領より抜粋) | 92 |
| ●参考文献 | 93 |
| ●えがおわくわく第8版 作成委員 | 94 |

資料1 児童の権利に関する条約(子どもの権利条約)

「児童の権利に関する条約(子どもの権利条約)」は、子どもの基本的人権を国際的に保障するために定められた条約です。18歳未満のすべての児童(子ども)を対象とし、子どもを「保護の対象」としてだけでなく、「権利の主体」として捉えています。

1989年の第44回国連総会において採択され、1990年(平成2年)に発効しました。日本は1994年(平成6年)に批准しています。



条約の一般原則

○ 生命、生存及び発達に対する権利(命を守られ成長できること)

すべての子どもの命が守られ、もって生まれた能力を十分に伸ばして成長できるよう、医療、教育、生活への支援などを受けることが保障されます。

○ 子どもの最善の利益(子どもにとって最もよいこと)

子どもに関することが行われる時は、「その子どもにとって最もよいこと」を第一に考えます。

○ 子どもの意見の尊重(意見を表明し参加できること)

子どもは自分に関係のある事柄について自由に意見を表すことができ、おとなはその意見を子どもの発達に応じて十分に考慮します。

○ 差別の禁止(差別のないこと)

すべての子どもは、子ども自身や親の人種、性別、意見、障がい、経済状況などどんな理由でも差別されず、条約の定めるすべての権利が保障されます。

子どもの権利は大きく分けて4つ



生きる権利

○すべての子どもの命が守られること



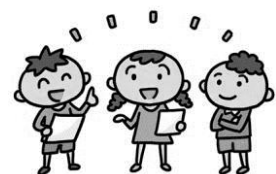
育つ権利

○もって生まれた能力を十分に伸ばして成長できるよう、医療や教育、生活への支援を受け、友達と遊んだりすること



守られる権利

○暴力や搾取、有害な労働などから守られること



参加する権利

○自由に意見を表したり、団体を作ったりできること

資料2 児童福祉法(抄)

平成28年の児童福祉法改正により、第1条及び第2条が下表のとおり規定されています。これらは、「児童の福祉を保障するための原理」であり、18歳未満のすべての児童に関する全法令の施行に当たって、常に尊重されなければならないものです。

| 現行 | 改正前 |
|--|--|
| <p>[児童の福祉を保障するための原理]</p> <p>第1条 <u>全て児童は、児童の権利に関する条約の精神にのっとり、適切に養育されること、その生活を保障されること、愛され、保護されること、その心身の健やかな成長及び発達並びにその自立が図られることその他の福祉を等しく保障される権利を有する。</u></p> | <p>[児童福祉の理念]</p> <p>第1条 すべて国民は、児童が心身ともに健やかに生まれ、且つ、育成されるよう努めなければならない。</p> <p>② すべて児童は、ひとしくその生活を保障され、愛護されなければならない。</p> |
| <p>[児童育成の責任]</p> <p>第2条 <u>全て国民は、児童が良好な環境において生まれ、かつ、社会のあらゆる分野において、児童の年齢及び発達の程度に応じて、その意見が尊重され、その最善の利益が優先して考慮され、心身ともに健やかに育成されるよう努めなければならない。</u></p> <p>② 児童の保護者は、児童を心身ともに健やかに育成することについて、第一義的責任を負う。</p> <p>③ 国及び地方公共団体は、児童の保護者とともに、児童を心身ともに健やかに育成する責任を負う。</p> | <p>[児童育成の責任]</p> <p>第2条 国及び地方公共団体は、児童の保護者とともに、児童を心身ともに健やかに育成する責任を負う。</p> |

資料3 幼保小連携・接続関連項目

(保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、幼稚園教育要領、小学校学習指導要領より抜粋)

●保育所保育指針

第2章 保育の内容 4 保育の実施に関して留意すべき事項 (2) 小学校との連携

- ア 保育所においては、保育所保育が、小学校以降の生活や学習の基盤の育成につながることに配慮し、幼児期にふさわしい生活を通じて、創造的な思考や主体的な生活態度などの基礎を培うようにすること。
- イ 保育所保育において育まれた資質・能力を踏まえ、小学校教育が円滑に行われるよう、小学校教師との意見交換や合同の研究の機会などを設け、第1章の4の(2)に示す「幼児期の終わりまでに育って欲しい姿」を共有するなど連携を図り、保育所保育と小学校教育との円滑な接続を図るよう努めること。
- ウ 子どもに関する情報共有に関して、保育所に入所している子どもの就学に際し、市町村の支援の下に、子どもの育ちを支えるための資料が保育所から小学校へ送付されるようにすること。

●幼保連携型認定こども園教育・保育要領

第3章 指導計画作成に当たって配慮すべき事項 第1 一般的な配慮事項

- 7 幼保連携型認定こども園においては、その教育及び保育が、小学校以降の生活や学習の基盤の育成につながることに配慮し、乳幼児期にふさわしい生活を通して、創造的な思考や主体的な生活態度などの基礎を培うようにすること。

●幼稚園教育要領

第1章 総則 第3 教育課程の役割と編成等 5 小学校教育との接続に当たっての留意事項

- (1) 幼稚園においては、幼稚園教育が、小学校以降の生活や学習の基盤の育成につながることに配慮し、幼児期にふさわしい生活を通して、創造的な思考や主体的な生活態度などの基礎を培うようにするものとする。
- (2) 幼稚園教育において育まれた資質・能力を踏まえ、小学校教育が円滑に行われるよう、小学校の教師との意見交換や合同の研究の機会などを設け、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を共有するなど連携を図り、幼稚園教育と小学校教育との円滑な接続を図るよう努めるものとする。

●小学校学習指導要領

第1章 総則 第2 教育課程の編成 4 学校段階等間の接続

教育課程の編成に当たっては、次の事項に配慮しながら、学校段階等間の接続を図るものとする。

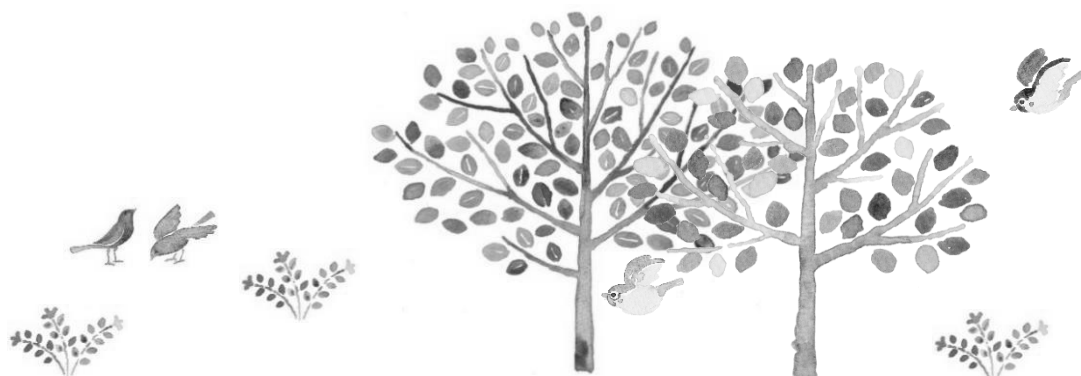
- (1) 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を踏まえた指導を工夫することにより、幼稚園教育要領等に基づく幼児期の教育を通して育まれた資質・能力を踏まえて教育活動を実施し、児童が主体的に自己を発揮しながら学びに向かうことが可能となるようにすること。

また、低学年における教育全体において、例えば生活科において育成する自立生活を豊かにしていくための資質・能力が、他教科等の学習においても生かされるようにするなど、教科等間の関連を積極的に図り、幼児期の教育及び中学年以降の教育との円滑な接続が図られるよう工夫すること。特に、小学校入学当初においては、幼児期において自発的な活動としての遊びを通して育まれてきたことが、各教科等における学習に円滑に接続されるよう、生活科を中心に、合科的・関連的な指導や弾力的な時間割の設定など、指導の工夫や指導計画の作成を行うこと。

参考文献



- 1) 木下 光二 (2019) 「これからの保幼小接続期カリキュラム」 チャイルド本社
- 2) 厚生労働省 (2017) 「保育所保育指針(平成29年3月告示)」 フレーベル館
- 3) 厚生労働省 (2018) 「保育所保育指針解説」 フレーベル館
- 4) 厚生労働省 (2019) 「子どもを中心に保育の実践を考える」
- 5) 文部科学省 (2017) 「幼稚園教育要領(平成29年3月告示)」
- 6) 文部科学省 (2018) 「幼稚園教育要領解説」 フレーベル館
- 7) 文部科学省 (2019) 幼児理解に基づいた評価 チャイルド本社
- 8) 文部科学省 (2019) 「一人一人のよさを未来へつなぐ」(幼稚園教育パンフレット)
- 9) 文部科学省 (2017) 「小学校学習指導要領(平成29年3月告示)(総則編)」 東洋館出版社
- 10) 文部科学省 (2017) 「小学校学習指導要領解説(総則編)」 東洋館出版社
- 11) 文部科学省 国立教育政策研究所教育課程研究センター (2019) 「発達や学びをつなぐスタートカリキュラム(スタートカリキュラム導入・実践の手引き)」
- 12) 文部科学省 国立教育政策研究所教育課程研究センター (2019) 学習評価の在り方
ハンドブック
- 13) 無藤 隆・大豆生田 啓友 (2019) 「子どもの姿ベースの新しい指導計画の考え方」
フレーベル館
- 14) 内閣府・文部科学省・厚生労働省 (2017) 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領
(平成29年3月告示)」 フレーベル館
- 15) 内閣府・文部科学省・厚生労働省 (2018) 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領
解説」 フレーベル館
- 16) 汐見 稔幸 (2017) 「さあ、子どもたちの『未来』を話しませんか」 小学館
- 17) 草加市教育委員会 (2019) 「草加市 幼保小中一貫教育プログラム」
- 18) 田村 学 (2018) 「深い学び」 東洋館出版社



えがおわくわく第8版 作成委員

<敬称略>

○平成29年度委員

| | | | |
|---------------|------------------------|---------|--------|
| ・中央保育園 | 今川 瑞枝 | ・日新小学校 | 飯盛 佑子 |
| ・城東保育所 | 唐津 奈都紀 | ・高木瀬小学校 | 伊東 尚子 |
| ・城西保育園 | 木塚 由美子 | ・富士小学校 | 井上 泰彦 |
| ・若葉保育所 | 古賀 陽子 | ・赤松小学校 | 江頭 良 |
| ・真生幼稚園 | 齋藤 瑠唯 | ・北川副小学校 | 小野 真須美 |
| ・和泉ふたば保育園 | 竹下 聖子 | ・神野小学校 | 七條 康聡 |
| ・本庄幼稚園 | 永田 千秋 | ・川上小学校 | 中島 雅子 |
| ・川原保育所 | 中與 真也 | ・鍋島小学校 | 中野 久美子 |
| ・白鳩幼稚園 | 西 幸子 | ・思齊館小学部 | 西原 宏一 |
| ・成章保育所 | 野口 聖莉奈 | ・久保泉小学校 | 村山 恵子 |
| ・西九州大学附属三光幼稚園 | 杷野 千晶 | | |
| | ・佐賀市子育て支援部保育幼稚園課 指導主事 | | 中村 妙子 |
| | ・佐賀市教育委員会教育部学校教育課 指導主事 | | 平石 実鈴 |

○平成30年度委員

| | | | |
|---------------|------------------------|---------|--------|
| ・中央保育園 | 今川 瑞枝 | ・日新小学校 | 飯盛 佑子 |
| ・若葉保育所 | 植村 憲子 | ・高木瀬小学校 | 伊東 尚子 |
| ・成章保育所 | 唐津 奈都紀 | ・富士小学校 | 井上 泰彦 |
| ・城西保育園 | 木塚 由美子 | ・赤松小学校 | 江頭 良 |
| ・和泉ふたば保育園 | 竹下 聖子 | ・北川副小学校 | 川内丸 友子 |
| ・本庄幼稚園 | 時崎 裕子 | ・神野小学校 | 七條 康聡 |
| ・川原保育所 | 中與 真也 | ・鍋島小学校 | 中野 久美子 |
| ・白鳩幼稚園 | 西 幸子 | ・思齊館小学部 | 西原 宏一 |
| ・城東保育所 | 野口 聖莉奈 | ・若楠小学校 | 深草 裕子 |
| ・西九州大学附属三光幼稚園 | 杷野 千晶 | ・久保泉小学校 | 村山 恵子 |
| ・日新こども園 | 馬郡 佑実 | | |
| | ・佐賀市子育て支援部保育幼稚園課 指導主事 | | 古賀 陽子 |
| | ・佐賀市教育委員会教育部学校教育課 指導主事 | | 松本 佳子 |

○平成31年度(令和元年度)委員

| | | | |
|---------------|------------------------|---------|--------|
| ・中央保育園 | 今川 瑞枝 | ・日新小学校 | 飯盛 佑子 |
| ・若葉保育所 | 植村 憲子 | ・高木瀬小学校 | 伊東 尚子 |
| ・成章保育所 | 唐津 奈都紀 | ・諸富北小学校 | 井上 泰彦 |
| ・城西こども園 | 木塚 由美子 | ・赤松小学校 | 江頭 良 |
| ・和泉ふたば保育園 | 竹下 聖子 | ・思齊館小学部 | 江口 理子 |
| ・本庄幼稚園 | 時崎 裕子 | ・春日北小学校 | 岡島 健大 |
| ・川原保育所 | 中與 真也 | ・神野小学校 | 奥村 知佳 |
| ・白鳩幼稚園・白鳩保育園 | 西 幸子 | ・北川副小学校 | 川内丸 友子 |
| ・城東保育所 | 野口 聖莉奈 | ・西与賀小学校 | 中野 久美子 |
| ・西九州大学附属三光幼稚園 | 廣橋 祐子 | ・久保泉小学校 | 村山 恵子 |
| ・日新こども園 | 馬郡 佑実 | | |
| | ・佐賀市子育て支援部保育幼稚園課 指導主事 | | 古賀 陽子 |
| | ・佐賀市教育委員会教育部学校教育課 指導主事 | | 松本 佳子 |
| | ・佐賀市教育委員会教育部教育総務課 指導主事 | | 西原 宏一 |

(監修) 福岡女学院大学・大学院 坂田 和子 教授

作成委員会の様子（実践例作成中♪）



佐賀市幼保小接続期プログラム「えがおわくわく」第8版

令和2年(2020年)3月

編集・発行

佐賀市(子育て支援部保育幼稚園課)

〒840-8501 佐賀県佐賀市栄町1番1号

TEL:0952-40-7290 FAX:0952-40-7395

E-Mail:hoiku@city.saga.lg.jp

URL:<http://www.city.saga.lg.jp/>

